



令和7年度

学社融合推進協議会活動報告集



令和8年3月

田辺市教育委員会

はじめに

日本全体で人口減少が続く中、当地方においても、急激な過疎化の進行、少子高齢化、グローバル化など、社会環境が大きく変化する中で、価値観やライフスタイルの多様化を背景に、地域におけるつながりの希薄化による地域や家庭の教育力の低下、家庭の孤立化など様々な課題が指摘されています。

このような状況の中、田辺市教育委員会では、平成 19 年度から最重点項目の一つとして「学社融合の推進」を位置づけ、学校と公民館が連携・協力し、それぞれの地域の特色を生かしながら、地域全体で子供たちを育てる取組を継続・拡充してきました。更に、平成 30 年度には、学社融合の取組を発展させる形で「田辺市学社融合推進協議会」を設置しました。それぞれの学社融合推進協議会では、学校や地域の課題を様々な視点から出し合い、その課題をどのような手立てで解決していくかということを熟議し、そして課題解決に向けて協働して、学校や地域の実態に応じた創意工夫ある試みを実施してきました。

そのような中、学社融合推進協議会が発足して 8 年目となる今年度も、昨年度に引き続きこの「学社融合推進協議会活動報告集」に収められているような、地域の特色を生かした工夫ある取組を一層発展させた実践活動を創出していただきました。

毎年恒例の学社融合研修会（令和 7 年 8 月 5 日 火曜日）は、講師に TETAU 事業協同組合代表理事の山本賢氏を招聘し、『『キミは、何がやりたい』上富田中学生と保護者と地域で取り組んだ 90 日～人とひとつながる しゅくみをつくる～』と題して、講演及びワークショップの 2 部構成で開催されました。参加者（学社融合推進協議会員・公民館長・幼小中代表・市内各中学校生徒代表）は、「地域とともにある学校」「学校を核とした地域づくり」の実現に向けて、それぞれの立場から「自分は何ができるのか、自分は何をしなければならないのか。」等について思いを巡らせるとともに、事例発表及び熟議を通して連携・協働の必要性を学び合う機会となり、これまでよりも一歩前進した研修会となりました。

今後も、全ての園・学校と公民館・地域が連携・協働して、学社融合推進協議会の一層の充実を図っていただきますことを心から願っております。

令和 8 年 3 月

田辺市教育委員会 教育長 野 田 泰 輔

目 次

[小学校]

田辺第一小学校	1
田辺第二小学校	3
田辺第三小学校	5
芳養小学校	7
大坊小学校	9
稻成小学校	11
会津小学校	13
新庄小学校	15
新庄第二小学校	17
三栖小学校	19
長野小学校	21
上秋津小学校	23
秋津川小学校	25
上芳養小学校	27
中芳養小学校	29
田辺東部小学校	31
龍神小学校	33
上山路小学校	35
中山路小学校	37
咲楽小学校	39
中辺路小学校	41
近野小学校	43
鮎川小学校	45
三里小学校	47
本宮小学校	49

[中学校]

東陽中学校	51
明洋中学校	53
高雄中学校	55
新庄中学校	57
衣笠中学校	59
上秋津中学校	61
秋津川中学校	63
上芳養中学校	65
中芳養中学校	67
龍神中学校	69
中辺路中学校	71
近野中学校	73
大塔中学校	75
本宮中学校	77

[幼稚園]

三栖幼稚園	79
上秋津幼稚園	81
中芳養幼稚園	83
新庄幼稚園	85

【学社融合推進協議会活動報告集】

令和7年度

各学社融合推進協議会の活動風景



明洋中学校 紀州てまりづくり



上秋津中学校 地域づくり学習



咲良小学校 花の苗植え



芳養小学校 しらす漁見学

学校・園名	田辺第一小学校	公民館名	中部公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>本校の校区は、かつての城下町の名残をとどめ、南方熊楠や片山哲などゆかりの偉人も多く、歴史と伝統にあふれる地域である。熱心に学校教育活動を支援して下さる人材にも恵まれており、教科・総合的な学習の時間を中心に、地域の教育資源を生かした特色ある取組をおこなっている。</p>			
目 標	学校・園・地域	<p>【学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々との活動を通して伝統芸能や文化にふれさせることで、地域に誇りを持つ子どもを育てる。 ・専門的で充実した活動によって、達成感や満足感を味わわせ、自主的・実践的な態度を育てる。 ・地域の人々や仲間との活動を通して、児童のコミュニケーション能力を育てる。 <p>【地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域と子どもたちとの交流の中で、互いが学び合っていることを自覚し、大人と子どもの双方からつながりを築く。 ・学校と地域が連携した活動を展開する中で、子どもたちに自分も地域の一員である自覚を持たせる。 	
	校（園）区の推進組織（組織体制図）	支援者及び支援組織	
		<ul style="list-style-type: none"> ・熊楠学（地域学習コーディネーター） ・田一小校区協議会 ・田辺観光ボランティアガイド ・地域の方々 ・保護者 	
成果と課題（学校・公民館からの視点）			
成果		課題	
学校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域とともにある学校づくりを目指し、伝統文化や偉人等について学ぶ取組を進めることができた。専門的で充実した活動によって、児童は達成感や満足感を味わうことができた。 ・学社融合推進協議会委員の方々の意見は、学校の目指す方向性への示唆に富んでいる。取組を後押しするアドバイスを頂いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員・地域住民・保護者の役割分担の明確化。 ・子どもたちに自分も地域の一員である自覚を持たせる活動の充実や工夫。 	
公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・紀州てまり、お茶、いけばな教室など地域の方が講師として授業に参加することで、児童たちが伝統文化を学ぶことができ、地域の方には、児童の様子を知ってもらうことができた。 ・今年度の地域作品展では田一小合唱部と東陽中学校合唱部がミニコンサートに参加し、地域の方々に日々の練習の成果を披露し、幅広い世代間の交流の機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーを含めた地域住民の高齢化が進んでいるため、新たな指導者や参加者を確保していくことを検討する必要がある。 ・より多くの地域の方に知ってもらえるよう、学習成果の発表方法を工夫していく。 	

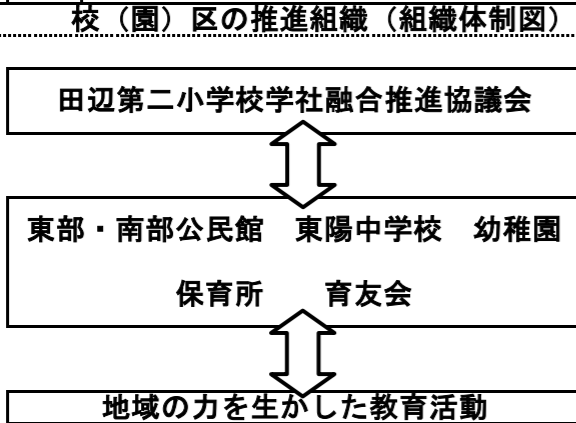
<p>今年度の取組内容 会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）</p>	
<p>○「防災について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2月開催の田辺市防災訓練では、小学校を会場として、地域合同避難訓練を行う。日常の備えや避難経路、避難場所開設時のことなど、全体で確認したい。 ・災害が起きた場合のリスクと対策について、行政が明確に示すことが、住民の安心と安全につながる。 ・本校から市役所新庁舎までの距離や移動中の様々なリスク、児童の心身等を考慮すると、授業日に地震発災の場合は、校舎4階への垂直避難が妥当である。（最終的には発災時の状況によって判断することになる。） <p>○「地域連携の近況について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域では、様々な行事や登校時の見守り、夜間巡回、子ども食堂、読み聞かせ等、子どもを支援する取組が日常的に行われている。 ・運動会では、弁慶下駄踊り等の合同種目を設け、地域、家庭、本校卒業生とその保護者等々、皆が参加して共に楽しめるように工夫し、盛会をもって終えることができた。 ・2年後の創立150周年記念行事に向け、地域、育友会、学校が三位一体となって取り組んでいく。 	
<p>特徴的な協働活動 防災学習</p>	
<p>きいちゃんの災害避難ゲーム 【1・2年生】</p> <p>田辺市防災まちづくり課のかたにご協力いただき、1・2年生がきいちゃんの災害避難ボードゲームを使って、津波避難への備えについて学習しました。日頃から備えておくべき避難グッズなどについて学ぶことができました。</p>	<p>自然災害を学ぶ（大雨・洪水） 【3・4年生】</p> <p>土砂災害啓発センターにご協力いただき、3・4年生が大雨・洪水による被害について学びました。実際に和歌山県で発生した台風による大雨・洪水の被害についてや土砂崩れなどの発生のメカニズムについて教えていただきました。</p>
<p>1回目はうまくゴールできなかったけれど、2回目はみんな避難グッズを考えたら、うまくゴールできました。</p>	<p>模型を使って説明してくれたので、どのようにして土砂崩れが起きるのかがよくわかりました。</p>
<p>自然災害を学ぶ（地震津波） 【5・6年生】</p> <p>田辺市防災まちづくり課のかたにご協力いただき、5・6年生が地震津波発生後の避難所での生活や防災グッズの使い方について教えていただきました。</p>	<p>防災教育講演会 ～災害に備えて～</p> <p>防災士の石山雅美氏をお招きし、学校・保護者・地域と合同の防災教育講演会を行いました。講演会では、避難した後の備えが大事で、これまでの災害の現状から見ても、特に衛生面に対する備えは欠かせないとお話いただきました。凝固剤とビニル袋を使った簡易トイレの作り方なども実演いただき、今後の備えに役立つ知識を得ることができました。</p>
<p>避難所での過ごし方が少しイメージできました。</p>	
<p>大人も子どもも地域作品展</p> <p>小学校体育館にて、公民館主催の「大人も子どもも地域作品展」が行われました。田辺第一小学校も全児童の絵画や6年生の作品（紀州手まり）を展示し、多くの地域の方に見ていただくことができました。今年は、田辺第一小学校と東陽中学校の合唱部による発表もあり、会場は大いに盛り上がりしました。</p>	

学校・園名	田辺第二小学校	公民館名	東部、南部公民館
-------	---------	------	----------

学社融合における学校・地域の様子

本校は「地域活動に参加し、ふるさとを愛する子どもを育てる」を教育目標のひとつに掲げ、本校区にある東部公民館と南部公民館との連携を図りながら学社融合の取り組みを進めてきた。東部公民館区小・中学校作品展への作品出品、中学校及び地域との地震津波避難訓練の実施、本校校内音楽会への中学校合唱部・吹奏楽部の参加、公民館主催行事（バスピン大会やなんぶフェスティバル等）に取り組んできた。また、各学年、生活科及び総合的な学習の時間に、公民館や地域の方々等のご協力を得ながら、地域に出かけたり、ゲストティーチャーとして来校していただいたりして、地域学習、福祉体験学習、歴史学習等に取り組んできた。

目 標	学校・園・地域	○自分たちが住む地域のよさを知り、ふるさとを愛する児童を育てる。またその学習の中で調べる力・協力する力・表現する力を身につけさせる。 ○自分たちでは調べられないことをゲストティーチャーに教えていただき、聞く力・まとめる力を育てていく。 ○南海トラフ巨大地震の発生が懸念される中、沿岸部に位置する本校にとって防災安全学習への取組を充実させることは大変重要である。これらの活動を通して、主体的な判断力と行動力をもつ児童を育てる。 ○子どもたちと地域の方々の交流の橋渡し役となる。（公民館） ○地域の良さを伝えることで、子どもたちとの交流を楽しむとともに、自分たちも地域について見直す機会とする。（地域）
	校（園）区の推進組織（組織体制図）	支援者及び支援組織



- 東部公民館
南部公民館
田辺市防災まちづくり課
田辺市社会福祉協議会
交通安全指導委員会東部小隊
闘雞神社
神楽神社
地域にお住まいの皆様方

成果と課題（学校・公民館からの視点）

成果	課題
----	----

学校	○田辺市の防災訓練と重ねて家庭からの避難訓練や防災学習を実施することができた。学校だけでなく地域と一体となって防災意識を高めることができた。 ○「児童の健全育成」をテーマに地区懇談会を開催した。今年度より会場を田辺第二小学校に変更し、昨年度より沢山の地域保護者の皆さんに出席していただいた。	◇今後発生が予想される災害に対しての減災意識の向上や主体的に判断し行動できる力も育成できるようにしていきたい。 ◇子どもたちが地域の一員として主体的に活動できるような取組を行っていききたい。
----	--	--

公民館（地域）	○例年開催している「ふれあいバスピン大会」では、小学生や中学生、高校生、保護者世代、高齢者までの幅広い世代の方々が大いに参加し、世代を超えたスポーツ交流につながることができた。又、大会運営には子どもクラブの保護者や公民館の体育委員など地域住民が参画し、子どもを軸とした地域交流へとつながっている。 ○「東部公民館区小・中学校作品展」や「なんぶフェスティバル」では、子どもたちの作品を一堂に展示し、日頃の学習の成果を地域と共有することができた。	◇7月22日に行われた地区懇談会「田二つ子を育てる会」では、学校関係者・児童の保護者・地域住民・関係機関が田辺第二小学校に集まり、「『児童の健全育成に向けて』～子どもの安心安全・生活習慣について考える 学校・家庭・地域ぐるみで取り組もう～」をテーマに、今の子どもたちの状況や子どもたちを取り巻く環境等について話し合われた。初めて顔を合わせた人同士でも、それぞれの立場から様々な意見が共有され、非常に有意義な懇談会であった。今後も継続して参画していきたい。
---------	--	---

今年度の取組内容
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

【地区懇談会（田二つ子を育てる会）について】
 沢山の地域保護者の皆さんに出席していただけるように地区懇談会の会場を田辺第二小学校に変更してはどうかというご意見をいただいた。地区懇談会を田辺第二小学校で7月22日（火）に開催し、昨年度より多くの総勢85名の皆さんに参加をいただいた。

【田辺市防災訓練について】
 2月1日（日）の田辺市避難訓練の日を授業日とし、各家庭で各地区の避難場所や各家庭で決めている場所に避難し、その後地域の方々や中学生と一緒に学校で防災学習を実施することができた。地域と一体となって防災意識を高めることができた。

特徴的な協働活動

発見!町の仕事名人【3年生】



アセロラフーズ

3年生は、11月に地域の仕事名人の方々（北本商店、三浦置店、碓井商店、七福堂、アセロラフーズ）を訪れた。仕事の内容や技術だけでなく、仕事への思いや地域に対する願い等についても学ぶことができた。地域の良さや特徴に気づき、それらを支える人々の工夫や努力について知ることができた。
 また、帰校後は、質問して分かったことや発見したことを、グループごとに模造紙にまとめ発表会を開いた。
 最後に、感謝の気持ちをまとめ、それぞれの仕事名人に届けることができた。



碓井商店



三浦置店

【児童の感想より】
 ・ジャムにはいろいろな種類があることを教えてもらいました。ジャムを一日に2000～3000個つくっていることにびっくりしました。
 ・たたみを作っているところや切っているところ、ぬっているところを初めて見ることでとてもうれしかったです。
 ・お店をひらいて150年なことや、毎日13時間も仕事をしていることがすごいいいと思いました。見学でいろいろなことを知ることができてうれしかったです。
 ・こんにやくを作っているところや機械を見せてもらい勉強になりました。卵を簡単に割る機械がすごかったです。
 ・田辺っ子のクリームがバタークリームだと初めて知りました。手作業が多くてすごいいいと思いました。

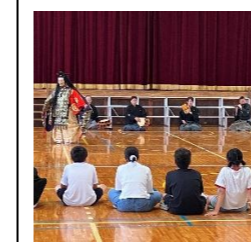


七福堂

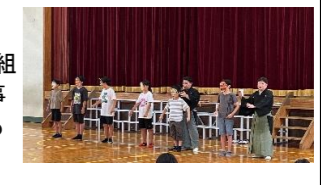


北本商店

再発見!ふるさと田辺【6年生】



6年生の総合的な学習の時間（トライタイム）に地域の偉人や遺産について調べ、学んだことを語り継ぐ「語り部活動」に取り組んでいる。本年度は、「学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業」で能楽を鑑賞し、能面体験や楽器体験（囃子）をして歴史ある能について学ぶことができた。



地域の方々との心のつながりを大切に

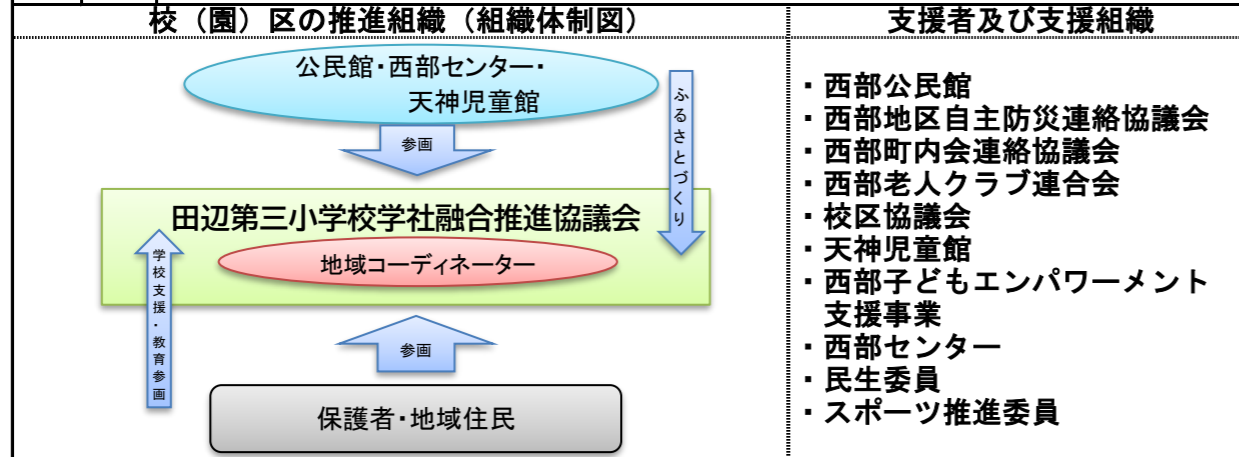


扇ヶ浜公園のトリムコースで実施した校内持久走記録会は、保護者にも運営に協力していただいた。顔を真っ赤にして一生懸命に走る子どもたちに、大勢の地域の方々からご声援をいただいた。
 また、校内音楽会や合唱部のふれあいバスピン大会、校内バスピン大会でも、地域の方々からのあたたかい声援が子どもたちの励みになった。これからも、地域の方々との心のつながりを大切にし、連携して子どもたちの学びや愛郷心を育てていきたい。

学校・園名	田辺市立田辺第三小学校	公民館名	西部公民館
-------	-------------	------	-------

学社融合における学校・地域の様子
 本校は、田辺第三小学校学社融合推進協議会を中心として、西部公民館、西部センター、天神児童館「西部エンパワメント支援事業」等と協働・連携しながら各種事業に取り組んでいる。本校区内では、人口減少や少子高齢化が進行している。また、町内会や老人会の担い手不足という課題もある。地域社会との関わりを推進し、地域の一員であるとの自覚を持つ児童を育成していくことは、たいへん重要であると共に大きな課題である。そのため、地域を知り、地域に興味・関心を持って活動を行うことを大切に、地域に出かけ、体験的な活動を通して積極的に交流を図るようにしている。

目 標	学校・園・地域 ①子どもたちの自尊感情を高めていき、教育をよりよいものとする。 ②地域の教育力を向上させ、郷土愛を育てる。 ③学社融合（生涯学習）を推進し、更に充実する。 ④「地域の子どもは、地域とともに育てていく。」という意識を更に高める。 ⑤学社融合事業をさらに地域に浸透させていく。
-----	---



成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	<ul style="list-style-type: none"> 産業や防災、自然環境など地域の多様な方や関係機関の協力を得て、学習の効果を高めることができた。 地域の方々との学習や交流を行うことにより、地域に対する愛着も育ってきている。 昔の遊びや昔のくらしの学習では、ゲストティーチャーの確保が難しいところではあるが、協議会のバックアップのもと、多方面から協力いただき、実施することができた。 学習発表会では、地域学習の成果を広く伝えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「昔の遊び会」「昔のくらし学習会」ではゲストティーチャーのなり手が減ってきている。 避難所運営についての学習を少しずつ深めながら進めているところである。次年度は田辺市防災訓練に向けて、カリキュラムを策定していきたい。
公民館（地域）	<p>「西部花いっぱい運動」「グラウンドゴルフ」「昔の遊びにふれよう（天神児童館まつり）」では、西部老人クラブ連合会の協力により、世代を超えた交流を図ることができた。また、「クリーン大作戦」では、児童と地域の方々が一緒になって、校区のゴミを拾って回った。</p> <p>さらに、「天神児童館まつり」では、児童の作品を展示し、地域の方々に観ていただくとともに、併催の「西部人権の集い」では、児童による人権作文を発表した。</p>	<p>事業には西部老人クラブ連合会をはじめ多くの方々にご協力をいただいているが、高齢者が多く健康上の理由などにより辞退される方も増えている状況である。</p> <p>また、昔の遊び等を知る方（教えることのできる方）も減っている中、知識や経験の継承が難しくなっている。</p> <p>こうした状況の中で、新たに協力していただける方の発掘が課題である。</p>

今年度の取組内容
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

○授業参観を通して、子どもの様子を共有し、協議を行った。

○主な協議内容について

- 子どもたちはとても積極的に学習していた。
- 低学年から学習用パソコンを上手に使っていて、とても驚かされた。
- 多岐にわたる学習、活動内容で、たくましい児童が育ちそうだと感じた。
- 天神崎募金で新しい看板ができた。たいへんよい活動であると思う。今年度もぜひ取り組んでいただきたい。
- いろいろな地域学習を通して、地域に対する愛着が育ってきていると感じている。夏の津波警報による避難所設営では、卒業生が何か手伝えることはないかと来てくれた。地域を守るという意識が育ってきている。



特徴的な協働活動

天神崎募金

5年生：地域の宝「天神崎」のために

【子どもの思いから】

「地域の宝である天神崎を大切にするために、自分たちにもできることはないだろうか。」そんな子どもたちの思いから始まった天神崎募金。

地域の商店等にもご協力いただき、募金活動を行った。子どもたちは、少しでも募金が増えるためには・・・と考え、募金を呼びかけるポスターを作成したり、みんなで声をそろえて「天神崎のために募金をお願いします！」と呼びかけたりと、積極的に活動していた。

これまでの活動で、天神崎にライブカメラや眺望のための石のベンチ、新しい案内板が設置されている。



うえのやまチャレンジデー

様々な体験活動

子どもクラブやPTA役員、紀南に防災を広め隊の方などにご協力いただき、様々な体験活動を行った。子どもたちは思い思いに活動を楽しむとともに、子ども同士や地域の方々との交流を深めた。



PTA役員による工作教室



エコバッグ作り



防災ストラップ、防災ランタン作り



科学教室



子どもクラブ

学校・園名	田辺市立芳養小学校	公民館名	芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子			
平成19年度より子供の健全育成と放課後の居場所づくりを目的に取り組み始めた「ふれあい教室」や、平成20・21年度には芳養小学校・芳養公民館が市の指定研究を受けたことが、学社融合の先駆けとなった。その成果が脈々と受け継がれ、現在に至っている。講師の方の高齢化や職員の異動により、地域の教育力を生かした授業実践がやや縮小されているが、「地域とともにある学校」としての意識を常にもち、学校と公民館が連携した取組を進めている。また、生活科や国語科、書写、総合的な学習の時間などの授業においても地域の方をゲストティーチャーとして参加していただいている。			
目 標	学校・園・地域 ○学校・家庭・地域の連携と教育力の向上を図るとともに、児童の健全育成を目指す。 ○保護者や地域の方々との触れ合いを通して、児童のコミュニケーション能力を育むとともに、地域を大切に作る心を育てる。 ○地域の教育力を生かし、学校の授業や活動を支援することで教育内容の充実を図るとともに、地域活性へと繋げる。 ○地域の方々が学校や子どもたちの様子を知ること、今後の地域づくりに生かす。		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
		<ul style="list-style-type: none"> ・芳養公民館 ・町内会 ・芳養児童センター ・芳養校区子どもクラブ ・ふれあい教室実行委員会 ・芳養校区補導委員会 ・更生保護女性会 ・民生児童委員 ・交通指導委員 ・育友会 ・地域の方々 	
成果と課題（学校・公民館からの視点）			
成果		課題	
学校	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館や関係機関と連携・協働し、地域の人的・物的資源を活用することにより、学校単独では実現が難しい活動を実施することができた。 ・地域にある漁港で行われている「しらす漁」について社会科の学習と関連付けて学ぶことによって、学校と地域双方にメリットのある活動とすることができた。 ・ふれあい教室を通して、地域の方と交流する機会をもったことで、地域のお祭りなど学校外でも、子どもたちから地域の方に積極的に話しかける姿が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい教室の講師先生の高齢化が進んでいる。そのため、来年度以降、公民館と協力して、人材の新規開拓にも取り組んでいく必要がある。 ・昨年度に引き続き、ふれあい教室に参加している高学年の割合が減少傾向である。そのため、高学年の参加を呼びかける取り組みを進める必要がある。 ・勤続年数の短い教員が増加し、地域資源を生かし切れていない。公民館主事と連携を密に取り地域人材と協働し、取組を毎年ブラッシュアップしていく必要がある。 	
公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい教室に、講師1名と協力者2名が新たに加わった。 ・地域の方々が授業や放課後のふれあい教室に積極的に参加・協力してくれていることから、公民館行事でも芳養小学校の子どもたちと地域の方々が親しく声を掛け合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい教室の講師や協力者の高齢化が進んでいる。そのため、来年度以降も人材の確保・育成や新たな教室の開拓に取り組む必要がある。 ・授業やふれあい教室の活動について、地域の方々や保護者など、より多くの方々に協力していただけるよう、学校と公民館の情報交換などの連携を強めていきたい。 	

今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
第1回協議会 令和7年6月3日（火）実施 ◎芳養小学校の経営方針について説明とスクールプランの承認 現状1 各学年1学級・・・1つの学級の人数が非常に多い小規模校になった 現状2 経験年数の浅い若手教員が占める割合が高い 現状1・2より、みんな掛かりの学校運営が必要 →教科担任制の推進（学校をウチに開く）と地域人材・資源の活用（学校をソトに開く）を2本柱にした経営の実施 ◎小学校でどのような教科担任制を実施しているのか？ 小規模校でのメリットとデメリット ◎家庭での自主学習の推進と読書量増加につなげるための取組について 環境に左右されず、自律的に学び続ける力をつけることが中学校での学習にもつながる。スマホやタブレットが身近になるにつれ、読書離れが進んでいる状況にある。読書量と学力には相関が見られることもあり、改善が必要。	
第2回協議会 令和8年2月実施予定 令和7年度の取組の成果と課題、学校評価アンケート結果について	
特徴的な協働活動	
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度もふれあい教室は6教室（かきかた、花アレンジ、キンボール、俳句、読み聞かせ、将棋）で実施していくこととなった。 ・今年度新たに芳養漁港の皆さんと協力のもと、「しらす漁見学」を5年生を対象に実施した。 	
<p>しらす漁の見学だけでなく、田辺市農林水産部 水産課の方々にも協力いただき、田辺市の漁業についての話を芳養公民館でしていただいた。子どもたちにも分かりやすい内容で、話に出てきた道具等がその後のしらす漁見学で実際に見ることができ、子どもたちにとって有意義な体験となった。</p>	

学校・園名	田辺市立大坊小学校	公民館名	芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子 本校区は大坊・団栗の二地区からなり、その住民の多くは柑橘・梅栽培を中心とした専業農家である。平成31年3月、地域の長年の願いであった新校舎が完成し、より一層地域の総合センターとしての役割が求められている。地域のつながりは深く、学校の教育活動に対しても大変協力的である。運動会や各行事において、各団体に協力していただきながら取組を進めている。			
目 標	地域とともにある学校 ～学校は地域の未来を創る～ 大坊小学校学社融合推進協議会は「地域とともにある学校」を目指し、「学校は地域の未来」となれるよう、各専門部会を核とした実践的な取組や活動を進めている。		
	具体的目標 目標1：地域人材を生かした「学校力の向上」 目標2：地域人材を生かした「学校環境の向上」 目標3：小学校を活用した「地域力の向上」		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
学社融合推進協議会親部	学習支援部 目標1：地域人材を生かした「学校力の向上」 取組の柱 ①学習支援 ②家庭教育の支援	・大坊小学校育友会 ・大坊小中学校校区協議会 ・大坊区 ・団栗区 ・地域老人会（白楽会） ・両区青年団 ・大坊女性会	
	環境整備部 目標2：地域人材を生かした「学校環境の向上」 取組の柱 ①環境整備 ②登下校の安全対策		
	地域活性化部 目標3：小学校を活用した「地域力の向上」 取組の柱 ①学校行事への参画 ②学校施設の地域への開放		
成果と課題（学校・公民館からの視点）			
学 校	成果 ・ふるさと学習では地域の方から直接地域のことについて教えていただいた。それぞれの学年が、昔の学校や地域の産業、神社の歴史について学んだことを学習発表会で地域の方に伝えることができた。ふるさとの先人や地域について考える良い機会となった。 ・みんなの作品展への出品や、しめ縄作り等の活動で、地域の方々との交流や学びの場を得ることができている。 ・それぞれの活動からふるさとの良いところを見つけ出せている。	課題 ・計画どおり実施することができなかったものもあり、時期の見直しや早めに計画に沿った指導が可能な人材の確保が必要であった。 ・学習発表会だけでなく子どもたちから地域の方々に学んだことを伝えたり、感謝の気持ちをしっかりと届けられたりするように取り組んでいきたい。	
	公民館（地域） ・公民館報を通じて、学校の取り組みや子どもたちの様子を地域の方々に伝えることができた。 ・学校と地域が交流することで、地域の方々同士の世代を超えた交流が深まった。	・学校と地域の方々との交流・連携を維持することが課題であるため、学校の様子を継続して周知していきたい。	

今年度の取組内容
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

4/24 全体会

- ・本校のスクールプランをもとに学校経営方針について説明を行った。
- ・本年度の取組・運営について話し合い、それぞれの専門部で話し合った内容を実行できるように確認した。
- ・意見交流では、青年団中心に参加人口が減っているため、子どもたちが祇園神社の神事の見学ができるように下校時刻等の変更等を検討する。
- ・中学校への危険箇所を確認。行政へ報告を行った。

4/24 専門部（活動計画作成）

『学習支援部』

- ・ふるさと学習・クラブ等の学習支援への人材探しを行う。

『環境整備部』

- ・昨年度に引き続き奉仕作業日に畑や校舎周りの草刈りを行う。
- ・随時畑作業の手伝いを行う。

『地域活性化部』

- ・地域住民が交流する機会を作っていく。地域の行事に子どもを参加させたい。

『学習支援部』

○ふるさと学習への協力やクラブなどで地域人材を生かした学習を行えるよう、地域と学校をつないだ。



ふるさと学習

地域の方をゲストティーチャーに招き、低学年は昔の大坊小学校について、中学年は梅の栽培体験や梅を使った料理などの作り方、高学年は祇園神社について教えていただいた。学習発表会では、教えていただいたことをまとめ、発表した。




『環境整備部』

○7月26日に敷地内の草刈りや校内の窓拭き作業などを行い、児童が安全に学習ができるよう環境整備をした。

○畑の獣害に対応できるよう、ネットを張った。




クラブ活動 ～絵手紙教室～

地域の方から絵手紙のかき方を学び、かいた作品は芳養公民館作品展に出品して披露することができた。




『地域活性化部』

○7月7日の午後を休校にして、地域のまつりである祇園神社のまつりに小学生が参加ができるようにした。



しめ縄づくり

白楽会の皆さんを中心にしめ縄の作り方を教えていただいた。日本や地域の伝統を受継ぐ貴重な体験ができた。



学校・園名	田辺市立稲成小学校	公民館名	稲成公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>当地域では、学校と公民館、地域の代表者が中心となり、学社融合を推進している。</p> <p>今年度は稲成小学校150周年を迎え、公民館・地域・25年前に稲成小学校に在籍していた卒業生の代表で150周年実行委員会を立ち上げ、150周年記念式典の実施に向けて密に打合せを行ってきた。当時の在校生が集まって行ったタイムカプセル開封式にも、2ヶ月後にいった150周年記念式典にも大勢の関係者が集まり、盛大な式典の中で稲成小学校の150周年を祝った。</p>			
目 標	学校・園・地域	<p>〈学校の目標〉</p> <p>①農業支援ボランティアとの連携を通して、地域学習及び農業体験学習の充実を図る。</p> <p>②図書ボランティア活動を継続することを通して、児童の読書意欲を喚起する。</p> <p>③交通安全ボランティアとの連携を通して、より安全な登下校指導体制を構築する。</p> <p>〈地域の目標〉</p> <p>①学校教育に関わることで、地域の子どもたちとの良好な信頼関係を結ぶ。</p> <p>②ふるさと学習を支援することで、地域の歴史や文化を語り継ぐ。</p> <p>③子どもたちが安全に登下校できるように支援する。</p>	
	校（園）区の推進組織（組織体制図）	支援者及び支援組織	
		<ul style="list-style-type: none"> ・稲成校区協議会 ・稲成公民館運営協力委員会 ・稲成町内会 ・むつみ町内会 ・稲成愛郷会 ・稲成小学校育友会 ・民生児童委員会 ・150周年実行委員会 	
成果と課題（学校・公民館からの視点）			
学校	成果	課題	
	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会を9月実施から10月実施に変更することで、児童の負担を軽減することができた。 ・150周年記念式典は、公民館や町内会、実行委員会と密に打合せを行うことで、盛大に開催することができた。 ・登校時の交通安全については、公民館や地域の協力を得て、サイン+サンクス運動の取組を進めることができた。 ・学社融合推進協議会の委員さんと交流することを通して、学校行事の取組や児童の日々の学習の様子について理解していただくことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会の春開催がスムーズに実施できるように育友会や地域との連携を図る。 ・ふれあい文化祭は今後も地域との連携を図りながら、児童の学びにつながる取組を進める。 ・行事の精査、内容の更新をしながら、持続可能な教育活動を意識した取組を進める。 ・新しい文化的・人的資源の情報収集に努め、地域に根ざした教育活動をさらに推進していく。 	
公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の運動会は小学校の運動会と併催し、児童と地域の方が交流できる地域種目を2種目実施する予定であったが、荒天による延期により、地域種目については中止となった。 ・稲成・むつみふれあい文化祭は、小学校の学習発表会と同日に開催（午前学習発表会・午後文化祭）し、高雄中学校吹奏楽部と清姫太鼓の演奏を児童と地域の方が一緒に観覧した。また、最後には餅まきを一緒に楽しんだ。 ・公民館で実施した稲成町の敬老行事では、小学校の児童から高齢者へ手紙を書き、出席者全員に配布し、喜んでいただいた。 ・2年生が公民館を訪問し、施設見学とQ&Aを行い、地域施設について学んでいただいた。 	<p>常に実施してきた事業を検証して課題を洗い出し、必要に応じて改善を加え、事業をより良いものにしていく。</p> <p>特に学社融合に関するものについては、学校・保護者・地域などと連携し、地域性や時代の流れに合わせた形での事業実施を検討していく。</p>	

今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
<p>【稲成小学校150周年記念式典について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・25年前のタイムカプセルの開封と新しいタイムカプセルの封入は別日に実施する。 ・タイムカプセル開封式は、遠方に住む当時の在校生が足を運びやすいように、3連休の中の日となる創立記念日前日に実施する。 ・タイムカプセル封入式はふれあい文化祭の日に実施する。 ・開封式の案内や広報、出欠確認は学校と公民館が行い、当日の運営は150周年実行委員会が行う。 ・封入式では現在の在校生が作文発表をする場面を作る。 ・25年後のことを考えて、タイムカプセルは地中に埋めずに学校で保管する。 <p>【運動会の実施時期について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会の開催時期を現在の秋開催から春開催へと移行する。 ・5月下旬になると梅農家が忙しくなるのでできるだけ早めた方が良い。 ・保護者への周知を図った上で、一度実施してみても良い。 	
特徴的な協働活動	
<p>今年度は稲成小学校150周年を迎え、育友会、地域、25年前の在校生代表の方々と密に連携を図りながら、150周年記念式典が盛大に開催できるよう取組を進めた。</p> <p>まず、稲成小学校創立記念日の前日に25年前の在校生を招待し、タイムカプセルの開封式を行った。開封式では、100名以上の卒業生が稲成小学校に集まり、昔を懐かしんだ。そして、11月のふれあい文化祭では新しいタイムカプセルの封入式を行った。先に開封式の様子を動画で視聴し、その後、各学年の代表者が全校児童の前で「25年後の自分へ」書いた手紙を披露した。</p> <p>また、150周年記念ということもあり、午前中に行われた学習発表会では各学年が稲成や田辺に関わる学習についての発表や演劇を行った。地域の方々からの学びを表現することが、児童の知識を深め、豊かな心を育むとともに、地域を知り、地域に対する愛情を育てることにもつながると考える。</p>	
タイムカプセル開封式の様子	
タイムカプセル封入式の様子	
学習発表会の様子	
<p>今後も、日々の教育活動を実践していく中で、『地域とともにある学校づくり』や『学校を核とした地域づくり』を目指していきたい。</p>	

学校・園名	田辺市立会津小学校	公民館名	秋津・万呂公民館
学社融合における学校・地域の様子 会津小学校は、現在428名の児童が通学しており、保護者(育友会)、校区協議会、公民館、子ども会、老人会等、地域の各種団体との連携・協力を得ながら様々な教育活動に取り組んでいる。毎年、「会津さわやかコンサート」「合同作品展」等の各団体との連携・協力を行った活動に取り組むことができている。また校区内の道路は狭い上に交通量が多いため危険な箇所も多いが、地域ボランティアによる「登下校の見守り活動」が行われていることもあり、子どもたちは安全に登下校できている。常に地域で積極的に子どもたちを見守り、育む活動が展開されている。			
目 標	学校・園・地域	【学校】 様々な世代の、多くの地域の人々との交流を通して ・地域の伝統や文化とそその地域に住まう人々を大切にし、感謝する心を養う。 ・言葉や行動によって進んで表現しようとする意欲を養う。 ・発表や作品の観賞を通して相手の気持ちや思いを感じられる心を育てる。 【地域】 ・公民館活動を通じて学習した成果発表の場を提供する。	
	学校(園) 区の推進組織(組織体制図)	支援者及び支援組織	
		会津小育友会 会津校区協議会 秋津公民館 万呂公民館 会津スポーツクラブ	
成果と課題(学校・公民館からの視点)			
成果		課題	
学校	校区協議会主催の「会津さわやかコンサート」は、育友会や町内会役員の協力を得て開催することができた。また今年度も高雄中学校の吹奏楽部にも参加いただき、地域一体となった盛り上がりのある演奏会となっている。参観いただいた保護者や地域の方々から、今後も継続して取り組んでほしいという感想をいただいている。 5年生「防災タウンウォッチング」では、校区内の危険箇所を実際に見学することで、地域についてより詳しく学ぶことができている。	校区協議会の皆さんの協力により、地域のパトロールや各行事を実施することができている。今後も継続して実施できるような時代にあった内容を検討しながら、持続可能な活動にしていきたい。 近隣の中学校では、地域課題に目を向ける取組を行っている。小学校においてもそのような学びの場を設定することも検討していきたい。今後も学校と公民館が互いに情報を共有しながら、取組をすすめていく。	
公民館(地域)	秋の「合同作品展」には、子どもや地域の方々の多くの作品が展示され、たくさんの方々に参観していただくことができた。また万呂公民館主催の作品展や秋津公民館主催の作品展にも子どもたちの作品を出品し、参観していただくことができた。 昨年度に引き続き、会津夏祭り実行委員会主催の「会津夏祭り」が会津小学校の運動場で開催された。万呂・秋津の両地区から多くの子どもたちや保護者、地域の方に参加していただくことができた。	「合同作品展」「各公民館主催の作品展」を開催した際、多くの児童や地域の方に参観していただくことができた。児童数の減少や少子高齢化などの課題はあるが、今後も学校や地域が連携しながら、継続した取組となるようにしていく必要がある。 地域の方々の中には学校に協力をいただける多くの協力者がいる。今後も児童が学ぶ機会を提供できるように、万呂公民館・秋津公民館が中心となって、ゲストティーチャー・ボランティアを探していくことが必要である。	

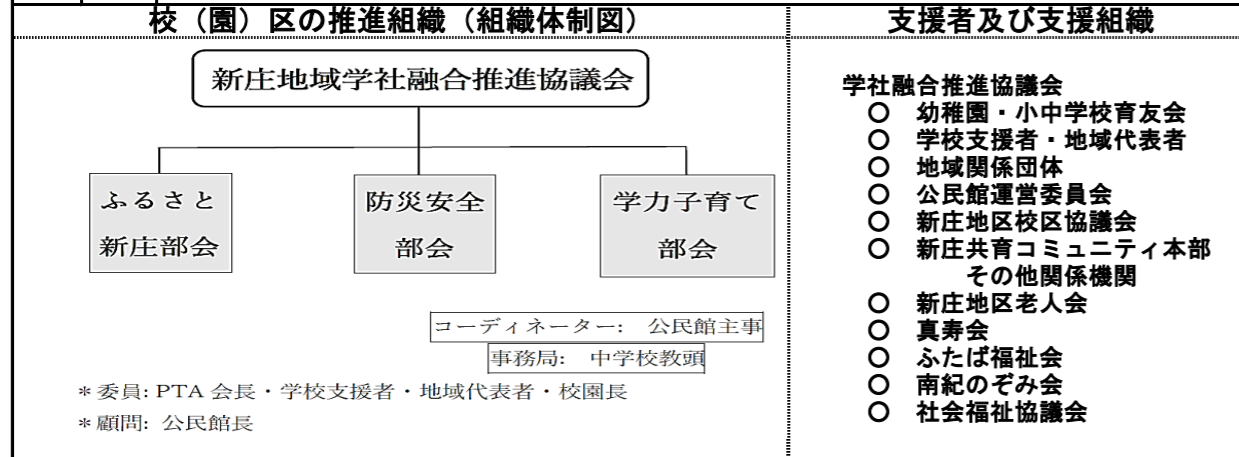
今年度の取組内容 協議で協議した特徴的な事項(学校運営協議会)	
第1回 会津小学校学社融合推進協議会 ・会津小学校学社融合推進協議会は令和7年5月19日(月)に開催され、以下のような内容の協議を行った。 【議事】 ①役員選出 ②会津小学校スクールプラン(学校運営の全体構想) ③会津小学校 地域学習および連携授業・行事等計画 ④令和7年度 収支予算書 ⑤その他 ◇地域と連携した取組について 各学年では、公民館・町内会等に協力を求めながら、「昔遊び」「地域学習」「防災タウンウォッチング」などを計画し実施している。今後も継続した取組ができるように、公民館主事に相談しながら、ゲストティーチャーやボランティアを探していくことが大切である。 ◇地域全体で児童・生徒の育成をめざす 令和6年度から会津夏祭り実行委員会主催の「会津夏祭り」が開催されている。幅広い年代の人が会津小学校に集まり、祭りを楽しんでいた。今後も地域の人が大勢参加してもらえるように、持続可能な取組にしていかなければならない。そして、地域づくりに小学生や中学生が参加できるように、地域で児童生徒の育成をめざす必要がある。	
特徴的な協働活動	
会津夏祭り 令和6年度から会津夏祭り実行委員会主催の「会津夏祭り」が会津小学校の運動場で開催されている。以前は「秋津・万呂盆踊り大会」という名称で、別会場で実施されていた。しかし、「秋津・万呂両地域の住民が、地域を超えて交流する場所をつくり、地域活性化へと繋げる」を目的にし、今年度も会津小学校の運動場で開催した。 今年も多くの子どもたちや保護者、地域の方々が参加した。町内会・公民館サークル団体・育友会などが夜店を出店してくれたので、参加した皆さんが楽しむことができた。また、地域の方々と一緒に盆踊りを楽しむ児童の姿が昨年よりも多く見られた。	
会津さわやかコンサート 今年度も会津校区協議会主催の「会津さわやかコンサート」を開催し、多くの保護者や地域の方々に参加していただくことができた。各学年の合唱・合奏、合唱部の演奏に加えて、高雄中学校吹奏楽部の演奏を披露することができた。「会津さわやかコンサート」を毎年楽しみにしてくれている地域の方も多く、会場全体が一体となる演奏会となった。	
2年 町探検 今年度も、1学期に校区内の町探検(お店見学)を実施した。校区内には多くのお店があり、それぞれ働いている人の工夫や苦労について学べるこの学習はとても良い機会となっている。 2年生はお店で働く方々に初めてインタビューをして、地域のお店についてたくさん学ぶことができた。	
5年 防災タウンウォッチング 秋津町内会、万呂町内会長、公民館主事に協力いただきながら、「自分たちの地域の防災について学ぼう」をテーマに学習した。地域の自然や地理について詳しく教えていただきながら、実際に校区内の危険箇所を見学した。地域の方々から地域防災について教えていただくことができた。	

学校・園名	田辺市立新庄小学校	公民館名	新庄公民館
-------	-----------	------	-------

学社融合における学校・地域の様子

新庄地域では「共育コミュニティ」の研究指定を機に、学校と公民館が連携して学社融合を深化させてきた。そして、平成30年度からは幼稚園・小中学校が公民館と連携しながら地域全体で「学社融合推進協議会」を設置し、保護者や地域の皆さんの意見を取り入れた学校運営を進めている。また、各園・学校単位で学社融合推進委員会を設置し、園・学校ごとの取り組みも進めている。

目 標	<p>田辺市新庄地域学社融合推進協議会会則 第2条（目的） 協議会は、保護者及び地域住民等の学校運営への参画や、保護者等による学校運営への支援・協力を促すことにより、学校と保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善や園児児童生徒の健全育成に取り組むものとする。</p>
	<p>本校における学社融合の目標 地域の祭りや行事等への参加と、地域の伝統産業の調べ学習、地域の福祉施設との交流等を通して、伝統文化を継承するとともに、地域を愛する心を育てる。</p>



成果と課題（学校・公民館からの視点）

<p>学校</p> <p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度も、公民館や諸団体、地域の方々からのご協力の下、多くの体験活動を実施することができた。 ・各学年の学習内容に合わせて、地域の方をゲストティーチャーとして迎え、体験活動を行った。その中でこれまで感じることのなかった魅力や気づかなかった発見があった。こうした活動を通して学校と地域との交流を図ることができた。 ・地域と学校の相互の教育力を活用し、子供たちの学びに活かすことができた。 	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度、本校は150周年を迎える。このことを機に、より一層地域との連携を図っていききたい。150周年に合わせ、各学年の実態に応じた学校や地域の学習を行い、愛校心や地域を愛する心を育てていけるようにしたい。 ・今後も持続可能な活動となるよう、教科との関連を意識した取組を進めていくとともに、職員間での情報の共有や内容の共通理解を図る必要がある。 ・効果的な内容となるよう、学校と公民館と情報交換をしながら、連携を進めていく。
---	---

<p>公民館（地域）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぎおんさんの夜見世」について、公民館を通じ地域の方がゲストティーチャーとして学校に出向き、学習会を行った。学習会では、江戸時代から続くこの行事の歴史と作品作りを伝えながら、学校と地域の交流を図ることに成功した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでゲストティーチャーを務めてこられた方が、1名都合により次年度は依頼できなくなった。今後も学習会を安定して開催していくためには、高齢化も考慮しながら人選の必要がある（近年ゲストティーチャーを務められた方は2名）。
---	--

今年度の取組内容
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

◇学力子育て部会
新庄地域の子供たちの学力向上に向けた取組を会としても進めていく。今年度は久々に教育講演会を実施することとなった。11月26日（水）、小児発達博士 西田千寿子先生を招聘し、「こどものレジリエンスと学び続ける力を育むために～心のしなやかさが学力の底上げを支える～」をテーマにご講演いただいた。教員、保護者、地域等から30名ほど参加し、子供たちへの関わり方について学んだ。

◇ふるさと新庄部会
1月10日（土）に小中学生と保護者を対象に新庄地域津波碑を巡るスタンプラリーを計画。新庄地域の自然や歴史、文化に触れ、より新庄を愛し保全していこうという意識、防災に対する意識を根付かせていきたい。

◇防災安全部会
1月17日、新庄幼稚園、新庄小学校、新庄第二小、新庄中学校そして新庄地域が合同で防災訓練を行う。新庄中学校、Big-U、清浄館の3カ所の避難所に分かれて、地震、津波、大規模火災発生からの危機回避行動訓練並びに避難所開設訓練を行う。



特徴的な協働活動

「お琴体験」（5年生）

公民館活動「箏サークル」の皆さんと尺八奏者の方をお迎えし、箏体験をした。箏の楽譜の見方や演奏の仕方を教わり、「さくら さくら」に挑戦した。弦をはじききれいな音を出すことが難しく苦労していたが、練習を楽しんでいた。サークルの皆さんには、教科書に載っている「春の海」（作曲：宮城道雄）を演奏していただいた。すっかり和楽器の魅力にはまっていた。



「昔遊び体験」（1年生）

老人会の皆さんに学校にお越しいただき、一緒に昔の遊びを楽しんだ。こま回しや竹とんぼは初めて挑戦する児童も多かったが、おじいさんやおばあさんに優しくコツを教えていただき、少しずつできるようになっていった。最後にみんなでお礼に歌を披露し、喜んでいただいた。

【児童の感想】
・こまの回し方を教えてもらって、コツが分かったのがうれしいです。
・お手玉の片手で回すのが難しかったです。両方の手を使うと、「じょうず。」と言ってもらえました。

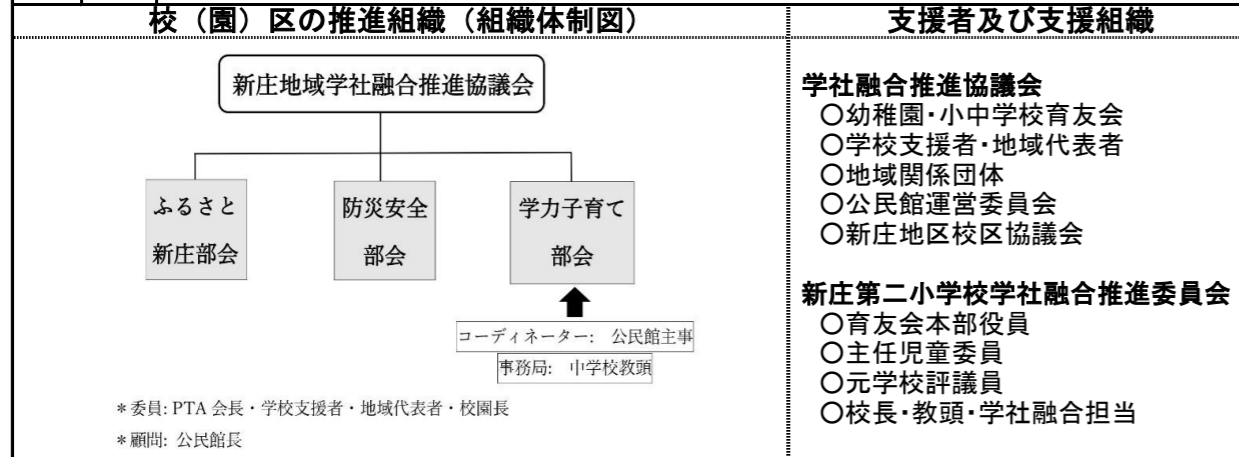


学校・園名	田辺市立新庄第二小学校	公民館名	新庄公民館
-------	-------------	------	-------

学社融合における学校・地域の様子

新庄地域では「共育コミュニティ」の研究指定を機に、学校と公民館が連携して学社融合を深化させてきた。そして、平成30年度からは幼稚園・小中学校が公民館と連携しながら地域全体で「学社融合推進協議会」を設置し、学校運営に地域の声を積極的に生かし、学校・家庭・地域が一体となり、「地域とともにある学校づくり」を進めている。各園・学校単位でも学社融合推進委員会を設置し、園・学校ごとに特色ある学校づくりを進めている。

目 標	<p>田辺市新庄地域学社融合推進協議会会則 第2条(目的) 協議会は、保護者及び地域住民等の学校運営への参画や、保護者等による学校運営への支援・協力を促すことにより、学校と保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善や園児児童生徒の健全育成に取り組むものとする。</p>
	<p>本校における学社融合の目標 地域の祭りや行事への参加と、地域の自然や産業、文化の調べ学習、地域の福祉施設との交流等を通して、地域を愛する心を育てる。</p>



成果と課題(学校・公民館からの視点)

	成果	課題
学校	<p>①公民館や関係機関と連携・協働し、地域の人的資源を効果的に活用した学校経営をすることができた。【例】総合学習の単元計画や学校行事を立案する際に、公民館主事や学社融合推進協議会長、同推進委員に参画してもらうことにより、地域の特色を生かしたカリキュラムを実施。</p> <p>②地域の方々や児童がともに活動する中で、地域の文化や伝統を身近に感じ、地域に愛着を持つ児童が増えた。自主的に地域の行事に参加する児童も増えている。</p> <p>③総合学習で地域の方々から教えていただいたことは、新二まつの学習発表において、全校児童や保護者、地域に発信することができた。</p>	<p>①学校教育側のメリットだけでなく、社会教育側のメリットも考えてカリキュラム設計をしているが、引き続き公民館と連携・協働し、取組(カリキュラム)を毎年ブラッシュアップしていく必要がある。また、保護者や地域の人々とビジョンや目標をいかに共有していくかも課題である。</p> <p>②教職員の入れ替わりが早いので、取組を持続可能なものにしていくために先を見通した校内配置を今後も考えていく必要がある。</p> <p>③校内における取組の格差を無くしていけるよう、また、取組の質の向上を図れるよう、学級担任と教科担任、学社融合担当が連携しカリキュラム設計をしていく必要がある。</p>
公民館(地域)	<p>①「ぎおんさんの夜見世」について、公民館を通じ地域の方がゲストティーチャーとして学校に出向き、学習会を行った。学習会では、江戸時代から続くこの行事の歴史と作品作りを伝えながら、学校と地域の交流を図ることができた。</p> <p>②新二サークルの講師として、俳句、お茶、琴、グラウンドゴルフの指導者等を紹介、地域の方と繋がりが深まりながら学びを深めていただいた。</p>	<p>①・これまでゲストティーチャーを務めてこられた方が、1名都合により次年度は依頼できなくなった。今後も学習会を安定して開催していくためには、高齢化も考慮しながら人選の必要がある(近年ゲストティーチャーを務められた方は2名)。</p> <p>②①の方が俳句サークルの講師となっており、後任を探しているが12月19日現在みつからない。</p>

今年度の取組内容
会議で協議した特徴的な事項(学校運営協議会)

- * 学力子育て部会**
協議内容: 地域の子どもの学力向上について
地域の子供達を育てるためのヒントとして、教育講演会を企画。元新庄第二小学校教諭の西田千寿子先生を講師に迎え、「こどものレジリエンスと学び続ける力を育むために～心のしなやかさが学力の底上げを支える～」と題して、保護者や教師、地域の方を対象に開催した。
- * ふるさと新庄部会**
協議内容: ウォークラリーについて
地域の素晴らしい自然や文化遺産などを知ってもらうための活動について協議。今年度は、防災意識を高める狙いも込めて、地区内の小中学生とその保護者を対象に、新庄地域の津波関連の碑を巡るウォークラリーを企画した。
- * 防災安全部会**
協議内容: 防災体験の実施について
消防新庄分団・田辺市消防本部と防災参観日・新二まつりにおける親子防災体験活動の内容について確認した。



新庄公民館で実施した教育講演会(11月26日)



防災参観日の親子体験(10月17日)

特徴的な協働活動

【地域の人的資源を活用したサークル活動・新二まつり】 公民館×地域×学校

- サークル活動**
地域の方をゲストティーチャーに迎え、年間6回、今年度は8つのサークル(科学・箏・グラウンドゴルフ・茶道・俳句・生き物・将棋・タブレット)を開設し活動を行っている。



- 新二まつり**
新二まつの親子体験活動においても、地域の方をゲストティーチャーに迎え7つのブースを開設。



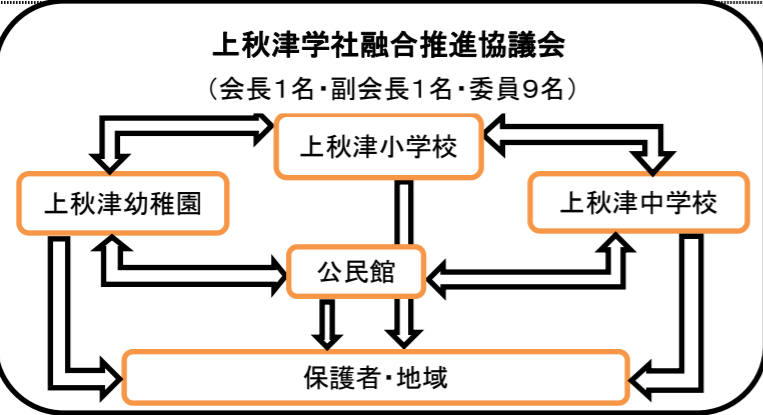
※サークル活動、新二まつりともに、新庄公民館主事と連携を密に取り、講師として参画してくれる地域人材を発掘していただいている。









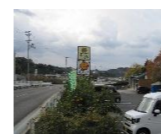



学校・園名	田辺市立三栖小学校	公民館名	三栖公民館
学社融合における学校・地域の様子 本校区は、梅を中心とする農村地域である。しかしながら、宅地造成や集合住宅の建設が進み、近年は専業農家数が減少傾向にある。また、他の地域からの転入数も多くなってきている。このような状況の影響により、昔と比べ、人と人の繋がりが難しくなっている。本校PTA組織は「育宝会」と名付けられており、子どもは地域の宝という意識が地域全体にある。地域は学校に協力的で、運動会等の学校行事やクラブ活動、教科学習でも各種団体に協力をいただきながら取り組んでいる。			
目 標	学校・園・地域 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々の知識や経験を生かし、積極的に他者に関わろうとする態度を育てる。 ・体験を通して、コミュニケーションを図るとともに、自他に関心を持つ。 ・地域の人々とのふれあいを大切にし、地域社会の一員として自覚をもたせ、ふりさとを愛する心を育てる。 ・子どもと地域への愛着、地域貢献の心を育む。 ・地域住民が子どもたちとのふれあいから、子どもたちの様子を知り、教育活動への関心を高める。 		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
会長（公民館長）	副会長（町内会長）	委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域関係者 ・保護者 ・校園長
		事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館主事 ・小学校教頭 ・小学校学社融合担当 ・職員
支援者及び支援組織 <ul style="list-style-type: none"> ・三栖公民館文化委員 ・クラブ活動外部講師 ・交通安全指導員 ・交通安全協会 ・衣笠中学校 ・三栖幼稚園 ・保護者 			
成果と課題（学校・公民館からの視点）			
成 果		課 題	
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・機会を捉えて地域と関わりながら学習することで、学校・児童と地域を繋ぐ良いきっかけとなった。 ・梅学習（3年生）では、梅の生産に関わるお話や工場見学を通して、地域の特色について学ぶことができた。 ・史跡巡り（5・6年生）は、公民館の文化委員さんによる語り部を通して、地域への愛着や誇りを育むとともに、地域の方々との交流の機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園や中学校との交流の機会が少ないため、機会を捉えた連携や交流の工夫を考えていきたい。 ・「地域の一員」であるという自覚をもたせ、主体的に地域に関わろうとする児童を育成する。 ・職員が入れ替わっても、取組を持続させていく工夫や体制づくりが必要である。 ・学校、家庭、地域の役割を明確化し、それぞれの立場から児童を見守り、育てていくよう連携を強化する。 	
公 民 館（地 域）	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年行っている5・6年生を対象とする史跡巡りによって、三栖地域の歴史を知ってもらうことができていた。また、昨年度報告から掲げていた課題であったこの史跡巡りの内容改善の面では、巡るルート内に新たに石碑を建てたことにより解説文が付け加わり、解説内容がより一層充実した。 ・公民館ロビー展や公民館前掲示板の装飾は、地域の方から好評をいただいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記で述べたように、課題としていた部分は1つ改善した。ただ、解説内容を増やしていくばかりであると児童が説明を聞く時間が長くなり、児童の集中力が続かなくなってくることも予想されるため今後は解説内容の精選も必要である。 	

今年度の取組内容 会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
第1回 三栖地域学社融合推進協議会 令和7年6月18日（水）実施 【議題】 ①役員選出 ②三栖地域の学社融合について ③三栖幼稚園の取組について ④三栖小学校の取組について ⑤その他	第2回 三栖地域学社融合推進協議会 令和7年11月23日（日）実施 【議題】 ①校内音楽会の鑑賞 ②協議・その他
第3回 三栖地域学社融合推進協議会 令和8年2月頃 実施予定 【議題】 ①令和7年度の取組における成果と課題について ②その他	
特徴的な協働活動	
《2年 町たんけん》 1学期に生活科の学習で三栖地域の施設等を訪問した。幼稚園、中学校、公民館、郵便局、JAの5カ所を見学させていただき、各施設で働く人々の工夫や苦勞について学ぶことができた。自分たちの住む町の様子や地域との関わりについて知る良い機会となり、興味をもつことができた。	
《3年 梅学習》 総合的な学習の時間で、JAわかやま三栖支所の方を外部講師としてお招きし、三栖地域の特産である梅について詳しく教えていただき、学ぶことができた。また、中田食品では、収穫された梅がどのように加工されるのか、実際に工場を見学させていただいた。仕事に携わる人々の工夫や願いについて学ぶことができた。	
《5・6年 史跡巡り》 公民館の文化委員さんに語り部をしていただきながら、5年生は11月に上三栖方面へ、6年生は12月に中三栖・下三栖方面へ、それぞれ三栖の史跡を巡った。様々な史跡に立ち寄り、三栖の歴史や文化について詳しく説明していただき、学ぶことができた。来年2月には、公民館文化展で学習発表を予定している。	
《クラブ活動》 一部のクラブ活動（絵手紙・手芸・バスケットピンポン）では、地域の方を外部講師としてお招きし、専門的な知識や技術にふれ、学習を深めることができた。児童にとっても貴重な体験活動の機会となっている。活動を通して制作した作品等は、来年2月の公民館文化展で展示していただく予定である。	

学校・園名	田辺市立長野小学校	公民館名	長野公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>本校区は自然豊かな地域で、長野区では梅やみかん作り、伏菟野区では米作りやきくらげ生産に携わっている家庭が多い。地域の方々は、協力的でいつも児童を温かく見守ってくれている。児童は、公民館や郷明会等の諸団体、地域の方々の協力を得ながら、地域の自然・産業・歴史・伝統文化等を学ぶことで、地域の素晴らしさを知るとともに地域を愛する心が育まれている。</p>			
目 標	<p>学校・園・地域</p> <p>地域と共にある学校づくり ～学校・家庭・地域のみんで自立・共生・健康をめざして～</p> <p>学校・家庭・地域の三者の力を集め、「自立」「共生」「健康」という長野小学校の教育目標を地域住民の目標としつつ、三者が知恵を出し合い、当面する教育諸課題克服のための諸取組を模索し、展開していく。</p>		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
		<p>学社融合推進協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校育友会 ○ 長野公民館 ○ 長野町内会 ○ 長野校区協議会 ○ 長野郷明会 ○ 地域関係団体 <p>その他関係機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ J A 紀南長野店 ○ 光福寺 ○ 不動寺 ○ 各区老人会 ○ 長野・伏菟野地域の方々 	
成果と課題（学校・公民館からの視点）			
成果		課題	
学校	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会、ジャム作りでは、公民館や諸団体、地域の方々にご協力いただき実施することができた。また、ホタル学習では、郷明会や公民館の協力を得て、年間通して様々な学年で地元のホタルについて理解を深めることができた。 ・学習発表会や参観日にもお越しいただき、児童の頑張りを見ていただくことができた。 ・校内整備作業では、多くの地域の方に木の剪定や草刈りをしていただき、児童が生き生きと遊んだり運動したりできる環境を整えていただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域近辺での熊出没の懸念により、地区内ハイキングを取りやめ、行き先を変更した。今後、同時期での校区内ハイキングの開催は検討していく必要がある。 ・児童数減少が気になるところではあるが、児童には、地域学習を通して、より地域に意識を向けられるよう進めていきたい。 ・児童も地域に住む一員であることを自覚し、自分たちも地域のためにできることがないかを考え、行動・発信につながっていくカリキュラムづくりを引き続き進めていきたい。 	
公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な学校の整備活動への参加継続。地区内ハイキングは目的地方面での熊の出没情報もあり、令和7年度は中止となった。次年度以降の開催は未定である。 ・学社融合推進協議会関係の行事以外でも学校を訪問する機会が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、学社融合推進協議会関係の行事は一部形を変えていくことが予想される。その場合には活動内容を各方面と相談していきたい。 ・学社融合に限らず、関わってくださる方が兼ね役となることが多い。課題というより現状の問題である。 	

今年度の取組内容 会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
◇ 学校や地域の課題は…（学校と地域が連携して課題解決に取り組める）	
学校	地域
<ul style="list-style-type: none"> ・少人数での学校生活 ・職員数が少ない。 ・地域教材を生かし、長野だからできる学習に取り組みたいが、職員だけで進めるのは難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少 ・高齢化
◇ 課題解決に向けて	
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 授業への協力 昔遊び 生き物学習 ほたる学習 読み聞かせ 等 ➤ 行事への協力 運動会 遠足 ふるさとをきれいに 草刈りボランティア 整備作業（木の剪定等） 	
特徴的な協働活動	
【ホタル学習】	
① 1,2年生【ホタルとなかよし！】（5/20, 10/16, 12/8）	
<p>1,2年生の生活科で長野に生息しているホタルの学習を行った。長野郷明会ホタル部会長の那須勝美さんに来ていただき、ホタルの雌雄の違いや光る仕組み、育ち方について、クイズを交えて楽しく教えていただいた。その後、児童は学校で飼育しているホタルの観察や調べ学習を通して、新たに出てきた疑問について、再び那須さんをお招きし、インタビューを行った。学習発表会では、学んだことを劇などを交えて地域の方々に発表し、手作りのしおりをプレゼントした。</p>	
② 3,4年生【ホタル学習】（6/24, 7/1）	
<p>3,4年生は理科の学習の発展として、米本公民館長に来ていただき、生き物の分類をはじめ、ホタルの体のつくりを教えていただいた。長野にいるホタルについてさらに理解を深めるとともに、これまで知らなかったホタルの種類や生態の違いも知ることができ、生き物についてさらに興味関心を高めていた。</p>	
③ 5,6年生【ミニ郷明会の取組】（6/30）	
<p>これまで郷明会の方々が地域のためにしてきた取組について知った高学年は、自分たちができることを考え「ミニ郷明会」として、長野小学校周りを流れる川沿いの遊歩道に設置された竹灯籠の撤去を行った。当日は、長野郷明会ホタル部会長の那須勝美さんに来ていただき、児童にお礼の言葉をかけていただいた。児童は活動に対しても意欲的に取り組み、次年度につながる活動ができた。</p>	

学校・園名	上秋津小学校	公民館名	上秋津公民館
学社融合における学校・地域の様子 当地域は田辺市の中でも、梅・柑橘類を中心とした農業の盛んな地域である。本校では、地域の農業との関わりを大切にし、長年に渡り、地域の方々のご協力を得ながら体験学習に取り組んできた。幼稚園・小学校・中学校が公民館と連携し「上秋津学社融合推進協議会」を設置し、保護者や地域の方々の意見を取り入れた学校運営を進めている。□ □			
目 標	学校・園・地域 ・地域の地場産業である農業を学校教育に取り入れ、体験活動を通して地域の良さを知り、ふるさとを大切にする心を育てる。 ・防災、福祉活動を中心とした人を大切にする教育を進める。 ・幼・小・中・公民館が連携して地域の産業や文化を学習の中に取り入れ、学力の向上を図る。		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
		・農業体験学習支援委員会 （JA紀南、JA紀南青年部、上秋津公民館、育友会） ・上秋津町内会	
成果と課題（学校・公民館からの視点）			
成果		課題	
学校	・年度当初、公民館やJA青年部の方々と「農業体験学習支援委員会」を組織し、年間計画を協議したことで、全学年で農業体験学習を実施することができた。 ・上秋津公民館にコーディネートを依頼し、米・みかん・梅などの収穫体験を通して、地域の良さを再認識する良い機会となった。 ・5年生は、地域施設「きてら」を見学し、地域が誇る産業を知ること、愛郷心を深めることができた。	・地域から学ぶだけではなく、学んだことをふまえ、地域にこちらから発信する活動を進めていく中で、地域の一員であるという思いを再認識させたい。 ・活動が定例化・固定化しつつあるため、新規開拓も視野に入れた活動計画について、今後も公民館と密に連携し協議を進めていきたい。	
公民館（地域）	・公民館が小学校と地域の橋渡し役となって、上秋津の地場産業である梅やみかんなどの体験学習をはじめ、地域との繋がりを生かした協働活動に取り組むことができた。 ・農業体験学習においては、座学と収穫体験だけでなく、加工についても知ってもらうことでより学びを深めてもらうことができた。 ・年間を通じた活動により、地域の方々と児童が交流する良い機会となった。	・農業体験学習は、地域を学ぶ、地域の良さを知るための絶好の教材であるが、作物の成長具合や天候の関係であらかじめ収穫日を設定できない場合が多く、直前の調整となることもある。また、その時期は農家さんにとっての繁忙期に当たるため、引き続き、小学校と連携して日程調整に幅を持たせるなど、園主さんやJA青年部の方の負担を少しでも減らせるよう取り組んでいきたい。 ・各種事業の実施に当たり、新たな取組を検討するだけでなく既存の取組を継続していけるよう工夫していきたい。	

今年度の取組内容 会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
◆ 第1回学社融合推進協議会 定例会（上秋津公民館） 令和7年4月25日（金） ○令和6年度活動報告 ○令和7年度計画 ◆ 第2回学社融合推進協議会 定例会（上秋津小学校） 令和7年10月28日（火） ○上秋津小学校 授業参観・150周年事業について ○各校の取り組みについて ○公民館作品展について ◆ 第3回学社融合推進協議会 定例会 令和8年2月 ○各校の取り組みと成果・課題について ○意見交流 ○学校評価アンケートより	
特徴的な協働活動	
<h3>5年生 『みかんでSDGsプロジェクト』</h3> 農業体験学習支援委員会のご協力のもと、地域の柏木さんのみかん畑をお借りして、上秋津のみかんについて学習を行った。	
<h4>①上秋津のみかんについての座学</h4> ○講師として芝 翼さんをお招きして、教えていただいた。	
・「みかんにもいろいろな種類があることを初めて知りました。」 ・「一年間でどんな作業をするのかがわかって、農家さんはすごいと思いました。」	
   	
<h4>②みかんの収穫</h4> ○地域の柏木さんのミカン畑をお借りして、JA青年部の方に収穫方法を教えていただいた後、実際に収穫バサミを使って収穫を行った。	
・「ハサミで切るのが思ったより難しかったけど楽しかったです。」 ・「自分で収穫したみかんを食べるのが楽しみです。」	
   	
<h4>③きてら見学</h4> ○地域の農産物直売所「きてら」を訪問し、「俺ん家ジュースの製造の様子」について見学を行い、生産者の方々の工夫について説明をしていただいた。さらに、地域のみかんを使ったオレンジジュースの試飲も行った。	
・「俺ん家ジュースを飲んで、みかんの美味しさと食感、そして風味が詰めこまれたような幸せな味がしました。」 ・「外国からの取材もあるということを知って、なんだか誇らしい気持ちになりました。」	
   	

学校・園名	田辺市立秋津川小学校	公民館名	秋津川公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>本地域は豊かな自然や伝統文化、地域産業に恵まれている。また、地域の方々の学校教育への協力体制も手厚く、常に子どもたちを温かく支えてくださっている。学社融合の取組によって、地域の産業や伝統文化等について学ぶことによって、地域のすばらしさを知り、地域を大切に思う心が育まれている。また、秋津川中学校や秋津川保育所との「保・小・中連携活動」によって、交流を縦軸にもつなぐ取組を継続している。</p>			
目 標	<p>学校・園・地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとに夢や誇りを持ち、未来の創り手となる子どもを育成するため、学社融合を推進し、地域の豊かな伝統、文化、産業、自然環境等について学ぶとともに、地域の方々に感謝し、地域振興に主体的に貢献しようとする態度を育てる。 ・地域の方々との温かな交流を通して、児童のコミュニケーション能力を育むとともに、地域への愛郷心を養う。 ・日常的に子どもたちと接する機会の少ない方々に、行事などを通して交流を持っていただき、地域の活性化につないでいく。 		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
		<p>秋津川公民館 秋津川町内会 秋津川振興会 JAわかやま秋津川店 JA女性会 秋津川婦人会 秋津川中学校 秋津川保育所</p>	
成果と課題（学校・公民館からの視点）			
成果		課題	
学校	<ul style="list-style-type: none"> ・田辺市防災訓練で、中学生や町内会の方々と一緒にさまざまな訓練に参加することで、児童は災害発生時の避難所設営や給水について知ることができた。地区別に分かれて座談会を行ったことで、地域の方々とふれあい、ともに助け合うことのよさを学ぶ機会となった。 ・「紀州備長炭の里ウバメガシの森づくり」で、児童はどんぐり植え・ウバメガシ苗の植樹・木のおもちゃづくりを体験し、森林環境の保全や活用について学ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・洪水や土砂崩れなど、過去に地域内で発生した災害について、保護者や地域の方々から話を聞く機会をもち、今後起こりうる災害への備えができるようにする必要がある。 ・植樹や木工といった体験活動の、教育課程における位置づけを教員間で確認し、地域の豊かな自然環境や産業に関する学習を深めていけるようにしていく。 	
公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・秋津川地区はこれまでも地域と学校のつながりが深く、各種事業において地域が学校を支える体制が整っているため、地域全体で協働活動を実施することができた。 ・町民運動会やふるさとまつりにおいて、小学校との連携を密にして取り組むことができた。 ・課題はありながらも、昨年同様の取組を実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・秋津川地区では高齢化が進み、これまで実施していた地域行事の継続が難しくなっている中、引き続き地域の方々と意見を交わしながら、実施できるところは実施し、工夫が必要などころについては、秋津川らしさのある活動となるよう取り組んでいく必要がある。 ・今後も子どもたち自身が地域の魅力を実感でき、愛着が湧くような取組を実施していきたい。 	

今年度の取組内容 会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
<p>第1回 学社融合推進協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各校の経営方針と教育課程（スクールプラン）について ○年間計画について ○意見交流 <ul style="list-style-type: none"> ・「地域全体で子どもを見守る」とう観点から、次年度は各地区から委員を選出する。 ・学校の現状と課題について話し合う。 ・本年度も人権教育映画鑑賞会を開き、みんなで考える場を持つ機会をつくる。 ・地域の各関係機関、各種団体と連携しながら、秋津川地域の特色を生かした教育活動を展開していくことを確認した。 <p>第2回 学社融合推進協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○令和7年度事業報告について ○学校評価アンケートについて 	
特徴的な協働活動	
<ul style="list-style-type: none"> ○田辺市防災訓練（地域全体） 避難訓練実施後に、町内の方々とともにパーテーション設置訓練、給水車からの給水訓練を行った。また、4つの地区に分かれて防災座談会を開き、「水や電気が止まったらどうするか」について話し合った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○秋津川町民運動会（地域全体） ○秋津川ふるさとまつり（地域全体） ○芋掘り体験（全学年）
<ul style="list-style-type: none"> ○紀州備長炭の里ウバメガシの森づくり（秋津川中学校と合同参加） 秋津川振興会をはじめ、多くの方々に支援いただき、全学年でウバメガシ苗の植樹、どんぐり植え、木工作業を体験した。土砂災害の予防など備長炭の原木となる薪炭林の役割について教えていただき、子どもたちは「みなべ・田辺の梅システム」の学習に関連づけて学ぶことができた。 	
<p>「パーテーションをどうしたら倒れないか、考えながら組み立てるのが難しかったけど、みんなで協力したら少し頑丈な部屋をつくることができました。」 「給水車は、夜でも作業ができるようにランプがついていて、その電気を自分でまかなっていることが考えて作られているなと思いました。」</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○梅収穫体験・梅ジュースづくり（全学年） ○国際ワークキャンプの皆さんとの交流（秋津川中学校と合同参加） ○紀州備長炭風鈴づくり（全学年） 	
<p>「土にどんぐりをうめるのが楽しかったです。また、木をつかったおもちゃの作り方や、木のしゅるいなどについて教わりたいです。」 「森の役割について考えるよい機会になりました。時間をかけて苗を植えたので、育つのが楽しみです。」</p>	

学校・園名	上芳養小学校	公民館名	上芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子			
自然豊かな環境の中で、児童生徒は地域や保護者に大切に見守られながら学校生活を送っている。小学校・中学校は、地域のサークルや地域の方々の協力を得ながら、教育活動を進めている。地域全体が「地域で上芳養の子どもを育てる」という意識が高く、学校の教育活動には協力的である。公民館は子ども対象の行事の実施や住民参加のスポーツ大会、文化祭を開催し地域の交流を図っている。			
目 標	学校	○地域の自然や人とのふれあいを大切に、地域社会の一員としての自覚を持たせ、ふるさとを愛する心を育む。 ○地域行事やボランティア活動に積極的に関わっていかうとする児童生徒を育成する。 ○地域の方々との交流を通してコミュニケーション能力の育成を図る。	
	地域（公民館）	○将来を担う子ども達が地域のことをよく知り、多くの地域住民と交流することで地域に愛着を持つような学社融合の取組を行う。 ○子ども達が学校生活では体験できないような事業を実施し、豊かな感性を育む。	
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
上芳養学社融合推進協議会 委員14人 （学校関係者、各種団体代表及び学識経験者） 事務局4人（上芳養小・中、公民館）		校区協議会 育友会 上芳養小学校育友会 上芳養中学校育友会 上芳養公民館 日向保育所 各種団体 ・上芳養町内会 ・交通安全協会上芳養分会 ・上芳養消防団 上芳養校区協議会 学識経験者 地域の事業所・地域の先生	
各種団体・地域住民等		小学校、中学校及び育友会	
成果と課題（学校・公民館からの視点）			
成果		課題	
学校	・2年目を迎えた「かみはやキャラバン」では、小中学校、保護者、地域、事業者と昨年を超える総勢100名が梅田で活動することができた。 ・梅学習を年間学習として位置づけ、地域の方々の協力のもと、系統立てて学習することができている。 ・今年度は小学校創立150周年のため、学社融合メンバーを中心とした実行委員会を立ち上げ、学校、保護者、地域が一体となって創立記念を祝うことができた。	・「かみはやキャラバン」を今後も続けていくためには地域の協力が不可欠であり、継続的に協力していただく体制の確立が必要である。さらに、この2年間で得た経験を生かし、活動内容を一本化して、取り組みやすいカリキュラムへと作り上げていく必要がある。	
公民館（地域）	・小学校、中学校、保護者、地域（事業者・ボランティア・公民館）が一体となって、かみはやキャラバンを盛り上げることができた。 ・昨年より児童、生徒を対象にしている体験教室の見直しを行っており、今年は夏休み期間にニュースポーツ体験教室（BQGあり）を実施し、日常で体験できない経験を提供できた。	・今年度取り入れニュースポーツは未経験の方も多くいたが、結果としては盛況に終わることができた。今後も子どもたちに必要な学びについて模索していきたい。 ・様々な各種体験教室を提案していく中で、当日に講師や指導者を地域の方に担ってもらえるよう、今後も積極的に人材発掘に努める。	

今年度の取組内容
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

- 第1回定例会 5月8日(木) 小中学校経営方針 事業計画書 収支予算書 150周年記念式典について
- かみはやキャラバン壮行会 5月13日(火)
- かみはやキャラバン報告会
8月6日(水) 5月18日実施のかみはやキャラバンについて 当時の様子や児童の学び等の共有
- 創立150周年記念事業 実行委員会
第1回 7/10 150周年 概要説明会
第2回 10/14 各担当進捗状況確認 予算確認
第3回 11/10 最終確認
第4回 12月 150周年 反省・収支報告会
- かみはやキャラバン説明会 12/11
令和8年度「かみはやキャラバン」計画について 保護者向け概要説明



特徴的な協働活動

～ 梅から地域を学ぶ

- 【3年】6月 梅座学 JA職員より梅についてのお話を伺う。梅採り 地域の方の畑で体験をする。⇒ 梅ジュース作り おにぎりレシピ開発 ミマニア監修の元、上芳養の梅を使ったおにぎりのレシピを考案し、次年度のキャラバンにて販売してもらおう。
- 【4年】3学期 着花率調べ JA職員の指導のもと、地域の方の畑で観察・調査をする。(予定)
- 【5年】6月 梅座学 JA職員より着果率、流通等のお話を伺う。梅拾い・梅漬け体験 地域の方の畑で収穫し、地域の梅農家さんの指導で梅を漬ける。
7月 梅天日干作業 地域の方の指導のもと実施する。
3学期 梅干しパック詰め(予定)
- 【6年】5月 「かみはやキャラバン」梅田で梅干しを配布したり、梅や地域についてのプレゼンを行ったりする。



創立150周年記念式典

地域、保護者の皆さんにご協力いただき、当日は総勢300名を超える人数で150周年をお祝った。「ようこそ先輩」では、卒業生で現在アメリカの製薬会社で活躍されている尾花満衣子さんに記念講演をしていただいた。



「まなびのいりぐち」完成!

小学校創立150周年を記念して、玄関ホールにラーニングコモンズ「まなびのいりぐち」を設営した。設計から建築まで、地域の方やゆかりのある方にご協力いただいた。

上芳養cokochi 4～6年

月1回水曜日の放課後 TETAUさんとの共同開催で、ICTとクリエイティブを触媒にして、誰もが心地よくいられる場所を地域や人と連携しながらつくることをめざし、活動している。

ころころ山 読み聞かせ 全学年

毎月第2第4木曜日 地域の方々に構成されている読み語りグループ「ころころ山」のメンバーが、学年に合わせて、紙芝居や絵本を中心に読み聞かせてくれる。今年度は夏休み中の登校日に全校での読み聞かせを行って下さり、一緒にダンスも楽しんだ。

生け花教室 6年

毎週水曜日 生け花教室の先生に来ていただき、生け花教室を行っている。同時に花の名前や花の特徴も教えていただいている。できた作品は、玄関ホールに飾っている。

学校・園名	田辺市立中芳養小学校	公民館名	中芳養公民館
-------	------------	------	--------

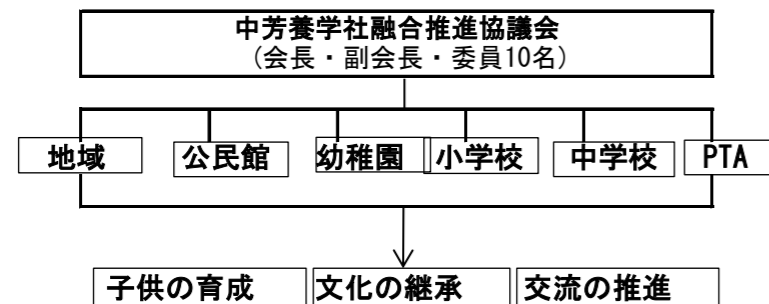
学社融合における学校・地域の様子

本校は、田辺市街地周辺の自然豊かな農村地帯にある。児童は明るく、上級生が下級生のお世話をするという優しいところがある。地域住民も学校の教育活動に協力的で、みんなで子供たちを育てていこうという雰囲気の中で教育活動を行っている。平成28年度までの「共育コミュニティ本部事業」の三つの柱「子供の育成」「文化の継承」「交流の推進」を大切に、学校と公民館が連携しながら地域の教育資源を活かした教育活動の充実に努めている。

学校・園・地域

- ・子供たちの学びや体験活動を充実させ、学力向上を図るとともに、愛郷心や自己肯定感を育む。
- ・幼稚園や小中学校の取組や行事に地域全体で協力し、子供たちの成長を見守る意識を高める。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

- ・中芳養公民館
- ・中芳養幼稚園
- ・中芳養中学校
- ・JA紀南芳養谷支所
- ・中芳養町内会
- ・中芳養地区老人会
- ・中芳養地区消防団
- ・中芳養小学校PTA
- ・地域の農家
- ・地域の寺院・神社

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年が地域の産業や歴史等をテーマとした学習を「学習発表会」として、保護者や地域の方、児童に関わっていただいた方を招いて発表することができた。地域について学ぶ中で、様々な方々との関わり交流を深めることができた。 ・今年は、公民館主事や地域の方を外部講師として招き、ニュースポーツクラブおよびヨガクラブの活動を実施した。児童は、新しいゲームやヨガの基礎的な内容について指導を受け、体験的な学習を行うことができた。 ・地域を教材として、地域に住む人から学ぶことを通して、地域への関心が高まり、親しみや愛着心を持つことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習発表会において、内容が重なってしまった学年があるため、今後は学年ごとの内容を整理し、より充実した学習となるよう改善していく必要がある。 ・活動の目的・目標を明確にし、児童自身がそれを意識しながら取り組むことで、知識の定着につながる活動としていきたい。 ・専門性を生かした指導が行えるよう、外部講師としての人材を継続的に確保していくことも課題である。
公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・今年は、公民館主事と地域の方が講師となり小学校クラブ活動でニュースポーツクラブとヨガクラブを開催し、児童たちにとって新鮮な体験となった。 ・学校（幼稚園、小学校、中学校、各PTA）と地域（町内会、芳寿会、消防団、JA等）で実行委員会を組織し、地域全体の行事として中芳養夏まつりを実施し、親子、子と子のふれあいの場となった。また、地域の方から中芳養の伝統ある盆踊りを教えていただき児童たちの郷土愛を深めることができた。 ・敬老祝賀会においては、小学校の協力のおかげで児童による発表が行われ、児童たちといっしょに長寿をお祝いすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに必要な学びと子どもたちが求めている学びを常に模索する必要がある。 ・より多くの方に事業に協力してもらえるように、情報提供や参加しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、各種体験教室の講師や指導者を地域の方に担ってもらえるように引き続き人材の発掘に努める。

今年度の取組内容
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

- 第1回学社融合推進協議会（中芳養幼稚園）令和7年6月11日（火）
 - ・各校の経営方針都教育課程について
 - ・令和7年度年間計画
 - ・意見交流：児童・生徒の朝食状況についてや地域住民のマナーについて、意見交流をした。
- 第2回学社融合推進協議会（中芳養小学校）令和7年10月9日（火）
 - ・中芳養小学校授業参観
 - ・各校園の取り組みと成果について
 - ・説明を聞いたが、幼少中とも地域の特色を生かした素晴らしい取り組みをしていた。
- 第3回学社融合推進協議会（中芳養幼稚園）令和8年2月
 - ・各校園の年度末評価、成果と課題・活動報告 その他

特徴的な協働活動

ふるさと学習～地域に学ぶ

梅学習

JA芳養谷支所と地元の農家の協力を得て、今年初めて中芳養幼稚園の園児と一緒に収穫や梅干しづくりに取り組んだ。



ヤギの放牧

秋に一定期間、地域に放牧される山羊とふれあう体験をした。



幼小連携

低学年を中心に、近隣の中芳養幼稚園と交流した。互いに学び合い、思いやりを育む有意義な活動となった。



学習発表会

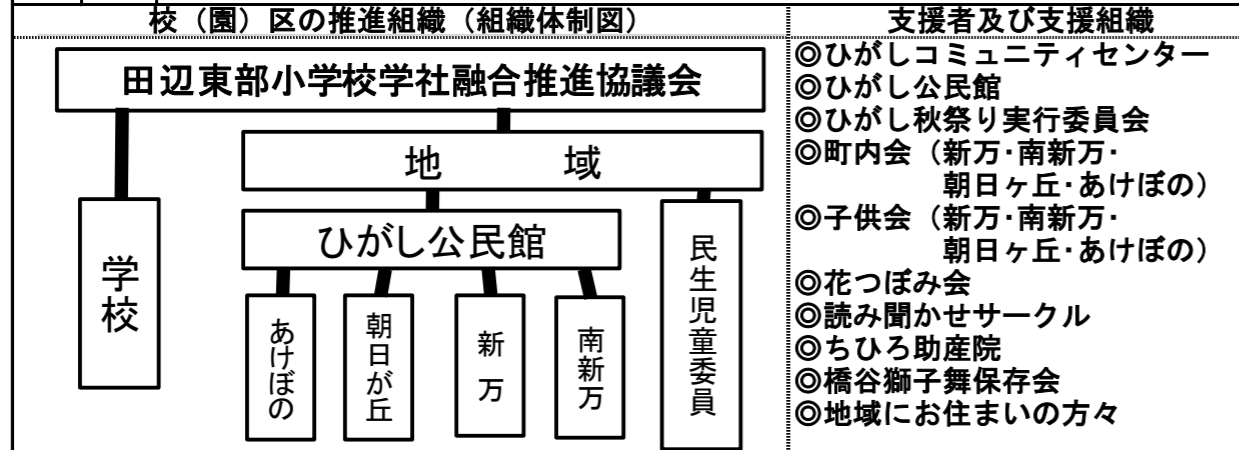
保護者や地域の方、お世話になった方を招いて、地域の産業や歴史についての学んだことを発表した。



学校・園名	田辺東部小学校	公民館名	ひがし公民館
-------	---------	------	--------

学社融合における学校・地域の様子
 学校と地域公民館(学校併設「ひがしコミュニティセンター」)が連携し、取組の充実を図っている。平成20年度から行っている地域行事である「ひがしふれあい秋祭り」では、「幅広い世代の方々がふれあえるきっかけをつくり、近隣住民の交流と地域の連帯感を深める」という目的を果たすべく、学校、育友会、町内会、公民館等が協力し、様々な文化活動のステージやふれあいスペースでのゲームなど工夫した取組を続けている。また、同日に学校では、「1・2年生による秋祭り」や「学習発表会」「校内美術展」を開催し、多くの保護者や地域の方々に来校いただき、交流の場となっている。来年度も協力して、より充実した取組を進めていきたい。

目 標	学校・園・地域	○地域の方々が持つ知識や技能を活用し、専門的・体験的な学習を展開することで、子供たちの学ぶ力・生きる力を育む。 ○学校と地域が協働的な活動に取り組むことで、地域の魅力・課題への認識を深め、子供も大人も地域の一員であるという自覚を高める。 ○様々な交流やふれあいを通して、地域の方々と子供たち、また地域の方々どうし・子供たちどうしが望ましい人間関係を築く。
	校(園)区の推進組織(組織体制図)	田辺東部小学校学社融合推進協議会 学校 地域 ひがし公民館 あげぼの 朝日が丘 新万 南新万 民生児童委員
	支援者及び支援組織	◎ひがしコミュニティセンター ◎ひがし公民館 ◎ひがし秋祭り実行委員会 ◎町内会(新万・南新万・朝日ヶ丘・あげぼの) ◎子供会(新万・南新万・朝日ヶ丘・あげぼの) ◎花つぼみ会 ◎読み聞かせサークル ◎ちひろ助産院 ◎橋谷獅子舞保存会 ◎地域にお住まいの方々



成果と課題(学校・公民館からの視点)

	成果	課題
学校	○8月5日に開催した「東部っ子を育てる会」では、田辺市防災まちづくり課の方に、地震や津波に対する備えと発生時の対応についてお話していただいた。7月30日に津波警報が発表され、田辺市内でも多くの方が避難行動をとるなど、危機意識が高まる中での開催となり、地震への備えの必要性を再確認できた。 ○「ひがしふれあい秋祭り」は、たくさんの地域の方にも来場いただいた。 ○地域の方々の協力の下、様々な体験活動を行い、交流を深めることができた。	○「東部っ子を育てる会」への参加人数が減ってきているので、より実態に合った内容や開催日時を検討していく必要がある。 ○「ひがしふれあい秋祭り」当日の午前中に、低学年の「あきまつり」と全校での「学習発表会」を行っている。今回は天候に恵まれたが、雨天での開催となった場合、そのままの内容では時間的に難しい。 ○より充実した交流や体験が行えるよう、公民館等と連携しながら、地域の人材を知っていく必要がある。
公民館(地域)	○「第16回ひがしふれあい秋祭り」を昨年度の反省を踏まえながら、継続して実施することができた。当日は多くの地域住民が来場し、幅広い世代が参加するなど、会場ににぎわいが生まれ、世代を超えた交流の場を創出することができた。 ○公民館事業として実施している「新春みんなで走ろう会・歩こう会」には、今年度も100名程度が参加しており、世代を超えた交流や健康づくりの場として地域に根付いている。	○夏休み中の子どもの居場所づくりを目的として実施している「夏休みこども体験教室」については、子ども同士の活動が中心となっており、地域住民との交流をさらに深める余地があると考えられる。 ○今年度新たに実施した「卓球交流会」では、参加対象を小学生以上としており、地域住民と子どもが直接交流できる機会として意義がある一方、小学生の参加が少数にとどまった。今後は、周知方法や内容の工夫により、より多くの子どもの参加につなげていく必要がある。

今年度の取組内容
会議で協議した特徴的な事項(学校運営協議会)

○児童の学校での様子や地域での気付きについて
 校訓について、子供たちには、「よく学び、よく笑い、よく遊ぶ」という言葉で伝え、それをもとに教育活動を進めている。
 どの学級も落ち着いて学習に取り組んでいる。1年生もしっかり担任の話の聴き、楽しんで学習できている。電子黒板の導入により、よりICT機器の活用が進んでいる。
 ○「ひがしふれあい秋祭り」について
 学校、育友会、町内会、公民館等が協力して開催できた。午前中に学習発表会、午後から「ひがしふれあい秋祭り」が行われ、地域の方も子供たちも楽しく過ごすことができた。
 ○学社融合の取組として
 3学期に「筆体験教室 IN 田辺東部小学校」を行う。
 ○児童の様子や学習活動の実態を知るため授業参観を年間2回行った。

第1回学社融合推進協議会 令和7年 4月30日(水)
 第2回学社融合推進協議会 令和7年 12月12日(金)
 第3回学社融合推進協議会 令和8年 3月 開催予定

特徴的な協働活動

○読み聞かせサークルによる読み聞かせ

読み聞かせサークルの方々にお越しいただき、1回20分間の読み聞かせを行っていただいている。各学年年間6回程度の機会ではあるが、いつも学年に合った内容や子供が興味のあるお話、季節にあった本などを選んでいただいているので、毎回の訪問を子供たちはとても楽しみにしている。読み聞かせの時間には、お話を釘付けになったように集中して聴いている子供が多く、子供たちが読書に取り組むきっかけとなっている。



○東部っ子を育てる会

8月5日(火)にひがしコミュニティセンターで「東部っ子を育てる会」を開催した。7月30日に和歌山県を含む広い地域に津波警報が発表され、田辺市内でも多くの方が避難行動をとるなど、危機意識が高まる中での開催となった。育友会が中心となって企画し、今回は、田辺市防災まちづくり課の方に、地震や津波に対する備えと発生時の対応についてお話していただき、地震発生時に自分や家族がどこにいるのかいろいろな可能性を想定しておくこと、自分に合った避難バッグや備蓄品(田辺市「避難バッグ・非常用備蓄品チェックリスト」参照)を準備しておくこと、家具を固定しておくこと等、具体的な対策を知ることができた。今回の学びを活かすことができるよう、家庭と連携しながら子供たちにも伝えていきたい。



○ひがしふれあい秋祭り

11月16日(日)育友会、町内会、公民館等と協力し、小学校とひがしコミュニティセンターを会場に「第16回ひがしふれあい秋祭り」を開催した。午前中には、1・2年生の秋祭りや全校児童による学習発表会も行い、たくさんの来場者で賑わった。オープニングの橋谷獅子舞や地域の方々や中学生によるステージイベント、楽しみコーナー(町内会)、チャレンジゲーム(子供会)、飲み物ブース(育友会)、お茶席(田東小茶道部)など、たくさんの催し物を通して、地域の方と交流することができた。最後は、体育館にてお菓子まきを行い、楽しい一日となった。



学校・園名	田辺市立 龍神小学校	公民館名	龍神公民館 龍神分館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>龍人学の礎である「龍神の元気の素は人にあり」を旗印にして学社融合を推進することで、龍神小学校区の人を元気にすることを目標に取り組んでいる。 保護者や地域の方々は、学校の教育活動に大変協力的である。</p>			
目 標	<p>本校における学社融合の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校を地域に開き学習や行事等に参加してもらうことで、児童の様子や教育課程の実施状況について理解してもらう。 ・地域の素材や優れた人材を活用し、生きた教育活動を展開する。 		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
<p>龍神小学校学社融合推進協議会 会長一副会長一委員（8名）</p>		<p>田辺市役所 龍神行政局 田辺市立龍神小学校PTA 田辺市立龍神小学校動産委員会 田辺市龍神公民館龍神分館 田辺市教育委員会 龍神教育事務所</p>	
公民館	PTA	行政局	教育事務所
成果と課題（学校・公民館からの視点）			
成果		課題	
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も、毎年学習発表会で行っている「龍神太鼓」を地域の林業まつりで披露するなど地域との交流を積極的に図ることができた。児童らに緊張している様子が見られたものの、上手に演技することができ、満足感を得ることができた。 ・運動会に参加していただくことをはじめ、いろいろな行事を通して、地域の方々や児童らが交流を深めるとができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域が広く、高齢化が進んでいるため、学校まで来ていただくのが難しくなっている。 ・ゲストティーチャーや地域の方々や密に連絡を取りながら、活動を続けていくようにしたい。 	
公 民 館（地 域）	<ul style="list-style-type: none"> ・学社融合活動を通して、児童と地域が交流する機会となった。特に龍神小学校は、運動会、学習発表会、敬老の日の手紙の手渡し、コンサート鑑賞、バレエ鑑賞などの行事に地域の方が参加し、児童の様子を見ていただいたり、交流を行ったりする機会が多い。普段から児童と交流する機会が多いため、地域の方々も児童のことをよく知っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで活動に参加してくれていた方が高齢になり、参加を遠慮されたり、参加できなくなっている。 ・学校と関わる機会がなかった地域の方との交流や、新たな地域との連携の方法を模索していきたい。 	

今年度の取組内容
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

- ・授業参観を実施し、児童らの様子を共有し意見交流を行った。
- ・学校の経営方針に関する事項について、本年度重点的に取り組んでいくことを中心に学校長が説明を行った。
- ・運営に関する年間計画について話し合い、運動会や学習発表会、地域学習などで協力していくことを確認した。また、地域の方々のバレエ鑑賞やバイオリンコンサートへの積極的な参加についても話し合った。



特徴的な協働活動

・米作り（5月～12月）

今年度は地域の方にご指導いただき、中学年を中心に米作りに取り組みました。籾巻き、田植え、稲刈り、脱穀など、米作りの過程を概ね体験しました。また「おにぎりパーティー」を開き、お世話になった方々や保護者の方々を招待し、収穫したお米で作ったおにぎりや茶摘みで作ったお茶などで皆さんをもてなしました。大変喜んでいただきました。



・運動会（10月）

今年度も地域の方や観光に来ていた外国の方など、たくさんの方々が運動会に参加してくれました。地域在住の外国の方に英語でアナウンスをしていただきながら、来場者全員でいろいろなゲームを楽しみ、児童も元気に楽しく活動することができました。



・龍神太鼓（11月）

今年度も、学習発表会と龍神林業まつりのオープニングで龍神太鼓を披露しました。児童らは大勢の人を前に緊張していましたが、それぞれが立派に演奏することができました。地域の方々は、児童らの演技を楽しみにしてくれています。



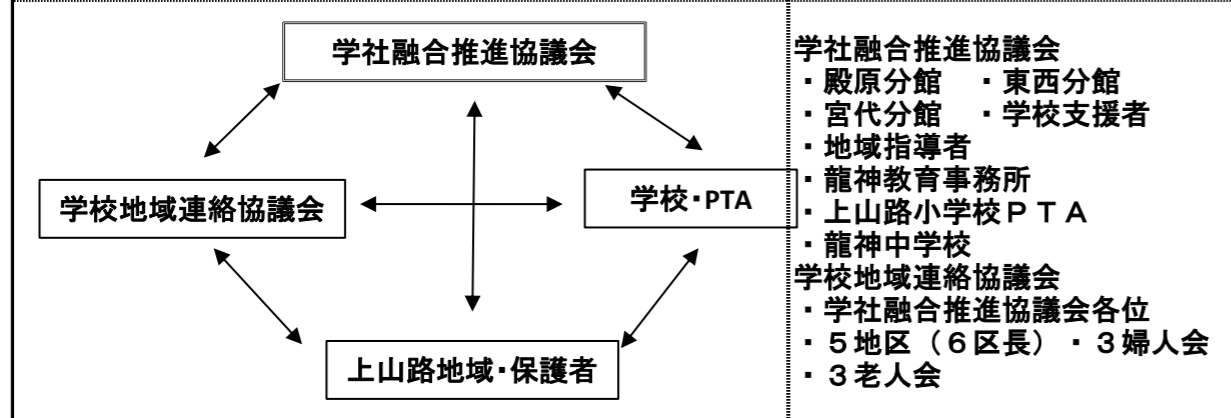
学校・園名	田辺市立 上山路小学校	公民館名	龍神公民館 殿原分館・東西分館・宮代分館
-------	-------------	------	-------------------------

学社融合における学校・地域の様子

本校は、殿原小学校、宮代小学校、東小学校の3校が統合して、今年度で17年を迎えた。どの地域の方々も学校の取組に協力的であり、「自分たちの学校」という思いを強く持ってくれている。それぞれの思いや伝統を大切に、地域の教育資源を活かし、地域と学校が一体となった取組を進めている。

目 標	<p>○学校地域連絡協議会規則 上山路小学校と学区民が連携を図り、地域全体で児童の健やかな成長を担う環境づくりに寄与する。</p> <p>○本校における学社融合の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域とともにある学校」づくりをめざし、学校運営や学校の課題に対して、保護者や地域住民の方々が発言できる仕組みを構築し、子どもの教育に対する課題や目標を共有することで、地域全体で学校を支援する体制の構築や学校・地域の課題解決などに向けた取組を推進する。 ・学校・家庭・地域の連携を強化し、子どもたちの健全育成を進める。
--------	---

校（園）区の推進組織（組織体制図）



成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	<ul style="list-style-type: none"> ・例年実施している活動で、「町たんけん」「花植え」「つるし柿づくり」「昔遊び体験」を実施し、体験を通じた地域の方々との交流を深めることができた。 ・学習発表会では、低学年が地域に出かけた際の発表を行い、中学年は地域の防災について学習したことを発表することができた。高学年は、地域の環境や産業等について詳しく調べ、様々な情報を発信することができた。 ・以前からの小中連携に加え、保育園や南部高等学校龍神分校との交流ができた。各校種の課題を共有することで、自校の実践に生かすことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が入れ替わっても学習活動の意義やねらいを引き継げるように、地域の特色や取組を教職員間で共通理解し、人とのつながりを大切に、継承できるようにしていきたい。 ・本年度は夏が非常に暑かったこともあり、取組む内容や学習時期などをよく検討し、見通しを持って計画を立てていく必要がある。 ・子どもたちが主体的に取り組めるよう、教師やゲストティーチャーの出番や役割を確認しながら地域学習を進めていきたい。
公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・上山路まつりは、地域と学校の交流を目的に実施され、今回で10回を数えた。高野山杖ヶ敷に移住されている宇奈手氏ご夫婦、紙芝居師の菊地氏により書と音楽、紙芝居を融合させたパフォーマンスをしていただいた。大きな紙に児童と地域の方が想いの漢字を書き地域との共同作品を完成させることができた。 ・3小学校が統合して現在の上山路小学校となっており、各地域に向いて児童が様々な体験学習を実施し、それが地域にとって児童と交流する機会にもなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と学校が体験学習等を通じて交流を継続的に実施してきた。しかし、子供達と交流している地域の方も減少しており、今後の継続的な実施が課題である。

今年度の取組内容
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

本年度より第1回の会議については、学社融合推進協議会と学校地域連絡協議会を共催する形で実施することとした。第1回の協議会で確認及び検討したこと

1. 学社融合推進協議会について
(①委員 ②規則 ③会長・副会長選任 ④学社融合推進体制)
2. 本年度の学校経営方針について
(①学校経営・運営方針 ②学校教育目標[スクールプラン])
3. 本事業の年間計画及び各地域の年間計画について
(丹生ノ川・殿原、東西、宮代)
4. 意見交流【本校の課題】
ア)学社融合推進事業について
児童減少による継続可能な学社融合の事業とするため新たな地域の人材、文化財について確保していく。
イ)コミュニケーション能力の育成
日々の取組において育成する。家庭や地域において育成する。
5. その他
殿原地区B29慰霊祭への参加・上山路まつりの開催について



特徴的な協働活動

花の苗植え 春・秋 全校児童

地域のゲストティーチャーと全校児童20名で、花壇やプランターに花の苗の定植を行っている。本年度も春と秋の2回、花植えを行った。全校児童で協力して種まきから始め、ポット植え、花壇への定植という流れで、夏は1日に2回水やりを行うなど枯れてしまわないよう気をつけて育てた。春はサルビア、マリーゴールド、ケイトウ、秋はパンジー、プリムラ、アリッサム、などを植え、育てた花の一部を地域の上山路郵便局、宮代簡易郵便局、殿原簡易郵便局に配付し、地域の方々にも楽しんでいただいている。



上山路カフェ



上山路まつり



高校生との交流会








上山路地域に住んでいる方が中心となり、5月から毎月1回のペースで小学校の多目的ホールを使って、地域の方々が集うカフェを開催し、お昼を過ぎてからのひとときを、お茶を飲みながら会話をしたり、小学生の音楽発表を聞いたりしている。小学校の中の施設ということもあり、子どもたちが元気に学校生活を送っている様子を届けることができています。

上山路まつりは、今年で10回目を迎えた。上山路まつり実行委員会（公民館主事、各分館長）が中心となって、催しの内容を検討し、実施しており、本年度は「音玉紙しばいで書ウ」と題して、紙芝居・音楽演奏・書道を披露していただいた。鼻や足を使っての楽器演奏や紙芝居を体験することができ、児童も楽しんで取り組むことができた。

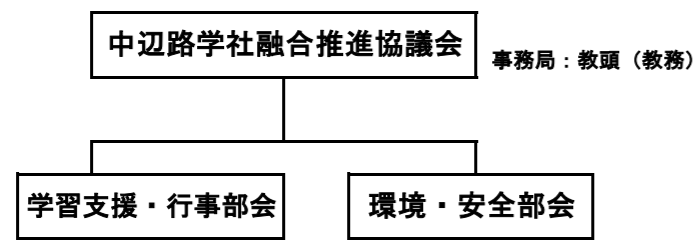
南部高等学校龍神分校の高校生の皆さんと交流会を行った。1～4年生は運動、5・6年生はマドレーヌ作りを行った。高校のお兄さん、お姉さんと楽しくおしゃべりしながら、交流を深めることができた。

学校・園名	田辺市中山路小学校	公民館名	龍神公民館 中山路分館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>本校では、地域に根ざした教育活動を進めていくために、ふるさと学習で「龍人学」に取り組んでいる。保護者および地域住民との対話やネットワークを構成し、学校運営への支援や協力を呼びかけ、学校・家庭・地域が一体となり「地域とともにある学校」の基盤作りの展開をしてきた。それぞれがもつ役割や責任を共有し、時代の流れに合わせながら活動を広げている。</p>			
目 標	<p>学校・園・地域</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校、保護者、地域の連携を密にし、それらの教育力を相互に活用し合い、協力して学校運営の改善や児童の健全育成、地域の教育力向上に努める。 地域の方々との交流を通して人とのつながりを深め、児童のコミュニケーション能力の育成を図る。 地域学習や地域の方々との交流を通して、地域の一員としての自覚を持たせ、ふるさとを愛し地域に誇りを持つ子を育てる。 		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
<p>保育園・中学校・公民館・福祉施</p> <p>中山路小学校学社融合推進協議会 (会長・副会長・委員・事務局)</p> <p>保護者・地域住民</p>		<ul style="list-style-type: none"> 中山路小学校PTA 龍神公民館中山路分館 3地区 3地区シルバー会 柳瀬保育園 龍神中学校 龍トピア・龍の里 龍神教育事務所 学識経験者 	
成果と課題（学校・公民館からの視点）			
成果		課題	
学校	<ul style="list-style-type: none"> どの学年も地域に出かけたり地域の方に講師をお願いして交流したりすることができた。 低学年…図書館・郵便局・藍染め・キノピオ作り 中学年…干支の置物作り・書道教室・木工体験 森林組合・プレカット工場・G.works 高学年…箒、三味線体験・陸上教室・合唱指導 現地学習（B29墜落・明治の大水害） 全校…りゅうりゅう音頭 せんだんFes、運動会、学習発表会と保護者だけでなく地域の方も参観していただけた。 学社融合参観日を設け児童の学校での様子や地域での様子の共有し意見交流を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動の目的や児童につけたい力を明確にし、ふるさと学習を進めていく。 地域の方に、講師先生をお願いしているが、新たな地域人材を少しずつ探してはいるが、さらに開拓の必要がある。 学校だより等で、児童の様子や学校行事の予定を分かりやすく伝え、学校へ足を運んでもらいやすくする。 柵の木についてのお話を地域の方にお願ひしたが、せんだんFesまでの期間が短く難しかった。来年度は、もう少し早く、保護者や地域の方にお願ひする。 	
公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> 地域について学ぶことで、地域の歴史やよさについて学ぶことができ、地域の方からも感想をいただくことができた。 せんだんFesでは、学校に残っている資料から柵の木について紹介し、改めて中山路小学校のシンボルとして樹齢100年以上の木について保護者や地域の方と一緒に児童も知ることで、地域の一員として郷土愛が育まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童たちが徒歩通学する様子を地域の人達がよく見守ってくれている。ただし、児童数減少に伴い、児童を見たり接したりする機会が減少し、学校との関係も希薄化している。 学社融合推進協議会の委員を中心に学校の取組に協力いただいている。地域人材の高齢化や仕事の都合で、お願ひしても難しいことがある。 	

今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
<p>【第1回中山路小学校学社融合推進協議会】</p> <p>【議事】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①本会について（学社融合推進協議会規則の確認） ②役員選出 ③令和7年度中山路小学校の経営計画について ④令和7年度の学社融合活動計画について ⑤地域での児童の様子について ⑥その他 <p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校運営方針に基づき、地域として運営の協力をを行う。 ○学社融合関係の取組に参加協力を呼びかけたり、実際の運営支援を行ったりする。 ○挨拶運動について、地域にも声かけ等と呼びかけ、地域活性化につなげていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・10/5 運動会は半日で行う。 ・各地域での児童の様子を聞いたり危険箇所はないか教えていただいたりした。 	
特徴的な協働活動	
<p>◇せんだんFes</p> <p>本年度は、参観日とし、保護者及び地域の方に公開した。児童が柵に寄せる思いを絵や川柳、ダンスにして表した。</p>	 <p>せんだんFes</p>
<p>◇学習発表会</p> <p>土曜日に開催し、保護者及び地域の方に公開した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○3・4年は、ふるさと学習で「森林組合」「製材所」「G.works」に見学に行き、林業について学習したことを発表した。 ○5・6年は、ふるさと学習で、「明治の大水害」や「B29墜落」について、現地（B29慰霊碑・旧殿原小学校・水難者慰霊碑）へ行き、地域の方にお話を聞き、学習発表会で発表した。発表後、地域の方から「今回学習したことを今後も受け継いでいってほしい」との感想をいただいた。 ○地域に住む三味線の師匠に、5・6年児童が教えていただき和楽器（三味線）を体験することができた。継続して練習にも協力していただき学習発表会では一緒に演奏する貴重な体験をすることができた。 ○作品展 <ul style="list-style-type: none"> ・地域にお住まいの方を講師先生に招き、体験して作成した作品を展示した。 1・2年生は藍染めやキノピオ作り 3・4年生は干支の置物作り 	 <p>藍染め体験</p>  <p>干支置物作り</p>  <p>現地学習「明治の大水害」</p>
<p>◇花の苗のプレゼント</p> <p>こどもボランティア活動として、花の苗のプレゼントを行っている。4・5・6年児童が種から花の苗を育て、保護者や学校周辺の方々、また高齢者施設や郵便局などにプレゼントをしている。</p>	 <p>花の苗プレゼント</p>

学校・園名	田辺市立咲楽小学校	公民館名	龍神公民館 福井分館・甲斐ノ川分館
学社融合における学校・地域の様子			
登下校の際の見守り活動を積極的に行ってくれたり運動会や学習発表会等に、たくさんの地域の方々が参加してくれたりする。平成18年4月の創立時より各地区長、老人会長や公民館、PTA、学校職員等で組織する学校地域連携推進会議が学校と地域を結ぶ中心的な役割を果たしてきた。本年度も地域の祭礼に多くの児童が参加した。事前に笛や太鼓、獅子舞等を習った。祭り会場には、児童が手作りしたゴミ箱を設置した。地域ぐるみで子どもを育てようとする土壌があり、子どもたちも安心して生活することができている。			
目 標	学校・園・地域	○咲楽小学校と学区民が連携を図り、地域全体で子どもの健やかな成長を担う環境作りに寄与する。 ・咲楽小学校の教育発展のために広く意見を聞き、学校運営に反映できるよう努める。 ・学校を開き、地域住民と連携を図っていく中で、学校教育方針の周知に努める。	
	校（園）区の推進組織（組織体制図）	支援者及び支援組織	
		<ul style="list-style-type: none"> ・咲楽小PTA ・校区会（4地区） ・龍神教育事務所 ・市教研龍神ブロック ・柳瀬保育園 	
成果と課題（学校・公民館からの視点）			
成果		課題	
学校	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は地域の防災訓練に参加した。また同日に行われた防災学習を地域の方と児童がともに学び交流を深めた。 ・運動会では、地域の方に児童種目への参加を呼びかけ、ともに競技を楽しんだ。 ・学校開放週間では、給食試食会の前に講師の方を招き、食についての講演を行った。保護者と担当職員と一緒に食について考える機会を設けることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢化が進む中で地域の指導者確保のため、更に関係機関との連携を密にしていける必要がある。 ・昨年度はふるさと学習の一環として、地域産業について学習する機会を設けたが、本年度は実施していない。地域とのつながりを継続していくためにも次年度は計画をしていきたい。 ・学校行事への地域の方の参加人数が年々少なくなっている。地域の方が参加できる学校行事を検討していきたい。 	
公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・講師の方を招いたペットボトルロケット作りや女性会とのグランドゴルフ、ネイチャースタディー等の民館事業を通じて、児童と地域の方の交流する機会を多く設けることができた。活動の中で児童は地域の良さを知り、また、地域の方は児童の様子を知ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材の確保が課題である。事業のマンネリ化や減少を避けるためにも新しい人材の発掘や事業の展開が必要である。 ・地域の高齢化に伴い、従来の取組内容に協力していただける方が少なくなっている。取組内容の見直しや若い世代の地域人材が参加してもらえる工夫が必要である。 	

今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
学社融合推進協議会・学校地域連携推進会議	
第1回学社融合推進協議会議案	
(1) 本年度の役員について	
(2) 田辺市学社融合推進協議会の運営について	
(3) 学校運営方針について	
(4) 本年度の活動について	
(5) 児童の様子意見交流等	
学校地域連携推進会議	
第1回学校地域連携推進会議案	第2回学社融合推進協議会議案
(1) 本年度の役員・委員について	(1) 学校運営の基本方針に係る取組報告
(2) 学校の様子について	(2) 学校評価について
(3) 第1回学社融合推進協議会より	(3) 次年度に向けての意見交換
(4) 今年度の活動について	
特徴的な協働活動	
◇登下校見守り活動 児童は、集団登下校を行っており、地域の方が一緒に歩いてくださっている。	
◇愛校作業（8月23日） 保護者の方や地域の方と愛校作業（整備作業）を行った。多くの地域の方が運動場の木々の剪定や校舎内の窓拭き、草抜きなどの作業に協力していただいた。	
◇絵画指導（9月29日） 3・4年生の図工の時間に、地域の方を講師として招き、人物画の描き方の指導をしていただいた。	
◇学校開放週間（11月4日～15日） 校区内にお住まいの全戸に「学校開放月間全体行事予定案内」を、さらに保護者には各行事前に案内チラシをそれぞれ配布した。	
①昔の遊び体験（7日） 1・2年生児童の活動。地域の方を講師として招き、竹ポックリの製作と遊び方（使い方）について教えていただいた。	
②森林学習（7日） 3～6年生児童の活動。講師を招き、保護者の方と一緒に森を守るための活動について学んだ。	
③給食試食会（12日） 講師を招き、食の大切さについて保護者の方と一緒に考えた。	
④花の苗植え（12日） 地域の方の指導により、全校児童で学校の花壇やプランターの苗植え作業を行った。地域の方と保護者と一緒に花の配置等を考える姿が見られ、交流を深めることができた。	
⑤学習発表会（15日） 国語科や総合的な学習の時間に学習したことを地域の方に向けて発表した。	
⑥収穫祭（15日） 学習園で育てたさつまいもを収穫し、保護者や地域の方と一緒に焼き芋を作った。また、地域の方の協力で5・6年生が米づくりの体験を行い、収穫したもち米を使って、餅つきも行った。ついたお餅はお世話になった地域の方にも食べていただいた。	

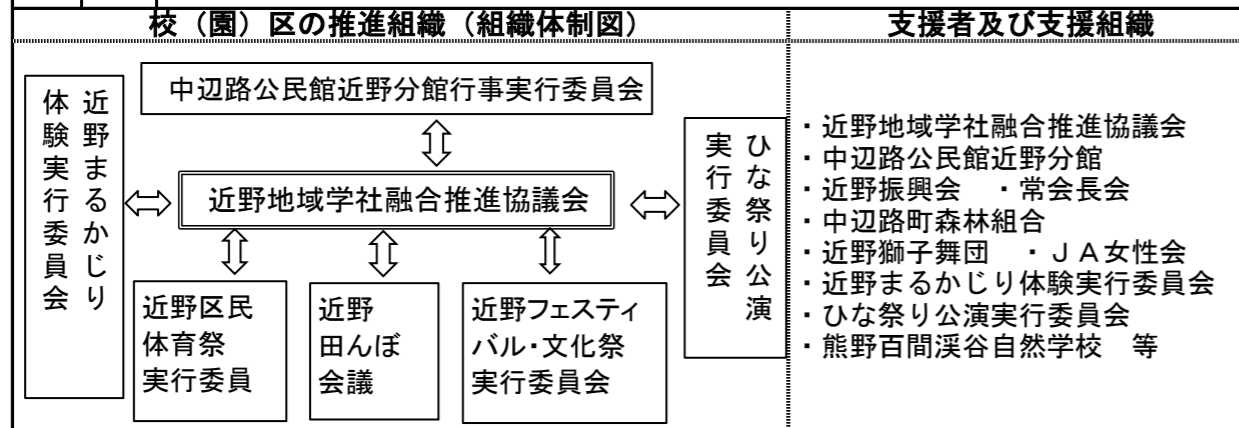
学校・園名	田辺市立中辺路小学校	公民館名	中辺路公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>本校は中辺路学社融合推進協議会を中心として、公民館・社会福祉協議会・老人会等の関係機関に様々な協力をいただきながら取組を進めている。地域の方々や保護者に見守られて子供たちは明るく健康的な学校生活を送っている。学校・町民合同運動会など地域の方々に訪れていただける行事を計画して、子供たちががんばっている姿を見てもらえるように、また、共に活動したり現地に出向いて指導していただいたりする中で、ふれあいや協働の機会を持てるように努めている。</p>			
目 標	<p>子供たちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・困難化しており、教育改革、地方創生等の動向からも、学校と地域の連携・協働の重要性が指摘される中、学校や地域が抱える課題を解決するとともに、地域を担う人材を育成するため、これまでの「学社融合の取組」を活かして、学校と地域が当事者意識をもって子供の成長を支えていく学校づくりを進める。</p>		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
<p>田辺市学社融合推進協議会規則（H30.4.1施行）に基づき設置</p> <div style="text-align: center;">  </div>		<ul style="list-style-type: none"> ・公民館 ・町内会 ・老人会 ・社会福祉協議会 ・読み聞かせサークル ひまわり ・田辺市消防団中辺路支団 ・岩見淳三（プロギタリスト） ・下校見守り隊 ・JA女性会 ・校区内在住の方々 	
成果と課題（学校・公民館からの視点）			
成果		課題	
学校	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会、収穫祭、学習発表会などで地域の方々に来校していただき、こどもたちの活動や学習の様子を参観していただくことができた。 ・奉仕作業では、消防団等多くの方々の参加を得ることができ、学校の環境整備が進んだ。 ・うつほの杜学園の児童と一緒に、年間を通して米作り体験を行うことができた。 ・こどもたちの地域を愛する気持ちや、人々の思いを受け継いでいきたいという気持ちが育まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫祭では、児童と来校いただいた地域の方々との交流ができるように声かけを行ったが、より交流が深まるように場の持ち方等を工夫したい。 ・ホームページでの情報発信があまりできなかったもので、内容の充実し、広く発信できるようにしたい。 ・今年度、初めてうつほの杜学園との交流や活動を実施することができた。今後も連携を深め、様々な取組を行っていきたい。 	
公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・中辺路文化祭および町民俳句大会においては、学校と連携することで、生徒の作品を多数出展し、地域の方々に見てもらえることができた。 ・中辺路子ども環境探偵団を通じて、歴史や伝統、自然環境等の地域の魅力を子どもたちに伝えることができた。 ・学校訪問では、授業の様子を参観することにより、生徒の学校生活の様子を把握することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中辺路子ども環境探偵団「潮見峠越ウォーク」の実施にあたって、熊による被害が各地で報じられたことから、座学に変更した。今後も熊対策を講じる必要がある。 ・中辺路文化祭において、作品展示に加え、その他にも学校と連携した取組についても実施を検討したい。 ・今後も様々な事業を継続していくためには、新たな支援者の発掘や学校の要望に応じたゲストティーチャーの紹介を進めていく必要がある。あわせて、支援者や講師の高齢化が進んでいる現状を踏まえ、次世代の担い手の確保に努めていきたい。 	

今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も、学社融合推進協議会として、学校・保護者の負担軽減を考え、小・中学校・地域が連携して奉仕作業を行う。また、他のことでも人手が足りないときや必要なときは、学社融合推進協議会に声をかけてくれればサポートする。 ・学習支援・行事部会と環境・安全部会は、必要に応じて開催する。 ・教員による盗撮等が他県で起こっているため、田辺市として教員のスマホの使用の在り方について対策が必要ではないか、との意見があり、市として対策に取り組んでいる旨を説明した。 ・授業において、教員として正確な言葉の使い方をするよう気をつけてほしい。 	
特徴的な協働活動	
<p>「わたしたちのふるさと中辺路（ふるさと学習）」の取組</p> <p>学校運営方針に「保護者・地域との連携を深め、共に学び、信頼される学校づくりの推進」を掲げ、ふるさと学習に力を入れている。「ふるさとに学び、ふるさとの良さを伝えよう」を目標に、「地域の方と共に学び、地域に親しみを持つことができる」「ふるさと中辺路に愛着をもち、その良さ、魅力を発信することができる」児童の育成に努めている。</p>	
<p>学社融合推進協議会の委員さん自身も、以下のように積極的に様々な学社融合の活動に取り組んでくれている。</p>	
○米作り体験	<p>土山徹さんご夫妻にお世話になり、5・6年生が、水田をお借りして米作り体験をさせていただいていた。4月以降、もみの消毒、もみまき、田植え、雑草引き、稲刈り、脱穀、もちつきと、年間を通じて実施し、大変貴重な体験となった。</p> <p>また、今年度は、うつほの杜学園の皆さんと一緒に取り組んでおり、学校間の交流の機会にもなった。</p>
	
○クラブ活動	<p>9月のクラブ活動では、山中勝治さんにお世話になり、川遊びをした。はじめに、川や海に住む生き物のことや環境のことなどのお話があり、自然を大切にしていくことの必要性を学ぶことができた。その後、魚やエビの見つけ方や捕まえるコツを教してもらったり、大きなモクズガニを見せてもらったりするなど自然を満喫した。</p> <p>後日、学校にも持ってきてくださったモクズガニを見て、1年生が絵を描き、ある絵画展で見事入賞した。</p>
	 <p style="text-align: right;">児童が描いたモクズガニの絵</p>
○中辺路子ども環境探偵団（主催：中辺路公民館、共催：中辺路小・近野小）	<p>竹中清さん（いちいがしの会）、庄司堅一さん（南方熊楠顕彰館会員）を講師に迎え、4年生が「南方熊楠と中辺路」をテーマに、福定「春日神社」や野中「継桜王子」などを巡ったり、粘菌やキノコを探したりした。</p> <p>こどもたちからは「粘菌を探すのが宝探しみたいでわくわくした」「熊楠さんが杉の木を守るための行動力がすごい」などの感想があり、南方熊楠と中辺路の自然や文化について学ぶことができた。</p>
	
○陶芸体験	<p>庄司幸代さんにお世話になり、5・6年生が、幸工房様で陶芸体験をさせていただいた。</p> <p>はじめに、丸い粘土をたたいたりひねったりしながら指で少しずつ形を整え、道具を使って光の漏れる穴を開け、ランタンを作った。2作品目は、自分の好きなものを思い思いに作り、コップや置物など発想豊かな作品ができあがった。庄司さんは、作業中のこどもたちの様子に常に気を配り、そばに行き優しく丁寧に教えてくださった。</p>
	

学校・園名	田辺市立近野小学校	公民館名	中辺路公民館近野分館
-------	-----------	------	------------

学社融合における学校・地域の様子
 近野地域は、歴史や伝統文化、自然環境に恵まれており、また、地域社会の学校教育への協力体制も手厚い。本校では学社融合を通して地域の豊かな文化・伝統・自然に学び、郷土への誇りと愛情をもつ子どもを育てることをねらいとし、取組を進めている。諸行事（近野区民体育祭、近野まるかじり体験、近野フェスティバル・文化祭、）は、公民館、地域の諸団体、保育園、小学校、中学校で連携しながら運営している。学校行事やクラブ活動、各教科の授業など、様々な教育活動で地域の方々が積極的に参画していただき、多くの教育的効果をあげることができている。

目 標	学校・園・地域	学校を含め地域の教育・文化の振興、児童生徒と地域住民の活力・健康増進、地域福祉の増進等に関わる行事等を通して、教育上の諸課題解決に寄与するための取組を行う。 【学校】 ・地域での学習活動を通して地域を知る。 ・共同作業を通して協調性を養い、共に助け合うことの大切さを学び、地域住民とともに伝統・文化を大切に、尊重する気持ちを育てる。 ・地域の一員として地域の行事に参加し、地域に対する感謝の気持ちを表すとともに、地域の振興に貢献することで達成感を味わわせ、郷土愛を培う。 【地域】 ・児童生徒と地域住民との交流を通して、児童生徒・保護者・地域住民の相互理解を深める。 ・学校と保護者、地域の連携を密にして児童生徒の健全育成を図る。
--------	---------	--



成果と課題（学校・公民館からの視点）

学校	成果 ・今年度も体育祭や文化祭など、学校と地域の連携を深めながら、地域の教育力、学校の教育力を生かした取り組みができた。 ・学社融合推進協議会や各行事の実行委員会では、学校の取り組みについての共通理解ができる場になった。また、地域から見た児童の様子をお聞きすることができた。 ・地域の豊かな文化や伝統、自然から学び、伝える活動を通して、地域の方々と繋がり、感謝し、郷土愛を育むことができた。 ・これまでの支援者だけでなく、新しい支援者の方との繋がりもできてきている。	課題 ・児童が主体的に取り組めるよう、活動の目的を児童にもしっかり意識させることや、児童が自ら地域の方に関わっていくことができるコミュニケーション能力を育てていくことを大切にする。 ・持続可能な教育活動にするため、地域の方々と一部の職員だけの繋がりにならないよう、全職員で関わり、引き継ぎを行っていく。 ・時数や教科との関連を意識し、より効果的な取り組みになるよう、来年度に向けて活動内容を見直し必要な修正を加えていくようにする。
----	--	---

公民館（地域）	・近野獅子舞団の協力により、伝統芸能「野中の獅子舞」の指導を受け発表することにより、郷土文化の継承に少しでも関心を持つことができたと思う。 ・保育園、小中学校及び地域全体の区民体育大会では、個々の力、児童生徒の協力した力、地域を含む団体の力を楽しみながら発揮できたのではないかなと思う。 ・近野フェスティバルでは、ふるさと学習を通して地域を知り、郷土を誇りに思う気持ちが育まれる発表の場となった。	・学社融合の先端地域と自負してきたが、地域では人口減少が危惧されている。今後学校関連人口を増やすことが最優先となっている。現存行事を守りつつ、卒業生の保護者にも積極的な参加、協力をお願いしたい。
---------	--	---

今年度の取組内容
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

- 【第1回 近野地域学社融合推進協議会】4/21
 - (1) 児童・生徒の様子を参観する
 - (2) 協議
 - ①職員及び児童生徒について
 - ②役職・年間計画・予算の決定 承認
 - ③令和7年度小・中学校経営方針について
 - ④学社融合推進協議会の委員と方向性を確認
 - ⑤中学校修学旅行について
- 【近野区民体育祭実行委員会】4/21
 - ①種目の確認（保・小・中・地域）
 - ②準備・片付け・草刈りについて
 - ③お楽しみ抽選会について
- 【近野フェスティバル実行委員会】9/16
 - ①目的・日程・内容について
 - ②野菜の販売・作品出品について
 - ③役割分担について
- 【第2回 近野地域学社融合推進協議会】2月予定

特徴的な協働活動

地域の方々とふれあいながら 地域の豊かな文化・伝統・自然に学ぶ

田植え 稲刈り ブルーベリー狩り

地域の方々の協力で、季節を感じる勤労体験を毎年全校でさせていただいている。地域の方と交流を深め、地域を愛する心が育まれている。

中辺路子ども環境探偵団

公民館主催で4年生が南方熊楠ゆかりの土地探索を行った。講師先生から丁寧な指導をいただき、中辺路の自然や歴史、文化といった地域の魅力を肌で感じる事ができた。

近野区民体育祭 近野フェスティバル・文化

小・中・保護者・地域の各種団体との連携を深め、地域ぐるみの教育創造を目指すため、毎年保・小・中・地域合同の体育祭や文化祭を行っている。地域の方と一緒に楽しむ児童の姿が見られた。

地域合同避難訓練・防災学習

今年度は田辺市防災訓練と同時に開催で、午前中は自宅から体育館への避難訓練と消防隊員による体験訓練、午後からは自衛隊による体験型防災学習を行った。地域全体の防災意識を高めることができた。

ふるさと学習

各クラスとも、たくさんの身近な教材の中からふるさと学習を行っている。地域に足を運び、地域の方から直接お話を聞きながら学習を進めた。また、近野まるかじり体験や近野フェスティバルでは獅子舞団から教わった「道中」を全校で披露したり、5・6年生はジュニア語り部などを行ったりし、地域の文化や歴史を発信することができた。

学校・園名	田辺市立鮎川小学校	公民館名	大塔公民館 鮎川分館・富里分館・三川分館
-------	-----------	------	-------------------------

学社融合における学校・地域の様子

本校は、平成27年に三川小学校、平成30年に富里小学校と統合し、大塔地域に1校の小学校となった。旧大塔村時代より、地域連携教育や小中一貫教育を推進してきた背景から、地域全体として子どもたちを温かく見守り、育てていこうという意識を常に高く持ち続けている。中学1年生と小学5年生・6年生が6つの講座に分かれて参加する選択交流学習や小学校の授業へのサポート、登下校の見守りや放課後の居場所づくりに協力していただいている。「大塔地域学社融合推進協議会」では、生活行事支援部会と学習支援部会の2つの部会に分かれ、小中学校と家庭と地域が連携・協働し「高めよう、ふるさと大塔。みんなの力で!」をテーマに取り組んでいる。

目 標	学校・園・地域	<ul style="list-style-type: none"> ○大塔地域において、学校と家庭と地域が連携・協働し、子供たちの成長を支える学校づくりを進める。 ○鮎川小学校と大塔中学校の9年間を見通した学校運営を行う。 ○今まで培ってきた「大塔地域共育コミュニティ」の力を活用し、学校や地域の抱える課題を解決するとともに、これからの大塔地域を担う人材を育成する。 ○学校・家庭・地域それぞれが成長することを目指す。 					
	校（園）区の推進組織（組織体制図）						
	支援者及び支援組織	<ul style="list-style-type: none"> ○大塔公民館、各分館 ○田辺市自治会連絡協議会大塔支部 ○大塔女性会 ○大塔老人クラブ ○社会教育委員会 ○子どもクラブ ○鮎川ふれあいスクール ○民生児童委員 ○田辺市保護司会大塔支部 ○社会福祉協議会 ○田辺市消防 大塔分署 ○青少年育成市民会議大塔地区協議会 					
	成果と課題（学校・公民館からの視点）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>成果</th> <th>課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○選択交流学習…小学5・6年と中学1年を対象に、6つの講座（地域の方々から学ぶ）から希望の講座を選択して活動した。児童は地域の方や異学年の児童生徒と交流を深めることができた。 ○大塔リフレッシュ大作戦…地域の方々と一緒に環境整備の活動を実施することにより、「自分たちの地域は自分たちで美しく」という思いが高まった。 ○出前ふれあいスクール…低学年を対象に昔の遊びや防災についての学習を行った。地域の方との交流を深めながら、防災についての意識を高めることができた。 ○授業サポート…ミシンや毛筆のサポートをしていただき、課題への理解を深めながら、技術を向上させた。 ○チャレンジキャンプ…青少年旅行村で公民館の方々にお手伝いいただき、カレー作りやキャンプファイヤー、カヌー体験を行った。地域の自然に触れながら普段できない体験をし、集団生活のあり方や公共道徳について学んだ。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○選択交流学習では、同じ講座を選択すると内容が同じになることがあるので、選択の仕方や内容を考える必要がある。また、今年度は、ゲストティーチャーの確保に関して支障はなかったが、今後人材の確保といった面で、難しくなっていくことが予想される。幅広い分野、多様な年齢層の方から学ぶ機会を作っていくために、声かけをしていきたい。 ○職員の入れ替わりがあるので、活動がスムーズに進まないところがあった。仕方がない部分もあるが、活動を引き継いでいけるよう、記録を残したり、引き継げる体制を整えたりしておく必要がある。また、小学校・中学校・公民館・地域が情報共有し、無理なく活動が進められるような取組にしていきたい。 ○活動を行うに当たって、人材確保や日程調整、打ち合わせ、連絡、準備、児童への事前指導、事後指導等に時間がかかりすぎないようにしていきたい。 </td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○ふれあいスクール（放課後子ども教室）や学校図書館ボランティア活動、授業のサポート、公民館行事等を通して、児童と地域の方々に関わる機会を増やし、世代間の交流を深めることができた。 ○校外学習（チャレンジキャンプ）では、地域の方々のご協力を得て、児童たちに、普段はなかなか経験できないカヌー体験等をしてもらったり、自分たちの住む大塔地域の魅力を伝えたりすることができた。 ○朝のあいさつ運動や見守り活動、コミュニティスクールだよりや公民館報の紙面を通じて、児童たちに様々な生活支援を行うことができた。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○現在、学社融合活動への協力者はふれあいスクールサポーターを中心に15名程度で固定化されている。今後、過疎化、高齢化の影響により、協力者の減少が懸念されるため、コミュニティスクールだよりや公民館報等で継続的に広報を行い、特に若い人材の発掘・確保に努めていきたい。 ○授業へのサポートでは、毎回、学社融合担当教諭や各担任から公民館へ協力者の派遣依頼があり、公民館職員が住民への呼びかけと取りまとめをしているが、内容・分野によっては協力者が集まりにくいものがある。 ○学校所在地の鮎川地区での学社融合活動が多いので、学校がなくなってしまった山間部の三川や富里地区住民と子供たちとの交流活動ができないか、学校とともに検討していきたい。 </td> </tr> </tbody> </table>	成果	課題	<ul style="list-style-type: none"> ○選択交流学習…小学5・6年と中学1年を対象に、6つの講座（地域の方々から学ぶ）から希望の講座を選択して活動した。児童は地域の方や異学年の児童生徒と交流を深めることができた。 ○大塔リフレッシュ大作戦…地域の方々と一緒に環境整備の活動を実施することにより、「自分たちの地域は自分たちで美しく」という思いが高まった。 ○出前ふれあいスクール…低学年を対象に昔の遊びや防災についての学習を行った。地域の方との交流を深めながら、防災についての意識を高めることができた。 ○授業サポート…ミシンや毛筆のサポートをしていただき、課題への理解を深めながら、技術を向上させた。 ○チャレンジキャンプ…青少年旅行村で公民館の方々にお手伝いいただき、カレー作りやキャンプファイヤー、カヌー体験を行った。地域の自然に触れながら普段できない体験をし、集団生活のあり方や公共道徳について学んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○選択交流学習では、同じ講座を選択すると内容が同じになることがあるので、選択の仕方や内容を考える必要がある。また、今年度は、ゲストティーチャーの確保に関して支障はなかったが、今後人材の確保といった面で、難しくなっていくことが予想される。幅広い分野、多様な年齢層の方から学ぶ機会を作っていくために、声かけをしていきたい。 ○職員の入れ替わりがあるので、活動がスムーズに進まないところがあった。仕方がない部分もあるが、活動を引き継いでいけるよう、記録を残したり、引き継げる体制を整えたりしておく必要がある。また、小学校・中学校・公民館・地域が情報共有し、無理なく活動が進められるような取組にしていきたい。 ○活動を行うに当たって、人材確保や日程調整、打ち合わせ、連絡、準備、児童への事前指導、事後指導等に時間がかかりすぎないようにしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ふれあいスクール（放課後子ども教室）や学校図書館ボランティア活動、授業のサポート、公民館行事等を通して、児童と地域の方々に関わる機会を増やし、世代間の交流を深めることができた。 ○校外学習（チャレンジキャンプ）では、地域の方々のご協力を得て、児童たちに、普段はなかなか経験できないカヌー体験等をしてもらったり、自分たちの住む大塔地域の魅力を伝えたりすることができた。 ○朝のあいさつ運動や見守り活動、コミュニティスクールだよりや公民館報の紙面を通じて、児童たちに様々な生活支援を行うことができた。
成果	課題						
<ul style="list-style-type: none"> ○選択交流学習…小学5・6年と中学1年を対象に、6つの講座（地域の方々から学ぶ）から希望の講座を選択して活動した。児童は地域の方や異学年の児童生徒と交流を深めることができた。 ○大塔リフレッシュ大作戦…地域の方々と一緒に環境整備の活動を実施することにより、「自分たちの地域は自分たちで美しく」という思いが高まった。 ○出前ふれあいスクール…低学年を対象に昔の遊びや防災についての学習を行った。地域の方との交流を深めながら、防災についての意識を高めることができた。 ○授業サポート…ミシンや毛筆のサポートをしていただき、課題への理解を深めながら、技術を向上させた。 ○チャレンジキャンプ…青少年旅行村で公民館の方々にお手伝いいただき、カレー作りやキャンプファイヤー、カヌー体験を行った。地域の自然に触れながら普段できない体験をし、集団生活のあり方や公共道徳について学んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○選択交流学習では、同じ講座を選択すると内容が同じになることがあるので、選択の仕方や内容を考える必要がある。また、今年度は、ゲストティーチャーの確保に関して支障はなかったが、今後人材の確保といった面で、難しくなっていくことが予想される。幅広い分野、多様な年齢層の方から学ぶ機会を作っていくために、声かけをしていきたい。 ○職員の入れ替わりがあるので、活動がスムーズに進まないところがあった。仕方がない部分もあるが、活動を引き継いでいけるよう、記録を残したり、引き継げる体制を整えたりしておく必要がある。また、小学校・中学校・公民館・地域が情報共有し、無理なく活動が進められるような取組にしていきたい。 ○活動を行うに当たって、人材確保や日程調整、打ち合わせ、連絡、準備、児童への事前指導、事後指導等に時間がかかりすぎないようにしていきたい。 						
<ul style="list-style-type: none"> ○ふれあいスクール（放課後子ども教室）や学校図書館ボランティア活動、授業のサポート、公民館行事等を通して、児童と地域の方々に関わる機会を増やし、世代間の交流を深めることができた。 ○校外学習（チャレンジキャンプ）では、地域の方々のご協力を得て、児童たちに、普段はなかなか経験できないカヌー体験等をしてもらったり、自分たちの住む大塔地域の魅力を伝えたりすることができた。 ○朝のあいさつ運動や見守り活動、コミュニティスクールだよりや公民館報の紙面を通じて、児童たちに様々な生活支援を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○現在、学社融合活動への協力者はふれあいスクールサポーターを中心に15名程度で固定化されている。今後、過疎化、高齢化の影響により、協力者の減少が懸念されるため、コミュニティスクールだよりや公民館報等で継続的に広報を行い、特に若い人材の発掘・確保に努めていきたい。 ○授業へのサポートでは、毎回、学社融合担当教諭や各担任から公民館へ協力者の派遣依頼があり、公民館職員が住民への呼びかけと取りまとめをしているが、内容・分野によっては協力者が集まりにくいものがある。 ○学校所在地の鮎川地区での学社融合活動が多いので、学校がなくなってしまった山間部の三川や富里地区住民と子供たちとの交流活動ができないか、学校とともに検討していきたい。 						

今年度の取組内容
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

第1回大塔地域学社融合推進協議会（6/26）〈大塔公民館・成人教室〉
 ①コミュニティスクール構想・大塔地域学社融合推進協議会設置要綱の確認
 ②令和7年度鮎川小学校・大塔中学校学校運営方針の承認 ③活動計画と予算の承認
 ※すでに実施済みの第1回選択交流学習での準備面や児童生徒の取り組み方についての反省点をあげた後、協議会としての支援の仕方について確認した。

第2回大塔地域学社融合推進協議会（10/24）〈大塔公民館・成人教室〉
 ①全国学力学習状況調査結果について報告 児童生徒の様子について情報交換
 ②大塔リフレッシュ大作戦について ③防災学習について
 ④2部会の活動報告
 ※大塔リフレッシュ大作戦のごみ回収コースや作業の内容について、昨年度の反省を生かして見直しを行った。今後もよりよい活動になるよう改善していくことについて確認した。

第3回大塔地域学社融合推進協議会（大塔公民館にて2月に開催予定）
 ①令和7年度鮎川小学校・大塔中学校の学校評価について
 ②2部会の活動内容と成果について報告 ③決算報告 ④全体を通しての成果と課題について

特徴的な協働活動

【生活行事支援部】学校行事の地域との協働を進める。地域行事への児童・生徒・保護者の参加を進める。登校の見守り、毎月はじめの登校指導を行う。学校や施設の整備作業を進める。
 ☆大塔音頭の講習会 ☆川パトロール・大塔地球元氣村パトロール ☆大塔リフレッシュ大作戦
 ☆ふれあいスクールへの協力 ☆登校時の見守り活動・あいさつ運動 ☆通学路の安全点検、改善要望
 ☆すぐーで情報共有 ☆施設の整備作業

【学習支援部】学校図書館の運営ボランティア、学習やクラブ活動の支援を進める。
 ☆図書ボランティア（水曜日の昼休み） ☆クラブ活動（生け花・将棋） ☆芋の苗植え・焼き芋 ☆出前授業
 ☆選択交流学習 ☆ミシン（裁縫）・書写等実習ボランティア（適宜）

【ふれあいスクール】
 小学校の児童を対象に放課後の居場所づくりとして、地域や各団体の方々にご協力いただき、工作や運動、お菓子作り、クリスマス会などの行事を計画し、実施した。



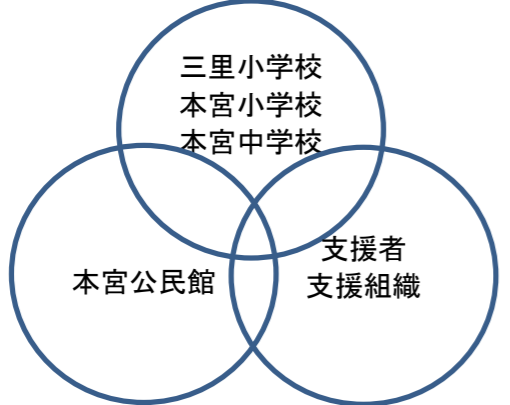
【ふれあい出前授業】
 低学年はふれあいスクールのサポーターさん（ちい先生）に出前授業に来ていただいた。「遊びを楽しもう」では、お手玉やけんけんば、陣取りをしながら、ちい先生と交流した。「楽しく学ぼう！防災学習」では、防災クイズや防災ダックゲーム、新聞紙スリッパ・レジ袋防災頭巾の作製などを通して、ちい先生から楽しく防災について学んだ。

【選択交流学習】
 6月と10月に、5、6年生と中学1年生が小中学校の垣根を越え一緒に学ぶ「選択交流学習」を行った。「音楽」「体育」「生け花」「大塔探訪」「茶道」（1学期）「木工」（2学期）の6講座から希望の講座を選択し、地域の方々から学んだ。



学校・園名	田辺市立三里小学校	公民館名	本宮公民館
学社融合における学校・地域の様子 本宮地域では共育コミュニティといわれる以前から地域連携教育を行っており、本宮地域学社融合推進協議会は、小学校2校、中学校1校と家庭、地域が一体となって連携・協働を行い交流を進めている。また、同協議会の主催事業として、児童・生徒と先生、地域住民が顔を合わせ交流する機会を提供し、より強いつながりを築くことを目的に「本宮つながりフェス」を開催している。さらに、本宮行政局ロビーに各校の学社融合の活動内容を掲示し、地域の方に取組の広報活動を実施している。			
目 標	本宮地域学社融合推進協議会発足前より、本宮独自で発生した取組である主な3項目、熊野古道道普請、古道ジュニア語り部、郷土芸能伝承は関係団体の協力を得ながら継続事業として引き続き実施していく。 また、地域を知ることを目的に歴史、産業などを学校支援者・支援組織の皆様との協力を得ながら学びの機会を創出していく。 本年度は学社融合推進協議会の定例会で、「本宮地域の魅力再発見」をテーマに協議した上で取組を進めていくこととした。		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
		育友会 熊野本宮語り部の会 田辺市女性会連絡協議会本宮支部 本宮町自治会連絡協議会 学校ボランティア 世界遺産熊野本宮館 熊野本宮伝統芸能教室 公民館サークル 学校クラブ活動協力者 和歌山県世界遺産センター	
成果と課題（学校・公民館からの視点）			
成果		課題	
学校	<ul style="list-style-type: none"> 本校の学社融合の基本方針である「地域に生きる学校として、地域を生かした学びを深める」という目標に沿った取組ができた。本地域には、地域を愛し地域に根ざした活動をされている方がたくさんいる。その方々をゲストティーチャーとして招いたり、現地見学をしたりする中で、児童たちの地域に対する理解や愛着心を高めることができた。 語り部ジュニアの取組は、自分で学び考えた文章を自分の口で伝えるという活動が、表現力の育成につながっている。また、高学年の活動を見て、低・中学年も憧れをもち、引き継いでいこうという気持ちも育っている。 公民館との連携の中で、学校や地域においての様々な行事を、協力して実施できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 定番化されている活動に関しては、マンネリ化を防ぐよう見学先を隔年で変更したり、発信方法を工夫したりしながら進めていくことが大切である。 福祉学習の系統化が不十分であるため、6年間を見通した計画を立てていく必要がある。 ふるさと学習については、職員の入れ替わりがあっても継続して実施できるよう、情報の集約や共通理解が必要である。 	
公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> 運動会や秋祭りなど学校行事や公民館行事を共に協力し合いながら実施し、地域住民との交流の場となった。 本宮つながりフェスでは参加者全員で「本宮町でできること・やりたいこと」について意見を出し合うなど、つながりを深めることができた。 学校の体験学習やクラブ活動に地域の方や団体を支援者として紹介し、それにより支援者も指導する喜びや生きがいを感じられる機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 加速的に進む人口減少と高齢化の中、新しい学習パートナーの発掘に苦慮している状況にある。今後も学社融合活動についての趣旨や活動をコミュニティ通信や公民館報などで地域住民に情報を発信し、興味を持ってもらえるよう努めていきたい。 子供たちが生まれ育った地域を知り理解する学習について、地域住民に協力していただいているが、この学びを故郷の魅力発信とし故郷に誇りを持てるよう、今後もその活動を支援していきたい。 	

今年度の取組内容 会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）			
<ul style="list-style-type: none"> ○本宮地域学社融合推進協議会では定例会を年2回開催する。 ・第1回定例会で承認された事業内容について取り組む。 承認された事業内容は、「各校と地域独自の学社融合の取組を継承しつつ、小中交流会などの合同開催や授業参観での公開授業、花植えボランティアなど地域と連携した行事を進めながら学社融合の取組を充実していく。」ことである。 ＜各校独自の取組＞・・・郷土芸能伝承、図書ボランティア、防災教室、福祉学習、社会体験教室、授業協力 等 ＜地域独自の取組＞・・・語り部ジュニア、熊野古道道普請 等 ・今年度は、第1回目の定例会において「本宮地域の魅力再発見」をテーマに、意見を出し合い交流した。様々な分野における魅力を取り上げていく中で、新たな魅力を発見したり、知っていた魅力に対しても別の見方による良さがあることに気付いたり、たくさんの方々の魅力の“再発見”を共有した。 ・委員からの意見 今回の協議では、様々な魅力を交流する中で本宮地域の良さを改めて確認することができた。交流した魅力を学校や学社融合の場においてどう活用するかが、今後重要となってくる。 			
特徴的な協働活動			
【本宮行政局や公民館（三里分館）の行事での取組】 <ul style="list-style-type: none"> ・三里祭では、児童有志の発表・三里劇団への児童の参加・育友会によるバザーを行った。 ・本宮町文化作品展・三里祭（三里分館主催）には、児童・教職員の作品を展示した。 ・こだま祭では、田辺消防署本宮分署の体験コーナーの運営補助を少年消防クラブが行った。 ・三里運動会は、小学校・三里分館が実行委員会となり、計画・準備・運営を共に行った。 			
【熊野古道ジュニア語り部】 <ul style="list-style-type: none"> ・「語り」の作成・練習は、古道語り部の方の指導・助言を受けて行っている。 ・10月に本校保護者と本宮小学校児童に、12月に田辺東部小学校児童に語り部を行った。 		【本宮つながりフェス】 <ul style="list-style-type: none"> ・本宮中学校体育館を会場に、旧町内全小中学生及び教職員・地域住民・関係各所職員が参加。 ・「本宮町でできること・やりたいこと」をテーマに本宮町の未来について交流を深めた。 	
【図書ボランティア】 <ul style="list-style-type: none"> ・新刊本のカバーかけ ・読み聞かせ・音読劇 		【地域の方から学ぶ】 <ul style="list-style-type: none"> ・お茶作り ・石谷牧場見学 ・熊野鼓動見学 ・クラフトクラブ ・薬物乱用防止教室 ・ブラッシング指導 	

学校・園名	本宮小学校	公民館名	本宮公民館
学社融合における学校・地域の様子 本宮地域では共育コミュニティといわれる以前から地域連携教育を行っており、本宮地域学社融合推進協議会は、小学校2校、中学校1校と家庭、地域が一体となって連携・協働を行い交流を進めている。また、同協議会の主催事業として、児童・生徒と教職員、地域住民が顔を合わせ交流する機会を提供し、より強いつながりを築くことを目的に「本宮つながりフェス」を開催している。さらに、本宮行政局ロビーに各校の学社融合の活動内容を掲示し、地域の方に取組の広報活動を実施している。			
目 標	本宮地域学社融合推進協議会発足前より、本宮独自で発生した取組である主な3項目、熊野古道道普請、古道ジュニア語り部、郷土芸能伝承は関係団体の協力を得ながら継続事業として引き続き実施していく。 また、地域を知ることを中心に歴史、産業などを学校支援者・支援組織の皆様との協力を得ながら学びの機会を創出していく。 本年度は学社融合推進協議会の定例会で、「本宮地域の魅力再発見」をテーマに協議を行った上で、今後の取組のめあてを設定し、取組を進めていくこととした。		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
		育友会 熊野本宮語り部の会 田辺市女性会連絡協議会本宮支部 本宮町自治会連絡協議会 学校ボランティア 世界遺産熊野本宮館 熊野本宮伝統芸能教室 公民館サークル 学校クラブ活動協力者 和歌山県世界遺産センター	
成果と課題（学校・公民館からの視点）			
成果		課題	
学校	<ul style="list-style-type: none"> 語り部ジュニア活動は、昨年度の活動で得た成果や課題を生かしながら取り組めたことで、より充実した語りを行うことができた。また、今年度は語るルートを変更したことで台本を作り直すことに苦労したが、古道に関する新たな発見ができた機会にもなった。参加者に楽しく分かりやすい語り部になるように工夫することを通して、子供たちのコミュニケーション能力の向上につながった。 クラブ活動や手話学習、伝統芸能の活動には今年度も地域の方々に学習パートナーとして参画していただいた。クラブ活動では、地域にある古本屋の店主さんや地域にお勤めの写真撮影の得意な方に教えていただき、地域の方と関わりを深めながら活動することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童数が少ないことから、子供たちのコミュニティに限られたものになっている。そこで、近隣校や地域との関わりを場をより一層、意図的・計画的に取り入れることで、子供たちのコミュニティを広げていく必要性を感じている。しかし、形骸化することなく、より充実した活動になるよう、その活動の意義や目的を子供たちや職員間で確認・共有するようしなければならぬ。また、学習パートナーとの新たな取組を模索する姿勢を持って臨むことも大切である。 高齢化等による新たな学習パートナー確保の難しさや児童数の減少による活動継続への不安、さらには学社融合の活動と教科学習をより効果的かつ効率よく繋げるためのカリキュラムづくりを模索する必要性を感じている。 	
公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> 運動会や秋祭りなどの学校行事や公民館行事を共に協力し合いながら実施し、地域住民との交流の場となった。 本宮つながりフェスでは参加者全員で「本宮町でできること・やりたいこと」について意見を出し合うなど、つながりを深めることができた。 学校の体験学習やクラブ活動に地域の方や団体を支援者として紹介し、それにより支援者も指導する喜びや生きがいを感じられる機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 加速的に進む人口減少と高齢化の中、新しい学習パートナーの発掘に苦慮している状況にある。今後も学社融合活動についての趣旨や活動をコミュニティ通信や公民館報などで地域住民に情報を発信し、興味を持ってもらえるよう努めていきたい。 子供たちが生まれ育った地域を知り、理解する学習について地域住民に協力していただいているが、この学びを故郷の魅力発信とし故郷に誇りを持って、今後もその活動を支援していきたい。 	

今年度の取組内容 会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
○本宮地域学社融合推進協議会では定例会を年2回開催する。 ・第1回定例会で承認された事業内容について取り組む。 承認された事業内容は、「各校と地域独自の学社融合の取組を継承しつつ、小中交流会などの合同開催や授業参観での公開授業、花植えボランティアなど地域と連携した行事を進めながら学社融合の取組を充実していく。」ことである。 <各校独自の取組>・・・郷土芸能伝承、図書ボランティア、防災教室、福祉学習、社会体験教室、授業協力 等 <地域独自の取組>・・・語り部ジュニア、熊野古道道普請 等 ・今年度は、第1回目の定例会において「本宮地域の魅力再発見」をテーマに、意見を出し合い交流した。様々な分野における魅力を取り上げていく中で、新たな魅力を発見したり、知っていた魅力に対して別の見方による良さがあることに気付いたり、たくさんの方々の魅力の“再発見”を共有した。 ・委員からの意見 今回の協議では、様々な魅力を交流する中で本宮地域の良さを改めて確認することができた。交流した魅力を学校や学社融合の場においてどう活用するかが、今後重要となってくる。	
特徴的な協働活動	
1. 【春のつながり遠足『旧校舎へLet's go!』】 今年度も地域や保護者の方と一緒に旧校舎をめざして歩く「旧校舎へLet's go」を計画した。今年度は雨に悩まされ、予備日も雨であったが、旧校舎の体育館と校舎を使って行った。地域の方の参加はかなわなかったが、保護者の方が10名ほど参加してくださいました。みんなでゲームをしたり校舎全体を使ったかくれんぼをしたりして楽しんだ。みんなで一緒に食べるお弁当は最高であった。予定していた川湯温泉での足湯はできなかったが、子供たちと保護者と職員のつながりを一層深められた大変有意義な時間を過ごすことができた。	
	
2. 【語り部ジュニア活動】 今年度も5、6年生の子供たちは、本宮語り部の会の梅崎さんのご指導の下、本宮や熊野古道の魅力伝えるべく、語り部学習を進めることができた。今年度は三里小学校の語り部ルートの続きとなる三軒茶屋から大斎原までの古道を語るルートに変更した。新たに語りの台本を作成することとなり苦労したこともあったが、熊野古道についてより一層詳しく学ぶ機会にもなった。昨年度も経験している6年生を中心に、声の大きさや間合い、提示資料を工夫するとともに、場所の案内だけでなく、道中の安全のための声かけや日常会話などを行い、語り部活動に参加して下さった方々が安全に楽しく歩けるように努めることができた。語り部活動当日は、三里小学校の5、6年生や本校の保護者、行政の方々等が参加してくれ、子供たちも練習の成果を発揮しようとして一生懸命に語る事ができた。	
	
3. 【手話学習】 地域にお住いの小淵静子さんを講師としてお招きし、4年生が福祉学習として「聴覚障がい」についての学習をおこなった。保護者学級としても位置づけている。この学習では、指文字や手話について学ぶと同時にそれらを実際を使って交流する活動を大切にしたい。子供たちだけでなく一緒に参加した保護者の方々も覚えるのに苦労しながらも手話を使った交流を楽しみながらおこなうことができた。今後も継続して取り組みたい学習である。	
	

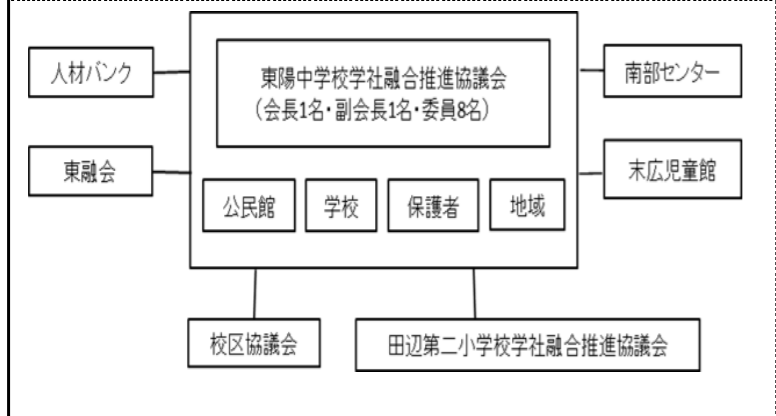
学校・園名	田辺市立東陽中学校	公民館名	東部・中部・南部・ひがし公民館
-------	-----------	------	-----------------

学社融合における学校・地域の様子

公民館施設を併設した中学校として、公民館と学校が連携を深め、地域の教育力を生かした様々な取組を実施している。「東融会」（東部・中部・南部・ひがしの各公民館主事と校区の学社融合を推進する会）を通じて管内公民館と情報を交換し、共有している。地域の方々も公民館の働きかけに協力的で、東部・南部公民館を通して学校支援サポーターを募集し、学校の教育活動に協力をいただく等、本校生徒の健全育成に尽力していただける体制ができています。公民館の掲示版には学社融合行事の様子や教科・部活の作品等を掲示し、地域の方々に紹介している。また、地域にある田辺第一、田辺第二、田辺東部各小学校と連携した学社融合の取組も推進してきた。学社融合推進協議会では、今までの取組を引き継ぎながら、現在の本校の地域実情に合った取組の議論を進めている。

目 標	学校・園・地域	<ul style="list-style-type: none"> 公民館施設を併設した学校として、地域の教育力を生かした学校支援サポーター等を活用した学社融合の取組を推進する。 校区の小学校と連携を深め、児童と生徒が交流できる企画を進める。 学校と地域が、共に取り組み、学び合う機会を増やし、「社会に開かれた教育課程」を推進する。 幅広く地域の方に呼びかけ、学社融合活動に携わっていただく。 生徒たちと共に、当地域の課題（防災等）について学んだり、活動したりする機会を持つ。
--------	---------	--

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

- 人材バンク
(学校支援サポーター)
- 図書整備
 - バラ園整備
 - 各種授業講師



成果と課題（学校・公民館からの視点）

成果	課題
----	----

<p>学校</p> <p>地域との連携は、主に総合学習として取組を行った。1年生は防災学習として学社融合推進協議会の委員の方と「きいちゃんの災害避難ゲーム」を行った。2年生では市内の事業所様にご協力頂き、職場体験を実施した。これらの取組から、生徒は自分たちが住んでいる地域の良さを再認識し、さらに地域の一員としてなができるかを考えるよい機会とすることができた。</p> <p>小学校との連携では、田辺第二小学校・田辺東部小学校に向けて中学校体験を開催し、体験授業やクラブ見学を行った。また、本校の合唱部・吹奏楽部が小学校の音楽会や秋祭りに出演した。</p>	<p>例年の取り組みをそのまま踏襲するのではなく、これまでの実施内容を踏まえながら、その時々状況に応じた取り組みを検討していく。</p>
---	--

<p>公民館（地域）</p> <p>公民館のスマホ講座では、夏休み期間中に東陽中学校文芸部の生徒たちにも指導スタッフとして入っていただき、中学生とともに地域住民にスマホの使い方をレクチャーした。スマホの使い方を学ぶだけでなく、地域住民と中学生の間にコミュニケーションが生まれ、スマホ講座を通じた世代間交流へとつなげることができた。</p> <p>5月にはバラと音楽の鑑賞会を開催し、東陽中学校合唱部と吹奏楽部、地域の特別ゲストとして「AIRE+」の皆様をお招きし、学校と地域の交流イベントを開催した。</p>	<p>バラと音楽の鑑賞会では、本年度の新たな試みとしてバラ園にキッチンカーを招いて開催したが、中学生クラブなど地域の他団体との連携もしてみようという声をいただいたので、来年度は学校と地域がより交流できるような内容を充実させていきたい。</p> <p>地域には、様々な技能や知識を持った方々が多数おられる。公民館ではそうした方々とのつながりを普段から深めておき、要請に応じて互いに助け合えるような関係性を構築していきたい。</p>
---	--

今年度の取組内容
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

第2回学社融合推進協議会では、1年生の授業を参観していただいた。防災学習の一環として「きいちゃんの災害避難ゲーム」を行った。その際、学社融合推進協議会の委員の方々、各班1名ずつに入っていただき、一緒にゲームを行った。津波による犠牲者ゼロのため、災害時の迅速な避難行動や日頃からの備えの重要性について、楽しみながら実践的に学ぶことができた。その後の協議では、以下の意見が出された。



- 生徒には、今日学んだことを家に帰って保護者に共有して欲しいと思った。
- 中学生と一緒に、事前準備の大切さを学ぶことができた。
- みんなで意見を出し合って、楽しみながら災害について考える良い機会になった。



特徴的な協働活動

バラと音楽の鑑賞会

毎年、中庭のバラが満開に咲き誇る5月に、バラ園の一般開放と、演奏会を開催している。今年度は5月10日（土）に開催した。あいにくの天気だったが280名を超える方にご来場いただき、大盛況の中終演した。演奏会では、合唱部が息のあった爽やかな演奏を、吹奏楽部が「銀河鉄道999」など誰もが知るポップス曲を披露した。また特別ゲストとして、紀南地方在住のメンバーによる音楽グループ「AIRE+」の皆様にご出演いただいた。ピアノ連弾を中心に、六手連弾、ぐるぐる連弾など、音だけでなく目にも楽しいステージを披露していただいた。



「バラの東陽」をいつまでも

東陽中学校では地域の方と協力して、校内のバラ園を育てている。「バラと音楽の鑑賞会」の開催に向けて、5月2日にバラ園整備ボランティアを実施した。有志の生徒65名に加え、地域のボランティアの方々、普段からサークル活動で東部公民館を利用されている方も加わってくださり、草抜きや摘花作業を行った。今年度はバラの開花状況も良く、大輪の花を咲かせることができた。来年も美しい花が咲くよう、地域の方の協力を得ながら大切に育てていきたい。



学校・園名	田辺市立明洋中学校	公民館名	西部・芳養・中部公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>本校では、学社融合推進協議会と公民館主事及び学社融合推進教員で組織する「明融会」の2つの会を中心に学社融合の取組を進めている。授業や部活動を地域から講師を招いて行う活動と、学校が地域に向く活動があり、ともに公民館の協力を得ながら実施し、活動の充実に努めている。</p>			
目 標	学校	<p>【学校】 ○地域の方々との交流を深めることにより、自分たちも地域の一員であるということを感じ、故郷を愛する気持ちを育成する。 ○地域での活動を通して、多くの方々と関わることによりコミュニケーション能力を育成する。 ○地域での発表の場を設け、地域に貢献する態度を育てる。</p>	
	園・地域	<p>【地域】 ○地域住民との関わりをとおして、子供たちのコミュニケーション能力の向上と、伝統・文化の継承や技術の取得を図る。 ○学校授業への適切な地域人材の提供により、子供たちの愛郷心を育みながら、健全な育成を目指す。 ○子供たちとの関わりの中で、地域住民に学校の取組を知ってもらい、子供たちに対する意識のさらなる向上を目指す。</p>	
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
		<ul style="list-style-type: none"> 学社融合推進協議会 明洋中学校育友会 芳養地域人材バンク登録者及び各地域の方々 芳養公民館 西部公民館 中部公民館 西部センター 天神児童館 芳養児童センター 	
成果と課題（学校・公民館からの視点）			
成果		課題	
学校	<ul style="list-style-type: none"> 学社融合の取組で制作した作品や、体験発表を通じて保護者や地域に取り組んだことを伝えることができた。 第2学年のキャリア教育ではマナー講座やJCティーチャー、職場体験学習と年代を超えて多くの地域の方々と触れあうことができた。 地域の方々の協力を得て、専門的な話を聞いたり体験的な活動を行うことで、様々な分野で学びを深められた。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの活動がより充実したものとなるよう、その時々に応じた取組にしていきたい。 地域の方々とも今後も継続して交流し、いけるよう公民館や学社融合推進協議会と連携し、体験活動等の指導に携わっていただける人の確保に努めたい。 	
公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> 紀州てまりの制作や生花等、公民館から学校に講師を派遣した。またその作品を学校で開催した文化発表会で展示し、保護者や地域の方々に見てもらうことができた。 各公民館の作品展で、家庭科・技術科・美術科の生徒作品を展示し多くの来場者に見ていただいた。 「天神児童館まつり」オープニングセレモニーの吹奏楽部の演奏や併催の「西部人権の集い」の生徒による人権作文を発表は、中学生が地域に向く機会となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 講師の先生方が高齢になってきているため、取組内容を検討するなど、継続していく方法や人材確保について、学校と連携していきたい。 今後も地域と子供たちを繋ぐ取り組みを検討していく。 	

今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
<p>【第1回学社融合推進協議会（R7.5.26）における協議内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年度学校経営方針について説明し、承認を得る。 学校行事における生徒の様子を説明し、理解していただく。 部活動の入部状況を説明し、10月に部活動検討委員会を予定していること報告する。 設置2年目となる本校通級指導教室について説明し、理解していただく。 体育大会・修学旅行・遠足について説明し、理解していただく。 登下校時の車による送迎の交通マナーについて協議をする。 <p>【第2回学社融合推進協議会（R7.12.9）における協議内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 協議会を午前中に開催し、授業参観を行った。生徒や授業の様子を委員の方々に知っていただく機会となった。 全国学力学習状況調査の結果分析について説明する。 2学期の学校運営について説明する。 部活動検討委員会で話し合ったことを報告する。 登下校時のマナーや通学路の安全について協議した。 <p>【第3回学社融合推進協議会は2月に開催】</p>	
特徴的な協働活動	
<p>【紀州てまり】 文化では、今年も中部公民館「紀州てまり趣味の会」の方々にお越しいただき紀州てまりづくりの講習をしていただいた。てまりづくりは手順も多く、作業が複雑だったものの、丁寧に教えていただいて綺麗な模様のでまりが出来上がった。</p>	
<p>【天神児童館まつり】 吹奏楽部による演奏、人権作文発表、美術科・家庭科・技術科で制作した作品展示で今年も参加させていただいた。</p>	
<p>【JCティーチャー2025】 職場体験学習を控えた2年生では、キャリア教育の一環として白浜・田辺青年会議所JCメンバー15名の方々から、従事している仕事の内容・人との繋がりの大切さ・この地域の魅力・働く大変さと素晴らしさなどについて講話していただいた。</p>	

学校・園名	田辺市立高雄中学校	公民館名	秋津・万呂・稻成・ひがし・中部・南部公民館
学社融合における学校・地域の様子 各教科の授業や文化部などの部活動指導、また進路学習など様々な形で地域の方をゲストティーチャーに迎えるとともに、1年生は校外学習、2年生は職場体験学習、3年生は保育実習等で地域と連携して活動している。また、昨年度から公民館と連携した新たな取組、TSP（タカオ スマイル プロジェクト）が始まり、生徒と地域の方が交流する機会をつくっている。			
目 標	授業や部活動での地域の方とのふれあいを通じて、地域を今まで以上に深く知り、専門性の高い内容に興味関心を抱くことで学習意欲を高め、自分が生まれ育った地域に誇りと愛着を持たせる。 【高雄中学校学社融合推進協議会】 高雄中学校学社融合推進協議会は、保護者及び地域住民等の（以下「保護者等」という。）の学校運営への参画や、保護者等による学校運営への支援・協力を促すことにより、学校と保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善や生徒の健全育成に取り組むものとする。		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
高雄中学校学社融合推進協議会 （会長1名・副会長1名・委員8名）		公民館 たなべる 昭和幼稚園 いずみ保育所 田辺警察署 青少年センター 田辺市消防署 田辺社会福祉協議会 城山台給食センター	
家庭	学校	公民館	地域
学校運営への企画・支援・協力			
成果と課題（学校・公民館からの視点）			
成果		課題	
学校	・学校開放週間や学社融合推進協議会の授業参観、民生児童委員の学校訪問等で地域の方に学校や生徒たちの様子を知ってもらうことができた。 ・職場体験学習や校外学習を通して、地域でどのような仕事が行われているかを知ることができ、地域理解に繋がった。 ・生徒会を中心としてTSP（タカオスマイルプロジェクト）を企画し、地域の方との交流の場を設けた。		
公民館（地域）	・地域の方に学校に来ていただく活動だけでなく、子供達が地域の活動へ出向く機会をつくっていききたい。そのための第一歩として行ったTSPは好評であったが、参加生徒数を増やすこととTSPから外へ繋げていたための手段を考える必要がある。		
公民館（地域）	・体育大会に地域連携種目を導入し、地域住民が学校行事に参加する取組を実施した結果、多くの方に参加してもらうことができた。 ・夏休みイベントや文化祭などの公民館事業において、運営補助のボランティア参加や吹奏楽部による舞台発表等を通じ、生徒が地域活動に関わる機会を創出した。 ・公民館の文化作品展や学校の文化発表会において、学校と地域が相互に作品展示を行い、日頃の成果を地域で共有することができた。		
公民館（地域）	・生徒の地域参画は一部の事業にとどまっていることから、運営補助や発表の場など、より多くの生徒が継続的に関わる機会を広げていく必要がある。 ・学校と地域が協力して課題に取り組むための基盤である人材バンクについて、登録および活用の促進に向けた取組が引き続き求められる。		

今年度の取組内容
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

- 【本校の課題】
- ・インターネットトラブル
 - ・下校時間での交通マナー
- 【協議事項】
- ・生徒が公民館のイベントに参加するような交流が少ない。
 - ・農業体験推進事業の指定校として、地域との関わり方を深めたい。
 - ・公民館と学校の繋がりをより強くするためにはどうすればよいか。
- 【学校側として期待すること】
- ・地域の方々や母校小学校との関わりを増やすことで、生徒の地元を大切にすることを育みつつ、「地域で子どもを育てる」という認識を一層深めたい。
 - ・家庭や地域の持つ教育力を積極的に学校に持ち込みたい。

特徴的な協働活動

地域の方を迎えた講演会や合気道の授業、文化部の紀州てまり教室や茶道体験などを実施することができた。また、学年の取組として、地域を知るために行った校外学習や、キャリア教育の一環としての職場体験学習などで、学校ではできない貴重な体験をすることができた。公民館と連携した新たな取組、TSP（タカオ スマイル プロジェクト）を実施することができた。

TSP(タカオ スマイル プロジェク



囲碁ボール



トークフォークダンス



フルーツカッティング

紀州手まり教室



茶道体験



合気道



職場体験

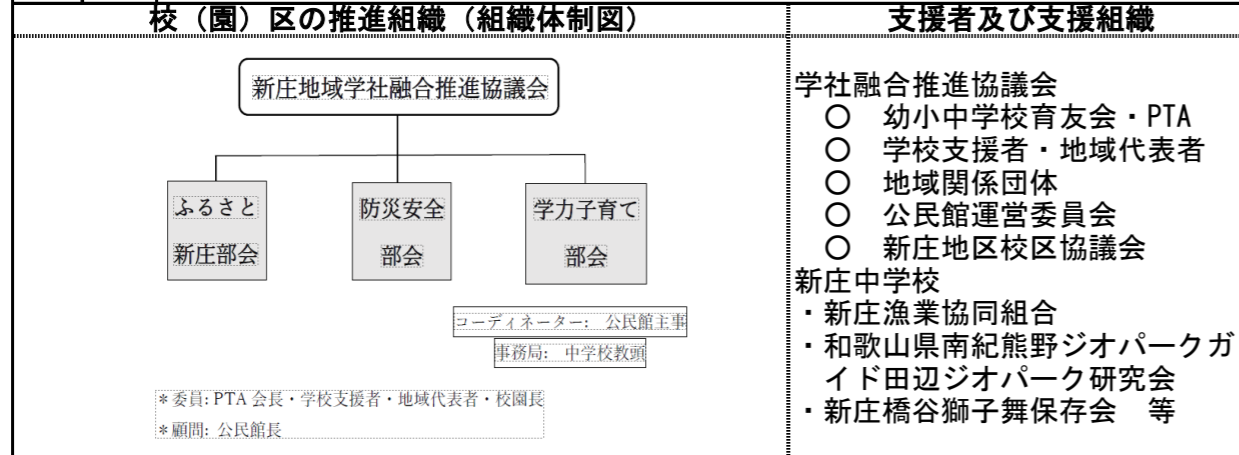


学社融合推進協議会活動報告書 協議会名：新庄地域学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立新庄中学校	公民館名	新庄公民館
-------	-----------	------	-------

学社融合における学校・地域の様子
 新庄地域では、学校と公民館が連携して学社融合を深化させてきました。そして、幼小中学校が公民館と連携しながら地域全体で「学社融合推進協議会」を設置し、保護者や地域の皆さんの意見を取り入れた学校運営を進めています。また、各学校単位で育友会・PTAの協力のもと、保護者・地域との取組も進めています。

目 標	学校・園・地域	田辺市新庄地域学社融合推進協議会会則 第2条（目的） 協議会は、保護者及び地域住民等の学校運営への参画や、保護者等による学校運営への支援・協力を促すことにより、学校と保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善や園児児童生徒の健全育成に取り組むものとする。
	学校・園・地域	本校における学社融合の目標 地域の祭りや行事等への参加と、地域の文化や伝統産業の調べ学習、地域の未来を考える学習を通して、地域を愛する心を育てる。



成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	<p>1年生は、「総合学～新庄、田辺の魅力伝えたい～」をテーマに、自分たちが住む新庄町、田辺市の伝統について調べ、地域の方からも学ぶことができた。農業体験推進事業では、秋津野ガルテンでマーマレードづくりに取り組んだ。2年生は、地域の11カ所の事業所での職場体験学習に取り組んだ。3年生は、「新庄未来学～SDGsを目指して～」をテーマに、持続可能な社会を目指して、身の回りで見られるSDGsに関する課題を見つけ、解決のために取組を計画・実行した。またそれらをまとめて、文化発表会で伝えることができた。生徒の技術・美術・家庭等の作品を展示することで、地域の方に、学校の活動を知ってもらうこともできた。獅子舞保存会の方々に来ていただき、獅子舞を披露してもらうこともできた。</p> <p>3年生は地域の消防団の方々と「きいちゃんの災害避難ゲーム」に取り組むことができた。</p>	<p>・従来の活動がさらに充実したものとなるように、今後も計画の工夫や見直しを進めていく。また、専門的な技術、知識を持っている地域の方々とさらにつながりを深め、ゲストティーチャーとして協力を仰ぎながら、取組の内容を考えていく。</p>
公民館（地域）	<p>・「ぎおんさんの夜見世」について、公民館を通じ地域の方がゲストティーチャーとして学校に出向き、学習会を行った。学習会では、江戸時代から続くこの行事の歴史と作品作りを伝えながら、学校と地域の交流を図ることができた。</p> <p>今回は制作日から展示まで中1日という条件であったため腐り易い野菜を使わないとしていたが、中学生は松ぼっくりや松葉に枝、石を材料とするなど、独自の工夫が見られた。</p>	<p>・これまでゲストティーチャーを務めてこられた方が、1名都合により次年度は依頼できなくなった。今後も学習会を安定して開催していくためには、高齢化も考慮しながら人選の必要がある（近年ゲストティーチャーを務められた方は2名）。</p> <p>・「ぎおんさんの夜見世」の作品には、元来、日常の中で、例えば「このニンニクを葉っぱに載せるとカタツムリに見える」というような発見を作品に仕立てていく文化があり、学習会でもそのような説明はあった。文化の伝承という意味では、中学生レベルなら単純な工作ではなく本来の文化を反映した作風が期待される。</p>

今年度の取組内容
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

- * 学力子育て部会
 - ・11月26日「子どものレジリエンスと学び続ける力を育むために～心のしなやかさが学力の底上げを支える～」をテーマに講師：西田千寿子氏による教育講演会を実施し、保護者、小中の教員、地域の住民が参加した。
- * ふるさと新庄部会
 - ・令和8年1月10日に、新庄地域の歴史探求と防災啓発を目的とし、津波碑めぐりスタンプラリーを実施する予定にしている。
- * 防災安全部会
 - ・10月21日 3年生と消防新庄分団できいちゃんの災害避難ゲームを実施した。
- * 文化発表会（11月10日から11月16日まで学校開放週間）
 - ・11月16日の案内をし、協議会の委員さんが数名来校。生徒や学校の様子や取組内容を知っていただく機会とした。

【1年生 総合学】
 自分たちの地元を知ってもらうために伝統について調べることができた。地域の人たちからのお話を通して、様々なことを学ぶ事ができた。



【2年生 職場体験学習】
 職業観・勤労観を育み、自己理解を深めること、社会規律やマナー等の必要性を理解し、体感することを目的として取り組んだ。今年度は11箇所の事業所にご協力いただき、10月1日～3日の3日間実施した。



【3年生 新庄未来学】
●SDGsへの取り組み
 未来学の活動のひとつとして、未来のために行動すべき当事者として何が出来るかを考えるきっかけとして、SDGsの取組を行った。2030年までに「誰一人取り残さない」持続可能な世界を実現するための17のゴールを達成するために、できることを考え発表した。その中で、小学生の児童・先生からアンケートをとり、現状の課題を考えたり、地域の海へ行き、ゴミ拾いをしたりした。今後は、エコキャップ運動を学校だけではなく、地域で取り組む予定である。

●きいちゃんの災害避難ゲーム
 ゲームを通して、避難所での生活や、そこで起こりうるトラブルなどを学習し、事前準備の大切さを学ぶことができた。また、地域の消防団の方にも参加してもらうことで、異なった視点での考え方に触れることができた。



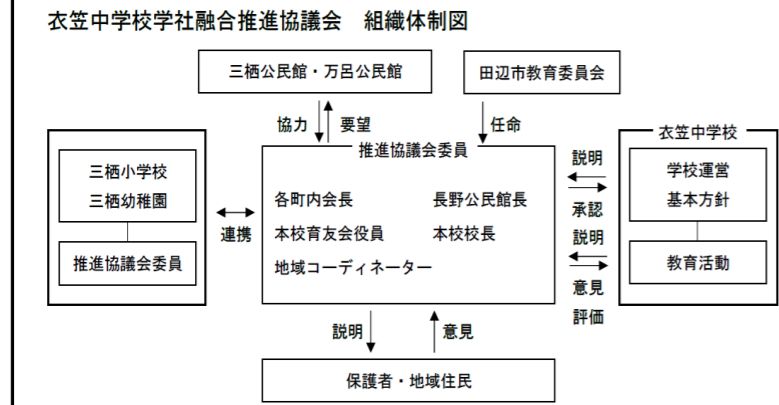
学校・園名	田辺市立衣笠中学校	公民館名	三栖公民館・万呂公民館
-------	-----------	------	-------------

学社融合における学校・地域の様子

三栖地域では、学社融合推進協議会やきのくに学び月間での学校開放の機会などで、保護者や地域と学校の現状や課題についての共有を行っている。また、育友会や学校が主催して行う教育講演会などを保護者や地域にも公開し、取り組みの共有を図っている。
学校・地域・公民館が連携し、互いに協力する体制が確立されている。

目 標	(1)生まれ育った地域について学び、地域への愛着の気持ちや、地域に貢献したいという気持ちを育てる。
	(2)地域の方々との交流を図る中で、好ましい人間関係のあり方を学び、人を思いやる心など豊かな人間性を身につけさせる。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

- 三栖幼稚園
- 三栖小学校
- 長野小学校
- 会津小学校
- 三栖公民館
- 万呂公民館
- 育友会
- 地域住民
- 田辺市梅振興室
- J A三栖等地域団体や企業

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生は伏菟野地区についての防災学習を実施した。伏菟野地区での災害を経験した方の講話を聞いた。また、J Aわかやまと連携して和歌山県の特産品である梅や柿の生産加工を体験的に学ぶ体験学習の取り組みを行った。 ・2年生は職場体験学習を実施した。地域の事業所に協力していただき3日間の充実した体験活動を行うことができた。また、事前に講師を招聘してマナー講座を行った。 ・3年生は防災学習で、田辺市内で大地震が起こったときの避難経路について図上演習と経路確認を行った。市内10か所に分かれて実際に避難経路を調べ、避難時間を計ってまとめたものを発表した。 ・全校で衣笠ミニ町内会の取り組みを行った。各町内会の方々にも参加していただき、町内会の取り組みについて教えていただいた。また、中学生として地域のためにできることを考え、グループごとに取り組みを行った。 ・講師を招聘して人権教育講演会を全校生徒を対象に実施した。その際に保護者や地域の方々も参加できるようにし、学校の取り組みを共有した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は1年生での地域学習の対象エリアを和歌山県全域に広げた。次年度以降も継続して行えるよう、関係各所との連携を図る。 ・各町内会と連携し、ミニ町内会の取り組みをより良いものにする。今年度は町内会の行う行事をピックアップし、中学生が参加できるものを選んでボランティアを募って活動した。学校が子どもを地域の活動に返していく橋渡しの役割ができる活動にしていく。 ・生徒の実態や地域の課題に合ったテーマで教育講演会を開き、学校・地域・保護者の三者にとって有益な取り組みを行う。
公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・一昨年から衣笠ミニ町内会の取組の一つとして継続して行われていた中三栖夏祭りを、今年度は三栖夏祭りとして名称を変更、規模を拡大し、三栖小学校へ会場を移し開催した。開催にあたっては、衣笠中学校生徒が出店内容を企画し、事前に試作を行うなど準備を行った。公民館、町内会、婦人会などの協力で開催した。 ・同じく継続実施している伏菟野地区を訪問しての防災学習では、土砂災害の実体験に基づいた声を聞き、防災の心構えを持ってもらっていると思う、今後もぜひ継続実施してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成果で挙げた、ミニ町内会による「夏祭り」は文化振興、地域振興につながり、生徒たちにとっても大変有意義な体験時間になると考える。よりよいものにしていくのであれば、「ミニ町内会」ではなく「町内会」そのものの活動になっていくのではないかと懸念される。またその他の地域での「ミニ町内会」の活動については、変化が乏しい状況である。

今年度の取組内容
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

学社融合推進協議会を開催し、地域の方々の困り感や課題、また今後の取り組みについて出席者で意見を出し合い、共有することができた。

- 【具体的な内容】
- ・地域に住む中学生に、どのようにすれば地域を盛り上げられるか意見が欲しい。
→ミニ町内会の取り組みの中で意見を募る。また、中学生として町内会行事に関わり、地域のことに對して関心を高める。
 - ・地域住人同士のコミュニケーションが減少し、町内会行事の参加者が高齢化している。
 - ・学校では生徒にいろいろなことを体験させ、様々な方法で生きる力をつける学習を行って欲しい。そのために地域の力でできることは積極的に協力したい。

時代の変化と共に、地域や学校の抱える課題も多様化している。ミニ町内会の取り組みをきっかけに、衣笠中学校と地域が協力し、子どもを育成していくという認識を共有した。

特徴的な協働活動

- ・1年生で、平成23年の台風第12号における豪雨で大きな被害に遭った伏菟野地区を訪問した。その後、当時の区長を務め実際の対応にあたった谷口さんより当時の様子についての話を聞き取った。その後、災害の恐ろしさや日頃の備えの大切さ、復興に向けての取組についての学習を行った。
- ・2年生の総合的な学習の時間に地域の事業所にて職場体験学習を行った。本年度は25の事業所に協力していただいた。また、事前学習では外部から講師をよんでマナー講座を行った。
- ・本年度は教育講演会を2回行った。7月に岩崎順子さんを招き「一人がかかえこまないでね～SOSをだせる強さ～」の講演を、11月には戸村祥子さんを招き「SNSトラブル ～被害者にも加害者にもならないために～」の講演を行った。市の人権委員の方にも参加していただいた。
- ・衣笠ミニ町内会を開催した。「三栖」「城山台」「万呂」の各町内会の方々に参加していただき、本年度は町内会の取り組みについての授業を行った。また、中学生として地域のためにできることを考え、グループごとに取り組みを行った。グループでの話し合いでは、地域の活動に積極的に参加しようという意見や、ボランティアで清掃活動を行おうという意見が出た。本年度は町内会が主体となって行う秋祭りイベントでボランティアとして運営に関わったり、地域にあるお寺の清掃活動や、地域一斉の草刈りや清掃活動に参加したりした。



学校・園名	田辺市立上秋津中学校	公民館名	上秋津公民館	
学社融合における学校・地域の様子				
<p>平成28年度から30年度までの、幼稚園・小学校・中学校・公民館と連携した「上秋津地域共育コミュニティ本部事業」の取組を継承している。幼稚園から小学校、中学校に至る11年間の教育活動を目標にした、地域とともにある実践活動を目指している。</p> <p>従来から上秋津では、地域が子供たちを育てる取組が進められており、上秋津学社融合推進協議会はその活動をさらに発展させるため、幼小中の連携強化に重点を置いたものであった。</p>				
目 標	<p>学校・園・地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農事体験を中心とした体験活動を行い、ふるさとを大切に育てる。 ・地域の産業や文化を学習の中に取り入れ、学力の向上を図る。 ・防災、福祉活動を中心とした人を大切にする教育をすすめる。 ・幼・小・中・公民館・地域の連携を図る。 			
	<p>校（園）区の推進組織（組織体制図）</p>		<p>支援者及び支援組織</p> <p>上秋津町内会 上秋津公民館 JAわかやま上秋津 JAわかやま上秋津青年部 幼稚園PTA 小学校育友会 中学校PTA 民生児童委員 公民館サークル 秋津野ガルテン 介護老人保健施設あきつ の 等</p>	
成果と課題（学校・公民館からの視点）				
学 校	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農事体験や梅・みかんの加工体験を通して、地域の産業や文化について学ぶことができた。また地域の方々との関わりから地域で大切にされていることを実感させることができた。 ・さまざまな交流の中で、地域の大人、小学生や園児など日頃関わることの少ない年代の人との関わりは、コミュニケーション力向上の機会となった。 ・地域の防災訓練や祭りへの参加により、中学生が地域で活躍できる機会が得られた。 		<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との継続的な関わりの中で、社会性を育む手立てを考えていきたい。 ・それぞれの活動において、受け身にならず生徒にとって自分ごととして捉えられるように目的意識や課題意識をもって取り組めるアプローチを考える必要がある。 ・地域学習や防災学習等でより効果的な学びとなるよう、公民館や学社融合推進協議会の協力を得ながら地域の人と繋がる機会を大切にしていきたい。 	
	<p>公民館（地域）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館がもつ地域とのつながりを生かし、中学校との協働活動において連携をとることができた。 ・秋津野春まつりでは、中学生がボランティアスタッフとなり、受付業務、うどん・フランクフルト販売、上秋津地蔵ウォークとしてクイズの出題や誘導、スタンプカードへの検印を行うことで、地域行事の運営側として携わってもらうことができた。また、来場者や他の運営スタッフとも積極的にコミュニケーションをとってくれたおかげで行事全体として楽しんでいただくことができた。 		<ul style="list-style-type: none"> ・中学校とスムーズに連携できるよう、相互の情報共有を行い、十分に生かすことができた。今後においても地域と学校が協力できる体制を継続させることで、相乗効果を生むことができると考える。 ・今後の課題としては、秋津野春まつりを継続的に、定着した地域行事に成長させることである。これまで地域活動の柱であった女性会や老人会などの組織からの協力を得られなくなったこともあり、地域の負担を減らしながらも公民館のつながりを生かした活動を進める上では、中学生のボランティアスタッフは大変貴重な人材であると考えている。 	

今年度の取組内容
 会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

- ◇開かれた学校づくり
 - ◎学社融合推進協議会全体で課題・目標を共有する。
 - ◎授業を中心に、学社融合を推進する。
 - ・農事体験 ・職場体験 ・食育講座 ・防災学習 ・地域学習 など
 - ◎地域と学校が一体となって行事を融合させる。
 - ・公民館主催の夏祭・春祭 ・避難訓練及び防災学習
- ◇幼・小・中・PTA・公民館の連携
 - ◎校長・学社融合担当者会・公民館主事・PTA役員が共通理解できる場の設定。
 - ◎幼・小・中・地域が連携した取組を進める。
 - ・職場体験 ・幼稚園との交流（家庭科） ・小中交流授業 ・農事体験

特徴的な協働活動

上秋津春祭り・春祭り地蔵ウォーク

上秋津地域では、今年度も「春祭り」が開催されました。今までは「上秋津ふるさとウォーク」が開催されていましたが、令和6年度は上秋津地域内の地蔵をチェックポイントとし、中学生が出題するクイズに答えながら約3kmのコースを歩く、上秋津地蔵ウォークを開催しました。同時に春祭り会場ではうどんとフランクフルト販売を行いました。



春祭り地蔵ウォークの受付の様子

うどん・フランクフルト販売

地域の産業を核とした農業体験学習

地域の基盤となる産業の一つである農業に注目し、「農業体験学習」を実施しています。またJA紀南様、秋津野ガルテン様のご協力で「地域作り学習」や「フルーツタルトづくり」、「ガルテン巻き」、「梅加工体験」を通して地域の産物について、生産・加工・流通について知る体験学習をしました。



地域作り学習会

フルーツタルト作り

ガルテン巻き

梅加工体験

幼稚園との交流 ～ふれあい体験学習～

3年生の家庭科「保育」の学習では、上秋津幼稚園との交流を続けています。当日は5人の園児を迎え「絵本の読み聞かせ」「風船バレー」や「フルーツバスケット」、「玉入れ」に「だるまさんが転んだ」で一緒に遊ぶことができました。園児達は大喜びで最後にお礼として歌を歌ってくれました。



絵本の読み聞かせ

だるまさんが転んだ

玉入れ

学校・園名	田辺市立秋津川中学校	公民館名	秋津川公民館
学社融合における学校・地域の様子 秋津川中学校では、ほとんどの生徒が保育所から小・中学校と一緒に生活し、生徒同士の人間関係がよい。また、保護者も長い年月を一緒に活動しているため、連帯意識が強く、地域の人々も子供たちを見守り育てていこうとする意識が強い。学社融合の取組から、計画的に子供たちが地域の方々と触れ合うことで、視野を自分たちから地域へと広げて考えられるようになっていけるとともに、一緒に行動することで地域全体の活性化に貢献している。			
目 標	・地域の方々との交流を通して、秋津川の先人の知恵と文化を受け継ぎ、地域の良さを再確認し、地域や学校を大切にすることを育てる。 ・地域の方々との交流を通して、コミュニケーション能力を高める。 ・地域の方々との交流を通して、子供たちに伝統文化等の様々な知識を教え愛郷心を養う。 ・普段子供たちと接する機会の少ない保護者以外の方々に、公民館主催のイベントを通して交流を持っていただくことで、地域の活性化に繋げていく。		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
		秋津川公民館 秋津川町内会 秋津川振興会 JAわかやま秋津川店 JA女性会 秋津川婦人会 秋津川小学校 秋津川保育所	
成果と課題（学校・公民館からの視点）			
成果		課題	
学校	・町民運動会やふるさと祭り等の地域行事は予定どおり実施された。また、外国の方とのボランティア交流、文化発表会でのクリスマスリース作り体験、中学生・小学生で行うウバメガシの植林作業、キャリア教育の実施などに取り組むことができた。 ・修学旅行で広島に行った。平和記念公園、平和資料館では、原爆についてガイドさんから説明を受け平和について理解を深めることができた。また、マツダ自動車では職業について学ぶことで自身の進路についても関連付けて考えられるようになってきた。厳島神社では世界遺産について学習することができた。 ・小中学校の連携についても、例年どおり実施できた。	・町民運動会やふるさとまつりなどの地域との連携行事については、できるだけ続けていく方向で工夫しながら取り組んでいく。 ・中学生の人数が少なくなってきている中での取組には難しい部分もあるが学校としては今後とも続けていけるように地域等と連携しながら工夫をしていく必要がある。	
公民館（地域）	・令和7年度も昨年度同様の取組を実施することができた。 ・町民運動会やふるさとまつりにおいては、中学校との連携を密にして取り組むことができた。 ・今年度は、小中学校の整備作業に地域として参加し協力することができた。 ・今後も活動を継続しながら、中学生がふるさと秋津川の魅力を身近に感じられるような機会を作っていきたい。	・今後も公民館（地域）と学校とのつながりを大切にしながら、行事等を継続して実施できるように取り組んでいく必要がある。 ・中学校の生徒数の減少もあるが、少人数でできることを話し合いながら、できることは実施していく方向で検討していきたい。	

今年度の取組内容 会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
・今年度も第一回学社融合推進協議会は、5月に実施。協議内容は以下のとおり。地域行事も通常どおり実施。 【議案】 ・役員（会長・副会長）の決定及び確認 ・令和7年度スクールプランについて（秋津川小学校・中学校） ・令和7年度年間計画案について ・令和7年度会計予算案について	
特徴的な協働活動	
広島修学旅行で平和学習 今年度は生徒たちのたっの希望で「広島修学旅行」を実施。広島に向き、「平和」について考える機会を持ちました。現地では、語り部の平岡さんのお話真剣に耳を傾け、平和記念資料館では貴重な資料を実際に自分の目で見て、それぞれに平和への想いを今まで以上に強く感じました。11月の文化発表会で、3年生が平和学習の発表をおこないました。他にも、世界遺産である「厳島神社」も訪れました。	
国際交流 6月19日（木）昨年度に引き続き、秋津川地区に梅採りボランティアにいられている方々（外国人を含む）との交流会を開催しました。中学生は地元の産物「備長炭」を英語で紹介しました。その後、小中学生合同で炭琴での演奏を披露しました。最後に、秋津川振興会のみなさんの協力で、参加者全員で「梅ジュース作り」を体験しました。楽しい交流会になりました。	
保・小・中合同避難訓練 6月25日（水）保育所・小学校・中学校の合同避難訓練を行いました。震度6強の地震が発生したという想定でした。揺れがおさまるまで机の下に入り、指示が出てから運動場に避難しました。保育園児たちの避難誘導も手伝いました。	
野菜作り 今年度も学校菜園で野菜作りに励みました。キュウリ・ミニトマト・なす・オクラ等の栽培をしました。収穫する喜びを味わうことができました。	

学校・園名	田辺市立 上芳養中学校	公民館名	上芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子 自然豊かな環境の中で、児童生徒は地域や保護者に見守られながら学校生活を送っている。小・中学校は、地域のサークルや地域の方々の協力を得ながら、地域にある施設や事業所の方々と交流を図ったりして教育活動を進めている。地域全体が「地域で上芳養の子どもを育てる」という意識が高く、学校の教育活動に非常に協力的である。 公民館は子供対象の行事を実施したり住民参加のスポーツ大会、文化祭を開催し地域の交流を図っている。			
目 標	学校・園・地域 < 学校 > ○地域の自然や人とのふれあいを大切に、地域社会の一員としての自覚を持たせ、ふるさとを愛する心を育む。 ○地域行事やボランティア活動に積極的に関わっていこうとする児童生徒を育成する。 ○地域の方々と交流を通してコミュニケーション能力の育成を図る。 < 地域（公民館） > ○児童生徒と地域住民との交流を深めることにより、子供たちの地域理解を深める。 ○学校と地域との連携を密にして子供たちの健全育成を図る。 ○地域の教育力を生かし、学校の授業や活動を支援することで地域の活性化へと繋げる。		
	校（園）区の推進組織（組織体制図）	支援者及び支援組織 育友会 上芳養小学校育友会 上芳養中学校育友会 上芳養公民館 日向保育所 各種団体 ・上芳養町内会 ・交通安全協会上芳養分会 ・上芳養消防団 上芳養校区協議会 学識経験者 地域の事業所・地域の先生	
成果と課題（学校・公民館からの視点）			
成果		課題	
学校 ・「かみはやキャラバン」での上芳養の梅をPRする活動では、自分たちで一から企画を立案し、準備から運営までを主体的に行うことができた。活動を通じて地域の方々の思いや願いに直接触れたことで、自分たちにできる地域貢献の形を模索し、実行に移す貴重な経験となった。 ・「文化発表会」のトークフォークダンスでは、普段接点の少ない地域の方々と対話を重ねることで、多角的な視点を自覚するとともに、郷土愛をより深めることができた。	学校 ・「かみはやキャラバン」の活動を通して、「何が本当に地域のためになるのか」をより一層深く探究させていきたいと考えている。子どもたちが主体的に考え抜き、具体的なアクションに繋がれるような学びの場を目指していきたい。 ・中学生自身が、地域にとってとても大きな力であることに気づかせ、自分ごととして取り組ませていきたい。 ・次年度も地域と様々な行事等で関わりを持ち、より一層連携を深め、地域貢献・地域活性化を共に考えていきたい。	公民館（地域） ・小学校、中学校、保護者、地域（事業者・ボランティア・公民館）が一体となって、かみはやキャラバンを盛り上げることができた。 ・昨年からの児童、生徒を対象にしている体験教室の見直しを行っており、今年は夏休み期間にニュースポーツ体験教室（BBQあり）を実施し、日常で体験できない経験を提供できた。	公民館（地域） ・子どもたちに必要な学びと子どもたちが求めている学びを常に模索する必要がある。 ・各種体験教室の講師や指導者を地域の方に担ってもらえるように引き続き人材の発掘に努める。 ・中学生の学びにもつながり、地域にとっても活性化につながるような取組をより一層増やしていきたい。

今年度の取組内容 会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
○第1回定例会 5月8日（木） 小中学校経営方針 事業計画書 収支予算書 150周年記念式典について ○かみはやキャラバン壮行会 5月13日（火） ○かみはやキャラバン報告会 8月6日（水） 5月18日実施のかみはやキャラバンについて 当時の様子や児童の学び等の共有 ○創立150周年記念事業 実行委員会 第1回 7/10 150周年 概要説明会 第2回 10/14 各担当進捗状況確認 予算確認 第3回 11/10 最終確認 第4回 12月 150周年 反省・収支報告会 ○かみはやキャラバン説明会 12/11 令和8年度「かみはやキャラバン」計画について 保護者向け概要説明 ○第2回定例会（1月もしくは2月） 活動のまとめ、次年度の取り組み、学校評価について	
特徴的な協働活動	
○「かみはやキャラバン」2年目となる今年度は、昨年度の経験を生かし、地域の方々と協力しながら学校全体で活動を発展させた。セレクトショップの運営やガラガラ抽選などの新しい取り組みにも挑戦し、上芳養の魅力を自分たちの言葉や企画で発信した。活動を通して、地域に関わる手応えや故郷への誇りをさらに強く感じる事ができた。 ○「梅ワーケーション」では、東京から来ていた三菱重工株式会社の皆さんと一緒に、梅畑で梅拾い・選別体験をさせていただいた。 ○「職場体験学習」で地元の大金様、田辺消防署本部様、ピザハット様、和歌山放送田辺支局様に体験協力を得られた。 ○生徒会主催の「地域清掃活動」では、地区ごとに分かれ道ばたのゴミ拾いを行った。生徒の郷土愛を育む活動ができた。 ○「ころころ山さん」読み聞かせを月1回実施していただいた。地域の読み聞かせサークルの方々の協力により、本にふれあう機会となり、読書意識が向上するきっかけとなっている。 ○公民館主催体育行事（卓球・ファミリーバドミントン・囲碁ボール）で、公民館・地域の方と交流し、地域・生徒・教員ともに親睦を図ることができた。 ○「保育実習」では、日向保育所様で体験させていただいた。実習での発表のための取組の中で、子ども目線にたって考えることができ、実習の中で新たな気づきを得ることができた。 ○「文化発表会」では、地域の方参加型のトークフォークダンスを実施し、地域の人と生徒たちがコミュニケーションをとることができた。	

学校・園名	田辺市立中芳養中学校	公民館名	中芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>「地域と共にある学校 学校でつながる地域の“わ”」をテーマに、「子どもの育成」「文化の伝承」「交流の推進」を3つの柱として取組を進めてきた。成果を生かしながら、地域とのつながりを大切にした行事や文化継承を公民館等と連携して進めている。</p>			
目 標	学校・園・地域	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの学びや体験活動を充実させ、学力向上を図るとともに、愛郷心や自己肯定感を育む。 幼稚園や小中学校の取組や行事に地域全体で協力し、子どもたちの成長を見守る意識を高める。 	
	 		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
		<ul style="list-style-type: none"> 中芳養公民館 中芳養幼稚園 中芳養小学校 J A 紀南芳養谷支所 中芳養地区老人会「芳寿会」 中芳養町内会 中芳養地区消防団 	
成果と課題（学校・公民館からの視点）			
成果		課題	
学校	<p>公民館主催の「中芳養夏祭り」に今年も2年生がヨーヨー釣りを出店し大盛況であった。また、事前に敬老会の方に教えていただいた「盆踊り」を当日披露することができた。「敬老祝賀会」では、文化庁が参加し、演奏を楽しんでいただいた。</p> <p>総合学習では、今年度も地元の企業や高校と連携をはかり、1年生が梅ジャム作り・販売を行った。3年生は地域プロジェクトとして特産物の梅を使ったスイーツを考え、レシピを作成し中芳養祭などでPRを行った。</p> <p>防災について、地域の方と共に考える機会をもつことができた。</p>	<p>地域の願いや活性化にどのように中学生として関わっていけるのか、また自分たちの地域を誇りに思えるような取組がさらにできるのかを今後も考えていき深めていきたい。</p> <p>幼稚園・小学校・中学校・公民館・町内会の連携を進め、地域と共にある学校の在り方や価値を探っていきたい。</p> <p>地域の方と協力して、避難訓練や災害時における具体的な体験活動を来年度考えていきたい。</p>	
公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> 学校（幼稚園、小学校、中学校、各PTA）と地域（町内会、芳寿会、消防団、JA等）で実行委員会を組織し、地域全体の行事として中芳養夏まつりを実施し、親子、子と子のふれあいの場となった。また、地域の方から中芳養の伝統ある盆踊りを教えていただき生徒たちの郷土愛を深めることができた。 敬老祝賀会においては、中学校の協力のおかげで生徒による発表が行われ、生徒たちといっしょに長寿をお祝いすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 公民館が行う催しへの中学生の参加が増えるように、子どもたちに必要な学びと子どもたちが求めている学びを常に模索する必要がある。 各種体験教室の講師や指導者を地域の方に担ってもらえるように引き続き人材の発掘に努める。 学校及び生徒たちと地域とで防災意識を高める活動に取り組みたい。 	

今年度の取組内容 会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
<p>地域PR、Happy Smile活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなが笑顔で幸せな地域になるためにできることを考え、実践する。 <p>防災について</p> <ul style="list-style-type: none"> 中芳養地域の防災について検討する。 	 
特徴的な協働活動	
1年生『傷を価値に！中学生の梅ジャム大作戦』	
<ol style="list-style-type: none"> JA紀南様より、中芳養の梅産業について学び、校内の梅を収穫した。 雹被害で傷の多い梅をどのようにしていくかを話し合い、ペースト状にし、南部高校様ご協力のもと、梅ジャム作りを行った。 梅ジャム販売に向けて、容器のラベル作成、外国の方へ英語を使つての接客練習、新聞やラジオを通して梅ジャム販売PRを行った。 田辺駅前tanabe en+様で、梅ジャム販売と3年生考案梅ジャムを使ったレシピの配布を行った。当日は、国内外の多くの方に来ていただいた。 中芳養祭において、取組の様子を地域に向けて発信した。 	 
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">梅の収穫</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">ペースト作り</div> </div>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">英語での接客</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">販売</div> </div>
	
2年生『職場体験学習』	
<p>「職場体験学習」を実施するにあたり、事前学習としてJCティーチャーから、「信用される人の特徴とは？」について考え、そして毎日の自分の行動から実践していくことを学んだ。体験学習中も各事業所で働くことの大変さ、そして素晴らしさを教えていただき充実した3日間となった。</p>	
	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">体験活動</div>
3年生『地域課題解決学習』～みんなの幸せ、みんなが笑顔になるために～	
<p>中芳養プロジェクトとして、地域の特産物の梅を使ったスイーツを3年生で考案した。1年生の梅ジャムともコラボレートしながら、梅ジャムをチョコレートで包んだ「梅チョコ」や生クリームと一緒に梅ジャムを巻いた「梅ロールケーキ」など試行錯誤しながら進めていった。最終的にできあがった「梅ジャムチーズケーキタルト」「梅クッキー」「梅ジャムクッキー」はレシピとして1年生の梅ジャム販売や中芳養祭、公民館などでたくさんの人へ配ることができ、梅の活用方法を広めることができた。</p>	
	  
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">話し合い</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">スイーツ作り</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">レシピ</div> </div>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">試食会</div>
	
防災学習講演会	
<p>防災アドバイザーの方にお越しいただき、東日本大震災で自身が体験されたことについてお話を聞いた。アドバイザーが避難所の責任を担当して、小学生・中学生・高校生と一緒に様々な役割をこなした話から、それぞれのできることは何なのかを考えることの大切さを教えていただいた。講演には、公民館から地域の方へ呼びかけ、当日はたくさんの参観者が来校した。来年度も、地域と共に防災について考え、それぞれのできることを実践していきたい。</p>	
	

学校・園名	田辺市立 龍神中学校	公民館名	龍神公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>校区が旧龍神村全体である本校は、3台のスクールバスを所有し、全校生徒の約55%がバス通学している。校区は広大であるが、各行事等への保護者の出席率は常に高い。地域も学校の教育活動に対して協力的である。学校は、地域（旧龍神村内やさらに広域な地域）から外部講師を招聘した授業を積極的に実施している。また、地域（旧龍神村内やさらに広域な地域）での現地学習を設定するなどし、人とのつながりを大切にする教育活動を推し進めている。</p>			
目 標	<p>①学校が教育活動等の情報を積極的に地域に提供し、地域の学校への関心を高め、地域から支援や協力が得られるように努める。 ②PTA、公民館等と協力して、学校・家庭・地域のそれぞれが果たす役割について考え、地域全体の教育力を高める活動の推進に努める。 ③体験活動の実施、外部講師を招聘する授業の実施等、地域の教育力を積極的に活用することにより、生徒の知識や技能を高め、さらに生徒の道徳性や社会性を高めていく。</p>		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
		<p>学社融合推進協議会 ○龍神中学校PTA ○龍神公民館・各分館 ○学校支援者 その他の関係機関 ○田辺市社会福祉協議会 ○龍神行政局 ○NPO「みらい龍神」</p>	
成果と課題（学校・公民館からの視点）			
	成果	課題	
学校	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回行っている古紙・古着回収や夏休み前に行う避難所清掃など、地域のリサイクル活動や清掃活動に取り組むことにより、地域の一員であることや活動を通しての達成感を感じることができた。それにより、生徒の自己有用感を高めることができています。また、地域での教育活動に対し、保護者や地域の方々から多大な協力を得ることができた。 ・生徒の学びの場を広域な校区や地域で展開することにより、体験を通じて経験値を上げ、習得した知識を活用して学びを深めた。また、外部講師を授業に招聘することで、多様な考えに触れ、生徒の「考える力」がより深まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・龍神地域の方々や同世代以外の人々の交流する機会を増やすことで、地域とのつながりや生徒の自尊感情を高めていきたい。 ・地域の活動に積極的に参加することでふるさと龍神への郷土愛を深め、更にふるさと龍神の未来について考えることのできる生徒を育てていきたい。 ・生徒数の減少、保護者数の減少、地域の世帯数の減少の中で、未来につながる持続可能な取組を工夫し、継続・発展させていきたい。 	
公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生の職場体験学習や全校による避難所清掃、年3回の古紙古着回収、「田んぼアート」への協力など、地域での学習・活動が継続的に行われることで、龍神地域の学社融合活動が地域の人々の交流の場となり、地域の活性化にも繋がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・龍神地域では、地域の人口減少と高齢化が進んでおり、学社融合の活動に協力してくれる地域住民が少しずつ減少している。活動の内容や仕組みを地域の実態に応じて柔軟に変更することも考えに入れて、持続可能な取組を進めていきたい。 ・昨年度49名から今年度42名と生徒が減少し、生徒のいない地区（保護者のいない地区）が増えているので、特に地域の中で行っている古紙回収などは状況に応じた実施方法を検討していく。 	

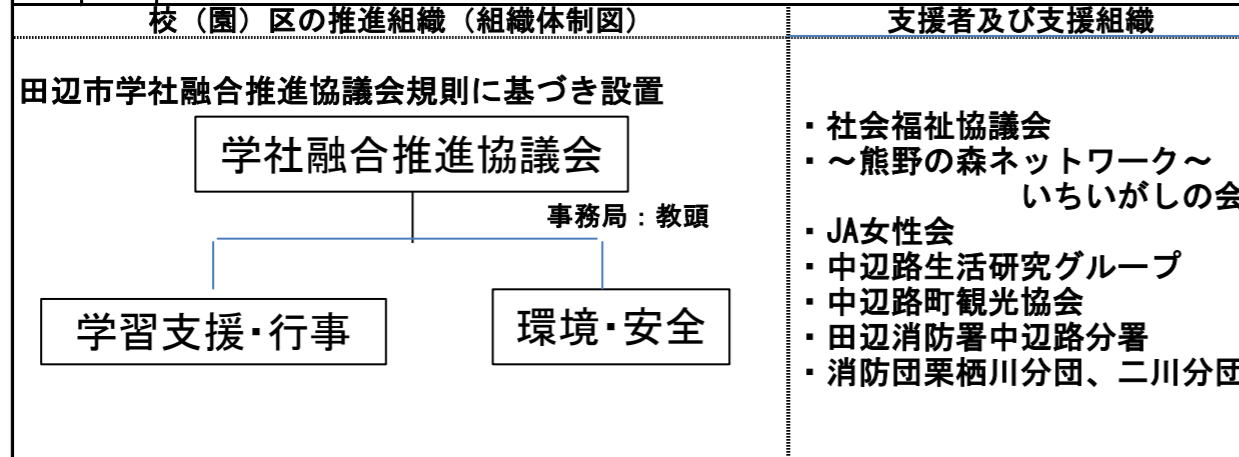
今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
<p>①保護者・地域の願いについて ◎生徒の学力の向上 ◎生徒の「豊かな心」と「健やかな体」の育成 ◎部活動の取組の充実 ◎生徒にとって楽しい学校生活の実現</p> <p>②生徒の実態 ◎素直で真面目な生徒である ◎授業、学校行事、部活動、地域の活動等に意欲的に取り組む ◎他人を思いやり、自分を大切にする ◎スマホ、SNS等を利用する時間が長い生徒が多くなっている</p> <p>③学社融合の活動を通してどんな生徒を育てていくか ◎ふるさと龍神に誇りを持ち、たくましく生きる生徒</p> <p>④「めざす生徒像」を実現するための取組をどう進めていくか ◎生徒が龍神地域に出て、地域の住民とともに活動する機会を増やす ◎生徒の自己肯定感、自己有用感を高めることにつながる学社融合の取組を行う</p>	
特徴的な協働活動	
【「豊かな人間性」を育むための取組】	
<p>(1)「田んぼアート」への協力 ◎『田んぼアート』は、龍神地域の9団体(田辺市龍神行政局産業建設課他8団体)によって構成している『田んぼアート実行委員会』が取り組んでいる活動です。本校もその構成団体の一つです。『田んぼアート実行委員会』会則の目的に、「この会は、龍神村安井地内において田んぼアートを実施し、龍神村の観光振興、地域振興に寄与することを目的とする。」と記されています。 1年生が、6月12日に田植えを行いました。また、8月8日に3年生が草取りを行いました、2年生は稲刈りを9月29日に行いました。 ◎収穫した田んぼアート米は、給食や3年生の「弁当作り」で活用させていただきました。</p>	
<p>(2)古紙古着回収 ◎校区の全世帯(約1400戸)に案内を配布し、年3回、6月、10月、2月の日曜日に実施しています。 回収で得た収益は、各学年の宿泊体験活動の費用に使っています。 ◎古紙古着回収は、昭和52年、旧下山路中学校から始まりました。その後、多くの地域の方々にご協力いただきながら、旧龍神村の全ての中学校で実施されるようになりました。 平成19年、龍神地域の3校が統合してできた龍神中学校も、学校と保護者、生徒が協力してこの取組を継続していて、龍神地域の古紙古着回収は、49年目を迎えています。</p>	
<p>(3)3年宿泊体験活動(沖縄修学旅行) ◎【生徒の感想文より】 平和記念資料館では、当時の学校の様子や生徒一人一人の顔写真、性格、亡くなった日、場所が記録されていた。16～19歳の子どもの運命は1日1回、ピンポン玉ほどの大きさのおにぎりだったと聞いて驚いた。亡くなる直前、親や友達に感謝の言葉を残した人もいて、聞いている人も悲しかったらと思う。米軍にうたれて死ぬくらいなら自分達で死ぬ方がましと考え、集団自決した人がたくさんいて、とてもつらい気持ちになった。</p>	

学校・園名	田辺市立中辺路中学校	公民館名	・中辺路公民館・栗栖川下分館 ・栗栖川上分館・二川分館
-------	------------	------	--------------------------------

学社融合における学校・地域の様子

中辺路地域学社融合推進協議会では、学校と保護者・地域の三者で、より発展的な関わりや、結びつきが強まるような取組が行えるよう、毎回活発な意見交換がなされている。本校の生徒たちはは少人数であるが、保護者や地域の方々の協力により、温かく見守られて学校生活を過ごしている。特に地域の方々がゲストティーチャーとして、着付け体験や調理実習、ミシンを使った制作等で支援をしてくださっている。

目 標	<p>学校・園・地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭、地域の持つ教育力を積極的に取り入れ、地域の施設や環境などを教育活動に生かすことを大切にしたい取組をめざす。 ・自然や地域の人とのふれあいを大切に、生徒自身に地域社会の一員としての自覚を持たせ、ふるさとを愛する心を育む。 ・地域行事やボランティア活動に積極的に関わる生徒を育成する。
--------	---



成果と課題（学校・公民館からの視点）



	成果	課題
学校	<ul style="list-style-type: none"> ・花いっぱい運動や清姫まつり、森林ボランティア等の活動を通して、地域の一員として自己有用感を高めることができた。 ・地域の方々がゲストティーチャーに引き、様々な行事や活動を行うことができた。生徒たちは専門的な内容を教わったり、地域の方々と交流を深めたりと、学校だけでは経験できない学びを得ることができた。地域の方々が学校に協力的で、良好な関係を築けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度は生徒数が減少するため、取り組む内容を変えたり、工夫したりする必要がありと考えられる。学社融合推進協議会等で話し合いを進めていきたい。 ・小規模校であるため、生徒たちは限られたコミュニティの中で過ごしている。地域や外部の方々と様々な行事や取組を通じて、生徒たちが広い視野で物事を考えられるように、より一層連携を深め関わりを継続していきたい。
公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館主催の中辺路文化祭では、生徒たちの作品を数多く出品し、多くの方々に見ていただくことができた。 ・文化発表会では、生徒たちの学習発表を聞いたり、作品展示を見たりし、取組の内容がよく分かった。 ・学校訪問では普段の授業の様子を参観し、生徒たちの様子を知ることができた。 ・学校の行事や活動の支援を行った。学校に足を運ぶことで、中学生とふれ合うよい機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館として、学校で取り組んでいる学習活動に地域全体がもっと関心を持ち、積極的に参加してもらえようサポートしていきたい。 ・花いっぱい運動以外にも、地域の各自治会や社会福祉協議会等との活動を通じて、老人会などとの積極的な交流を継続していきたい。 ・地域交流の行事や取組の充実を目指し、発展させていく。 ・公民館主催行事において生徒が参加しやすい環境づくりや参加促進につながる工夫を進めていきたい。

今年度の取組内容
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）


- ・第1回中辺路地域学社融合推進協議会
 - ・各学校の取組
 - ・学校運営方針
 - ・本協議会の年間計画及び収支予算書
 - ・児童生徒の様子
 - ・意見交流
- ・第2回中辺路地域学社融合推進協議会
 - ・夏の整備作業
整備作業は中辺路中学校と中辺路小学校で同日開催、時間をずらして行うことや学社融合推進協議会の委員の方から地域の方々や消防団の方々にも協力を呼びかけてもらうこととした。
- ・第3回中辺路地域学社融合推進協議会
 - ・小学校、中学校の学校訪問
小学校、中学校の順に学校を訪問し、各学年の授業を参観した後、児童生徒の様子について話し合った。
- ・第4回中辺路地域学社融合推進協議会
 - ・事業報告、決算報告
 - ・各学校の取組結果
 - ・来年度に向けて

特徴的な協働活動


【花いっぱい運動】
中辺路町を花いっぱいの町にしようという活動で、今年も全校生徒による花育活動が行われた。縦割り班の5班に分かれ、花の種を植えた。数日後にはかわいい芽が出始め、苗になるまで大切に育てた。その後、苗をセルトレイから牛乳パックを再利用したポットに植え替える作業を行い、地域の方々に苗を持って帰ってもらうため、中辺路コミュニティセンターと中辺路福祉センターの2カ所に花の苗を置かせていただいた。この時期になると苗を心待ちにしてくれている方がたくさんいてうれしく思っている。苗の横に置いてあった感想用紙には、たくさんの方々からの感謝のメッセージが書かれており、生徒はそれを見て地域の皆さまの役に立っていると感じ、大変喜んでいる。また郵便局や歯科医院等いつもお世話になっている中辺路町内の10の事業所等にも生徒が直接苗を持参した。受け取っていただいた方々の心に彩りを添えることができれば幸いです。

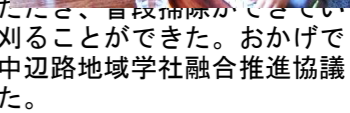
【清姫まつり】
今年も清姫まつりが開催され、本校全生徒が参加し「なか中ソーラン」を演舞させていただいた。舞台上上がり、お祭りに来ているの方々の前で、堂々と踊ることができた。中辺路地域の一員として、地域密着のお祭りに参加する機会を与えていただき、大変有意義な時間となった。





【職場体験学習】
2年生は、夏休み中の3日間で、中辺路町内にある8つの事業所で職場体験学習をさせていただいた。初めて「働く」経験をし、慣れない仕事に戸惑うことも多々あったが、この学習を通じて、働くことの面白さや大変さ、充実感、やりがいなどを肌で感じ取ることができた。



【夏の整備作業】
生徒、保護者、また消防団や串組様など地域の方々にも力を貸していただき、盲校掃除ができていない体育館や校舎の窓、サッシ等の掃除や校庭の伸びていた枝や雑草を刈ることができた。おかげでたいへんきれいになり、気持ちよく2学期を迎えることができた。また中辺路地域学社融合推進協議会からはドリンクをいただき、万が一のため保険にも加入していただいた。



【森林ボランティア】
どんぐりを拾って植え、苗木まで育てるという取組である。豊かな熊野の森を取り戻そうと活動をしている「いちいがしの会」の方々と一緒に作業を行った。成長した苗木は「いちいがしの会」に寄贈する予定である。次世代に豊かな森を残していく大切な活動となっている。

学校・園名	田辺市立近野中学校	公民館名	中辺路公民館近野分館
学社融合における学校・地域の様子 創立より地域との絆を密に紡いできた本校は、学校と地域が一体となって取り組む行事が多い。中学校も各実行委員会に所属し、その運営の一翼を担い、生徒・職員とともに主体的に参加してきた。近野区民体育祭、米作り、職場体験学習、近野まるかじり体験、近野フェスティバル・文化祭等の行事を通して、公民館や関係団体と連携し、地域とともに生徒の健全な育成を進めている。			
目 標	学校を含め地域の教育・文化の振興、児童生徒と地域住民の活力・健康の増進、地域福祉の増進等に関わる行事等を通して、教育上の諸課題解決に寄与するための取組を行う。 【学校】 ・地域での学習活動を通して地域を知る。 ・共同作業を通して、協調性を養い、共に助け合うことの大切さを学び、地域住民とともに伝統・文化を大切に、尊敬する気持ちを育てる。 ・地域の一員として地域の行事に参加し、地域に対する感謝の気持ちを表すとともに、地域の振興に貢献することで達成感を味わわせ、郷土愛を培う。 【地域】 ・児童生徒と地域住民との交流を通して、児童生徒・保護者・地域住民の相互理解を深める。 ・学校と保護者、地域の連携を密にして児童生徒の健全育成を図る。		
	校（園）区の推進組織（組織体制図） 		
		支援者及び支援組織 <ul style="list-style-type: none"> ・近野地域学社融合推進協議会 ・中辺路公民館近野分館 ・近野振興会 ・常会長会 ・中辺路町森林組合 ・JA女性会 ・近野まるかじり体験実行委員会 ・ひな祭り公演実行委員会 ・関西近野会 	
成果と課題（学校・公民館からの視点）			
成果 餅米作りの栽培過程における各体験をさせていただき、勤労の尊さを学ぶことができた。 地域のイベントである「近野まるかじり体験」で、自分たちで作った餅米を使って餅つき体験を行い、地域で収穫して加工したよもぎと組み合わせてよもぎ餅を作り、地域の活性化に貢献した。 各行事や体験学習を通して、地域の方々との交流が深まり、感謝の気持ちや先人を敬う心が育まれた。また、共同作業に取り組む中で、協調性や思いやりの心が育まれ、さらに集団としての結束も強くなり、学校行事等でもその力が発揮された。		課題 生徒数、職員数が少なく教育課程も変化していく中で、今までと同じような活動が難しくなっている。地域の方と協議をして、行事の精選、内容の検討が必要である。 屋外での活動は天候の影響を大きく受けるため、予定通りの実施が難しく、その都度他機関や地域の方々との調整が必要であり日程調整が難しい場合もある。	
学校	学校主催の行事（田植え・稲刈り・校舎周辺の清掃・草刈り等）に地域の方々が参加・協力をしたり、地域の行事（近野まるかじり体験等）に生徒が参画したりと、公民館行事を含むすべての行事が地域住民の交流を深め、近野の歴史・文化への知識を高める機会となっている。そして、地域の方々の視線を感じながら日々の生活を送ることが、生徒の健全育成につながる要素の一つであると考えられる。		
公民館（地域）	教育熱心な地域であるが、高齢化等の影響もあり学校そのものに対する関心が薄れつつあり、行事への参加者も固定化してきている。保護者以外の参加者・協力者をいかに増やしていくかが悩ましい。広報活動に工夫を凝らすなど、地域住民に関心をもってもらえるように働きかけていきたい。		

今年度の取組内容 会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）			
* 4月開催 【第1回近野地域学社融合推進協議会 定例会】 (1) 児童・生徒の様子を授業参観 (2) 協議 ① 職員及び生徒について ② 役職・年間計画・予算の承認 ③ 令和7年度小・中学校経営方針について ④ 学社融合推進協議会の委員と方向性を確認 ⑤ 修学旅行について	* 9月開催 【近野フェスティバル・文化祭実行委員会】 ① 目的・日程・内容について ② 野菜の販売・作品出品について ③ 役割分担について	* 2月開催予定 【第2回近野地域学社融合推進協議会 定例会】	
特徴的な協働活動			
「近野まるかじり体験」でのよもぎ餅作り 地域の方々のご指導・ご支援を受け、箱苗作りから田植え、稲刈りを体験して餅米を作り、地域イベント「近野まるかじり体験」で「餅つき体験・よもぎ餅作り」を行った。よもぎも自分たちで摘み取り、下準備をした。			
【箱苗作り】 	【田植え】 	【稲刈り】 	【餅つき】
職場体験学習 2年生は、中辺路町内の各事業所で3日間の職場体験をした。事前学習では、オフィスメイト株式会社から講師をお招きし、「ビジネスマナー講座」を行った。			
【ビジネスマナー講座】 	【Aコープ熊野古道 ちかつゆ】 	【民宿ちかつゆ】 	【パラダイスカフェ温川】
近野区民体育祭 	近野フェスティバル・文化祭 保育園、小学校、中学校、地域の作品展示を行った。小中学生の学習発表だけでなく、地域コーラスの演奏もあり、地域の文化・芸術の交流の場となった。	地域合同避難訓練 近野地域の防災訓練に小中学生・職員も参加し、地域の方と一緒に避難訓練と防災体験学習を行った。	
保育園、小学校、中学校、地域の合同で開催される体育祭で、最後には公民館主催のお楽しみ抽選会も催された。			

学校・園名	田辺市立大塔中学校	公民館名	大塔公民館
学社融合における学校・地域の様子 旧大塔村時代より、地域連携教育や小中一貫教育を推進してきた背景もあり、保護者及び地域住民は学校教育に協力的であり、育友会活動や学校行事への参加は積極的である。しかし一方では、共働きや一人親家庭の増加に伴い、平日行われる参観日等の出席率は低い傾向にある。また、昼間はほとんどの成人が旧田辺市など近郊に働きに出るため、大きな災害が発生した時など、地域で活動できる人材が不足することも想定できるのが課題である。			
目 標	学校・園・地域 ○大塔地域において、学校と家庭と地域が連携・協働し、子供たちの成長を支える学校づくりを進める。 ○鮎川小学校と大塔中学校の9年間を見通した学校運営を行う。 ○今まで培ってきた「大塔地域共育コミュニティ」の力を活用し、学校や地域の抱える課題を解決するとともに、これからの大塔地域を担う人材を育成する。 ○学校・家庭・地域それぞれが成長することを目指す。 ○学校・家庭・地域が連携しながら、災害に向けての防災の強化を目指す。		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
		○大塔公民館、各分館 ○田辺市自治会連絡協議会大塔支部 ○大塔女性会 ○大塔老人クラブ ○社会教育委員会 ○鮎川ふれあいスクール ○民生児童委員 ○田辺市保護司会大塔支部 ○社会福祉協議会 ○田辺市消防署大塔分署 ○青少年健全育成市民会議 ○大塔地区協議会 ○地球元気村実行委員会 ○あゆかわ保育園	
成果と課題（学校・公民館からの視点）			
成果		課題	
学校	・すぐるアプリを活用し、学校行事の参観を大塔CSに呼びかけた。その結果、学校行事の際に足を運んでいただき、生徒の様子を参観してもらうことができた。 ・保育園との合同避難訓練を実施した。園児の避難に中学生がサポートする取組を行った。また、昨年度と同様に休日防災体験学習を1月に実施する予定である。 ・図書ボランティアさんのサポートにより、読みやすく、借りやすい環境が整えられている。また本年度は読み聞かせサークル「ひまわり中辺路」さんが読み聞かせをしてくれて、生徒達に大変好評であった。 ・生徒が自主的にふれあいスクールボランティアに参加し、地域の方と共に小学生のサポート活動を行うことができた。	・学校だよりすぐるアプリを活用しながら、より地域に開かれた学校作りに努めていきたい。 ・図書ボランティアの方々のサポートを受けながら、図書室の本を大切にし、より快適な環境を整えていきたい。 ・生徒が地域のためにできることを考えて、立案・計画・実行できる環境を作っていきたい。	
公民館（地域）	○大塔リフレッシュ大作戦に加え、ふれあいスクール（小学生対象の放課後等子ども教室推進事業）に中学生ボランティアに参加していただくことにより、中学生が地域の先輩として、小学生と交流することができた。 ○図書ボランティアや、朝のあいさつ運動、CSだよりの発行、地域学習の支援などを通して、児童生徒に様々な学習支援、生活支援を行うことができた。	○地域での関わり合いが希薄になっているため、学社融合推進活動や公民館事業を通して、積極的に地域の交流を深める取組を推進していきたい。 ○定期的に中学生や小学生と地域の方々の交流は行われているが、それに関わる方々の固定化が課題である。より多くの方に関わっていただけるように、CSだよりの公民館だよりを通して活動を広報していきたい。	

今年度の取組内容 会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
○地球元気村への参加 ・各学年で中学生の考えた活動を実施する。 1年生 ボランティア活動 2年生 れんが屋カレー販売、ボランティア活動 3年生 SDG'Sプロジェクト学習展示及び発表	
○大塔リフレッシュ大作戦の在り方について ・本年度はゴミ拾いだけでなく、草引きや花植え活動を実施した。 ・小学生を中学生で挟み事故予防に努めた。 ・分別収集の方法の確認。最終分別は教育事務所で代表者が集まって行った。	
★休日防災体験学習について（1月実施予定） ・保護者及び地域の方々と中学生の交流を大切にしたい。 ・各関係機関の協力を得て、起震車体験、避難所設営及び防災グッズ体験、消火・煙体験をすることで災害に備えたい。 ・今回の体験学習を通じて災害時における地域での連携を深めたい。	
特徴的な協働活動	
○地球元気村の様子 1年生は体験の手伝いやゴミ袋を配布したりしてボランティア活動を実施した。2年生はれんが屋さんのカレー販売の手伝いをした。3年生はSDG'Sプロジェクト学習で取り組んだ内容を展示して発表した。	
○大塔リフレッシュ大作戦の様子 本年度は、ゴミ拾い活動だけでなく、大塔若者広場の草引きや花壇の花植え作業を実施して小中学生と地域の方々との交流を深めながら、地域の環境整美作業に取り組んだ。今後はより良い取組を考えていきたい。	

学校・園名	田辺市立本宮中学校	公民館名	本宮公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>本宮地域では共育コミュニティといわれる以前から地域連携教育を行っており、本宮地域学社融合推進協議会は、小学校2校、中学校1校と家庭、地域が一体となって連携・協働を行い交流を進めている。また、同協議会の主催事業として、児童・生徒と先生、地域住民が顔を合わせ交流する機会を提供し、より強いつながりを築くことを目的に「本宮つながりフェス」を開催している。さらに、本宮行政局ロビーに各校の学社融合の活動内容を掲示し、地域の方に取組の広報活動を実施している。</p>			
目 標	<p>本宮地域学社融合推進協議会発足前より、本宮独自で発生した取組である主な3項目、熊野古道道普請、古道ジュニア語り部、郷土芸能伝承は関係団体の協力を得ながら継続事業として引き続き実施していく。 また、地域を知ることを目的に歴史、産業などを学校支援者・支援組織の皆様との協力を得ながら学びの機会を創出していく。 本年度は学社融合推進協議会の定例会で、「本宮地域の魅力再発見」をテーマに協議した上で取組を進めていくこととした。</p>		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
		<p>育友会 熊野本宮語り部の会 田辺市女性会連絡協議会本宮支部 本宮町自治会連絡協議会 学校ボランティア 世界遺産熊野本宮館 熊野本宮伝統芸能教室 公民館サークル 学校クラブ活動協力者 和歌山県世界遺産センター</p>	
成果と課題（学校・公民館からの視点）			
成果		課題	
学校	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭などの学校行事や秋祭りでの出店など公民館行事を共に協力しながら実施し、地域住民との交流の場となった。 道普請やお花を植えて町に配布する活動を通して、この取組みが継続している意味を考え本宮の未来のために自分達が活動し、地域を支える存在であることを改めて実感できた。 学校の体験授業やクラブ活動に地域・各団体の方々に参加していただき、そのことによって支援者の方々に指導する喜びや生きがいを感じとってもらえた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後、生徒数の減少が見込まれており、継続可能な取組と、継続困難な取組について考えていかなければならない状況は避けられない。学社融合の趣旨を大切にしながら、長期的な展望を持って考える必要がある。今年度はプランターの配布数を行政と相談しながら減らす事にした。今後生徒数の減少なども考えながら継続的に関係機関と話し合っていく。 子供たちが学社融合の活動を通じた学びを故郷の魅力発信とし故郷に誇りを持てるよう、今後もその活動を支援していきたい。 急速な高齢化により、新しい学習パートナーを依頼することが難しくなっている。 	
公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> 運動会や秋祭りなど学校行事や公民館行事を共に協力しながら実施し、地域住民との交流の場となった。 本宮つながりフェスでは参加者全員で「本宮町でできること・やりたいこと」について意見を出し合うなど、つながりを深めることができた。 学校の体験授業やクラブ活動に地域の方や団体を支援者として紹介し、それにより支援者も指導する喜びや生きがいを感じられる機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 加速的に進む人口減少と高齢化の中、新しい学習パートナーの発掘に苦慮している状況にある。今後も学社融合活動についての趣旨や活動をコミュニティ通信や公民館報などで地域住民に情報を発信し、興味を持ってもらえるよう努めていきたい。 子供たちが生まれ育った地域を知り、理解する学習について地域住民に協力していただいているが、この学びを故郷の魅力発信とし故郷に誇りを持てるよう、今後もその活動を支援していきたい。 	

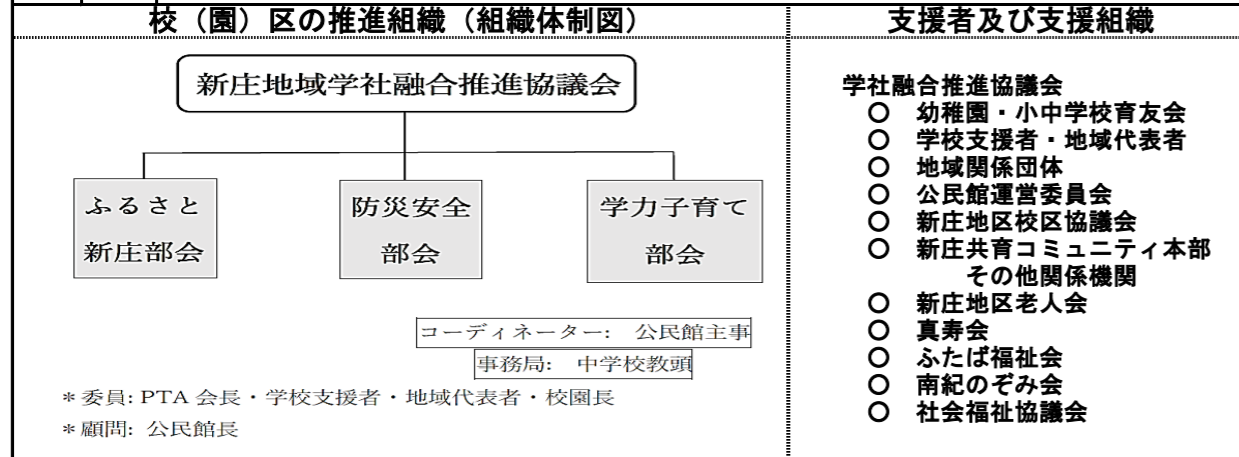
今年度の取組内容 会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
<p>○本宮地域学社融合推進協議会では定例会を年2回開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回定例会で承認された事業内容について取り組む。 承認された事業内容は、「各校と地域独自の学社融合の取組を継承しつつ、小中交流会などの合同開催や授業参観での公開授業、花植えボランティアなど地域と連携した行事を進めながら学社融合の取組を充実していく。」ことである。 ＜各校独自の取組＞・・・郷土芸能伝承、図書ボランティア、防災教室、福祉学習、社会体験教室、授業協力 等 ＜地域独自の取組＞・・・語り部ジュニア、熊野古道道普請 等 今年度は、第1回目の定例会において「本宮地域の魅力再発見」をテーマに、意見を出し合い交流した。様々な分野における魅力を取り上げていく中で、新たな魅力を発見したり、知っていた魅力に対しても別の見方による良さがあることに気付いたり、たくさんの魅力の“再発見”を共有した。 委員からの意見 今回の協議では、様々な魅力を交流する中で本宮地域の良さを改めて確認することができた。交流した魅力を学校や学社融合の場においてどう活用するかが、今後重要となってくる。 	
特徴的な協働活動	
	<p>●本中サポートボランティア 本宮中学校を全面的にサポートしてくれるボランティアの皆さんです。学校行事の様々な場面でお手伝いしてくれたり、生徒と一緒に活動に参加してくれています。図書室の新刊の本にブックカバーをする活動も行ってくれています。あらゆる場面で本宮中学校を助けてくれる頼もしい地域の皆さんです。</p>
	<p>●古紙回収（夏と冬の2回実施） 育友会活動の一環として、夏と冬の2回古紙回収を実施しています。本宮町内全戸にチラシを配布し、古紙回収を呼びかけます。当日は保護者と生徒が車で回収に廻ったり、学校で段ボールや雑誌類の積み込みを手伝ったりして作業を行います。古紙回収で得た収益の一部は生徒達の学校生活に還元されます。保護者、地域の協力があってこそこの活動です。</p>
	<p>●本中花咲プロジェクト（プランター回収、土作り、花植え、配布作業） 平成23年の紀伊半島大水害以降、復興活動として始まり現在は本宮を訪れる方々に「おもてなし」の気持ちを伝える景観美化活動として継続しています。約90個のプランターにパンジーの花を植えて、本宮町内に配布します。プランター作業ではボランティア、行政局の方々が関わってくれています。12月半ばに土作りを行います。1月初めにパンジーの花植えを行い、本宮町内に配布します。</p>
	<p>●三里まつりへの出店 キャリア教育の一環として、三里まつりに3年生が米粉を使った「たこ焼き」屋さんを出店しました。自分達で商品を考えたり、仕入れ、値段の決定など商売に必要な準備を行い、当日は150個以上売り上げました。地域の方々も中学生の参加をとて喜んでくれました。</p>

学校・園名	田辺市立新庄幼稚園	公民館名	新庄公民館
-------	-----------	------	-------

学社融合における学校・地域の様子

新庄地域では「共育コミュニティ」の研究指定を機に、学校と公民館が連携して学社融合を深化させてきた。そして、平成30年度からは幼稚園・小中学校が公民館と連携しながら地域全体で「学社融合推進協議会」を設置し、保護者や地域の皆さんの意見を取り入れた学校運営を進めている。また、各園・学校単位で学社融合推進委員会を設置し、園・学校ごとの取り組みも進めている。

目 標	<p>田辺市新庄地域学社融合推進協議会会則 第2条（目的） 協議会は、保護者及び地域住民等の学校運営への参画や、保護者等による学校運営への支援・協力を促すことにより、学校と保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善や園児児童生徒の健全育成に取り組むものとする。</p>
	<p>本校における学社融合の目標 地域の祭りや行事等への参加と、地域の伝統産業の調べ学習、地域の福祉施設との交流等を通して、伝統文化を継承するとともに、地域を愛する心を育てる。</p>



成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園長が小学校長と兼務であることから、以前よりも気軽に小学校に訪れることができた。 ・ 小学校への訪問回数が増えたことで、園児が小学校を身近に感じるようになった。 ・ 訪問回数が増えていくごとに、小学生が園児の名前を覚え、声をかけてくれることが多くなった。園児にとって、自分を知ってくれている人がいることが喜びになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2年間休園していたことで、地域との関わりが希薄化してきている。園から地域へ発信する努力をしていきたい。 ・ 園児数が少ないことで、『交流』という方法を取ることが難しい時があった。次年度は一緒に活動できる交流方法を小学校職員とともに模索していく必要がある ・ 地域への発信とともに、園児数を増やすための手立ても考えていきたい。
公民館（地域）	<p>地域の行事「新庄ぎおんさんの夜見世」「獅子舞」を通じて地域の方と触れ合い、伝統行事を次世代に伝えることができた。また、「しゃぼん玉遊び」では公民館主事3名、「クリスマス会」では主事2名が、いずれも直接幼稚園に出向いて支援することで、行事を順調に開催することができた。"□</p>	<p>休園からの再開の年であり、今年は主だった地域行事のみでの地域との交流となった。人数が少ないため保護者組織も事実上存在せず、地域との交流が広がりにつづいて、公民館が協力して交流を広げていく必要がある。</p>

今年度の取組内容
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

◇**学力子育て部会**
新庄地域の子供たちの学力向上に向けた取組を会としても進めていく。今年度は久々に教育講演会を実施することとなった。11月27日（水）、小児発達博士 西田千寿子先生を招聘し、「こどものレジリエンスと学び続ける力を育むために～心のしなやかさが学力の底上げを支える～」をテーマにご講演いただいた。教員、保護者、地域等から30名ほど参加し、子供たちへの関わり方について学んだ。

◇**ふるさと新庄部会**
1月10日（土）に小中学生と保護者を対象に新庄地域津波碑を巡るスタンプラリーを計画。新庄地域の自然や歴史、文化に触れ、より新庄を愛し保全していこうという意識、防災に対する意識を根付かせていきたい。

◇**防災安全部会**
1月17日、新庄幼稚園、新庄小学校、新庄第二小、新庄中学校そして新庄地域が合同で防災訓練を行う。新庄中学校、Big-U、清浄館の3カ所の避難所に分かれて、地震、津波、大規模火災発生からの危機回避行動訓練、避難所開設訓練を行う。



特徴的な協働活動

《**小学校との関わり**》
今年度より園児1名を迎えて再開園をした。園内だけでは、人と関わる機会が少ないため、小学校に協力を依頼し、小学生と触れ合える機会を増やせるように計画を進めてきた。園児が小学校の場やたくさんの方がいる場に慣れることを今年度の目標とした。定期的に小学校に散歩に出掛け、大休憩に低学年用遊具で一緒に遊ばせてもらったり、1年生の七夕の授業に参加させてもらったりした。また、同じ地域のこども園と1年生との交流の場にも混ぜてもらい一緒にゲーム遊び等を楽しんだ。

＜小学校訪問＞ ＜運動会の総練習見学＞ ＜1年生とこども園との交流＞



＜小プールを借りてプール遊び＞ ＜防火パレード＞ ＜校庭でダングリ拾い＞



＜校庭でお散歩＞ ＜1年生とこども園との交流＞



学校・園名	田辺市立三栖幼稚園	公民館名	三栖公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>三栖地域は、新興住宅地として他地域からの転入家庭が増え、本園の保護者も地域に知り合いが少なく、保護者同士や保護者と地域とのかかわりも薄くなってきている。本園では継続的に「人とのかかわり育ち合う」を研究主題として、友だちや地域の方とのかかわりの中で育ち合う保育を進めている。そうすることで、「自分が好き」「友だちが好き」「地域が好き」な子どもに育ちつつある。</p>			
目 標	<p>学校・園・地域</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学生、中学生、及び地域の方々とかかわる事で、お互いが育ち合う喜びや楽しさを味わう。 園児同士が、日々温かい関係をつくれるよう保護者や地域の協力を得られる園経営を目指していく。 地域と連携を取り地域の方に幼稚園の様子を知ってもらうことで、地域ぐるみで子どもを見守っていく意識を高める。 		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
学三三 社栖栖 融小幼 合学稚 推校園 進校・ 協推 議議 会会	<p>会長（公民館長）</p> <p>副会長（町内会長）</p> <p>委員</p> <p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域関係者 保護者 校園長 	<p>保護者</p> <p>三栖公民館</p> <p>三栖小学校</p> <p>衣笠中学校</p>
<p>・公民館主事</p> <p>・小学校教頭</p> <p>・小学校学社融合担当職員</p>			
成果と課題（学校・公民館からの視点）			
成果		課題	
学 校	<p>・昨年は荒天のため中止になった獅子舞が上三栖、下三栖とも雨の中であったが遊戯室を活用して実施することができた。地域の伝統文化にふれる良い機会となった。</p> <p>・毎年行っている防火パレードでは、地域の方々も楽しみにしてくれており園児たちにとって地域に貢献できたという自信につながった。</p> <p>・「えんだより」「ホームページ」等を活用して園での園児の様子や活動内容を保護者や地域に発信することができた。</p>	<p>・校区探検での小学生や職場体験での中学生との交流は、両者に取って大変よい経験となるのでこれからも継続していきたい。計画を立てた交流も必要だが、気軽に交流できる機会を作りたい。</p> <p>・園の行事に未就園児などを招待しているが、地域の皆様に来園していただく機会を今後も増やしたい。</p> <p>・衣笠山登山や防災パレード、七夕の笹飾りなど、地域に出向き地域の方とかかわることは、単に地域の名所だけではなく、地域の方の思いにもふれる機会となると考えており、できることを企画し実施継続したい。</p>	
公 民 館 （ 地 域）	<p>・園児とのふれあいを深めるため毎年行っている公民館と幼稚園の共同行事である衣笠山登山が熊被害防止のため、残念ながら実施を見送った。その他の行事については無事開催できた。</p> <p>・三栖公民館文化展で園児による舞台発表でダンスを披露してもらった。</p> <p>・運動会・学習発表会・クリスマス会・節分等の行事に参加し、地域で育つ子どもたちを体感することができた。</p>	<p>・今年度実施できなかった「衣笠山登山」を来年度は実施時期等を考え、取組をすすめていきたい。</p> <p>・園児数が減少傾向にある中、地域に根ざした幼稚園の活動を積極的に支援していく事が大切であると感じる。</p> <p>・公民館関係者の高齢化対策として、「館区内で新たな人材を発掘していきたい」と数年目から課題として挙げている。若干名ではあるが若手の人材が増えつつある。</p>	

今年度の取組内容 会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
<p>小中学校や地域との交流が無理なく継続してできるよう以下の活動を話し合い確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA和歌山、地域との交流 <p>おたまじゃくし、梅取り体験や親子サツマイモの植え付け等、地域の方やJA和歌山の職員と公民館主事の協力により、地域の教育力を活かして実施することができている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防火パレード <p>地域の方とふれあうことで、園児たちの地域への意識が高まることをパレードを通して感じた。自主的に覚えた誓いの言葉を地域の方が聞いてくださることで、自信と達成感を感じることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校との交流 <p>この交流が地域の幼稚園であるという意識を強くした。幼小中の教師同士が子どもたちの交流が大切である事を認識できており、今後も模索しながら継続することで三栖地域の子どもを育てる意識ができつつある。幼小連携についても取組を進める準備を始めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開かれた園づくり <p>公民館への作品展示は、幼稚園を知っていただく機会となっており、今後も取り組んでいく。</p>	
特徴的な協働活動 ～星見会や運動会の実施～	
<p>・毎年行っている「星見会」を今年度は三栖公民館の協力を得て行うことができた。参加者の呼びかけも園児や園児の関係者だけでなく、三栖地域在住の方々まで広げて行うことができた。当日は保護者や公民館主事に協力していただき、またたくさん地域の方々に来園してくれ盛大に実施することができた。また、本園の運動会では、園児、保護者が出場する種目だけでなく、小中学生や未就園児、未就学児も参加できる種目もあり地域の園であることを感じ取っていただいている。</p>	

学校・園名	上秋津幼稚園	公民館名	上秋津公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>上秋津地域では幼稚園・小中学校が公民館と連携しながら「学社融合推進協議会」を設置し、地域全体で子どもの健全育成を進めている。地域には町内会をはじめ、あらゆる組織、団体を網羅する「秋津野塾」という地域づくり団体が結成されており、町内会・公民館・愛郷会等の地元の団体から、様々な場面で支援をいただいている。</p>			
目 標	<p>学校・園・地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然や産業、伝統に触れる体験活動を通して地域の良さを知り、地域に親しみをもてるようにする。 ・小学校との連携を進め、安心して入学を迎えられるようにする。 ・小・中学校や地域の方と触れ合う機会を増やし、人と関わる楽しさや人の役に立つ喜びを味わうことができるようにする。 ・未就園事業を工夫し、地域の子育て支援の機能を充実させる。 		
		支援者及び支援組織	
<p>上秋津地域学社融合推進協議会</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・上秋津公民館 ・上秋津校区協議会 ・秋津野塾会議 ・上秋津地区民生児童委員 ・地域ボランティア ・あきつの運営委員会 ・社会福祉協議会 	
成果と課題（学校・公民館からの視点）			
成果		課題	
学校	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校を訪れる回数が増え、幼稚園を身近に感じてもらえるようになってきていると感じる。今年度は1年生が幼稚園に来てくれて、また新たな交流が実現した。人数差があるが、交流内容を工夫することで、楽しく有意義な交流となった。 ・公民館主事が園内の行事や未就園事業に参加してくれて、園児にとって公民館が身近なものになっている。4園交流会や中学校とのふれあい体験において、園児の移動のため公用車の運転もしていただき大変有難かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍や職員の異動で途切れた過去の実践を活かしながら、今の幼稚園の実態に応じた取り組みにしていくとともに、新たな地域資源の発掘に努めたい。 ・様々な体験活動を行っているが、子どもにとって、地域にとって意義ある活動になっているか常に問いながら、子どもの育ちをしっかりとみていきたい。 	
公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年に引き続き、園内行事や未就園事業など、公民館として積極的に関わることができた。 ・夏まつりでの地域の方々との交流や作品展での園児の作品の展示、地域の方に劇を披露するなど、幼稚園、地域、公民館による協働活動を積極的に展開することができた。 ・各種取組について、幼稚園との連携を密に取ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園ならではの地域に根ざした活動を積極的に支援していくとともに、地域全体とのつながりを深めていくことで、魅力発信につなげることができればと感じる。 ・今後も幼稚園との協働活動を展開していくためにも、園児にとって公民館がより身近なものに感じてもらうよう引き続き交流を重ねていきたい。 	

今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
<p>第1回学社融合推進協議会（4月25日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼小中のスクールプランを説明し、参加した委員から承認をいただいた ・協議会の予算の有効な活用について協議 ・幼稚園の未就園事業を、地域の保護者や幼児と交流する機会と位置付けたい <p>第2回学社融合推進協議会（10月28日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校で授業参観（全学級） ・各校園の取り組みについて交流 <p>第3回学社融合推進協議会（2月17日予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校園の取り組みと成果・課題について交流 ・学校評価アンケートについて説明 	
特徴的な協働活動	
幼小連携交流活動	
<p>～今年度の交流内容～</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇5月 小学校へ散歩・校庭で遊ぼう ◇6月 保健の先生に歯磨きを教えてもらおう・校庭で遊ぼう ◇7月 1・2年生と七夕集会 ◇10月 ようこそ上秋津幼稚園へ（新規） ◇11月 防火パレード～誓いの言葉聞いてね～・校内絵画展鑑賞 ◇12月 1年生と秋のものであそぼうの会・ダンス発表 ◇1月 図書室で司書さんによる読み聞かせ・校庭で凧あげをしよう ◇2月 1年生との交流会・年長児小学校体験入学 	
<p>◇11月 防火パレード～誓いの言葉聞いてね～・校内絵画展鑑賞</p>	
<p>◇12月 1年生と秋のものであそぼうの会・ダンス発表</p>	
<p>◇1月 図書室で司書さんによる読み聞かせ・校庭で凧あげをしよう</p>	
<p>◇2月 1年生との交流会・年長児小学校体験入学</p>	
<p>ようこそ上秋津幼稚園へ</p>	
<p>1年生が秋の遠足で地域に出かけます。途中で上秋津幼稚園にも立ち寄って交流する計画を、昨年から小学校が考えてくれました。</p>	
<p>具体的な交流内容は小学校と相談しながら幼稚園が主体となって考えました。はじめに歌を聴いてもらいました。</p>	<p>3グループに分かれ、ゲームをするためのお面づくりをしました。幼稚園の職員が作業手順を説明。ペアで作りました。</p>
<p>みんなでハロウィンバスケットをしました。「おぼけ」「かぼちゃ」「ねこ」のお面をかぶって楽しくできました。</p>	<p>小学生は園庭でお弁当を食べたあと、給食を済ませた園児と再び合流。園庭で一緒に遊びました。</p>
<p>「ばいばーい、またきてねー！」次の場所（ゆめひがし公園）に出発する1年生をお見送りしました。</p>	

学校・園名	中芳養幼稚園	公民館名	中芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子 「子どもの育成」「文化の継承」「交流の推進」の3つを柱に学社融合の取組を進めた。地域の方々や小中学生との交流を通して、園児たちは明るく伸び伸びと育ち、健やかに成長することができている。豊かな自然環境やいつも温かく見守ってくれる地域の方々、小中学生とのふれあいを大切にしながら、今後も行事の内容、実施方法等について地域や公民館、小中学校と連携を図りながら取組を進めていきたい。			
目 標	学校・園・地域 ・子ども達の学びや体験活動を充実させ、自分の住む地域を知り、地域のことを大切に思う心情を育む。 ・幼稚園や小中学校の取組や行事に地域全体で協力し、子ども達の成長を見守る意識を高める。		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
<p>中芳養地域学社融合推進協議会 (会長・副会長・委員10名)</p> <p>地域 公民館 幼稚園 小学校 中学校 PTA</p> <p>↓</p> <p>子供の育成 文化の継承 交流の推進</p>		・中芳養地域の方 ・中芳養公民館 ・中芳養小学校 ・中芳養町内会 ・中芳養中学校 ・老人会「芳寿会」 ・JAわかやま芳養谷支所 ・未就園児の家庭	
成果と課題（学校・公民館からの視点）			
成果		課題	
学校	・梅採り体験など豊かな自然との関わり、泉養寺、八幡神社の訪問など伝統文化との関わり、敬老祝賀会や夏まつりへの参加、老人会「芳寿会」さんや小中学校との交流など地域の人々との関わりを通して、園児たちは地域の方々に大切にされていることを実感することができた。 ・運動会や生活発表会をたくさんの地域の方々に参観していただいた。その中で競技や発表などの表現活動を行うことは、園児にとって大変有意義なことで、自信にもなり、自己肯定感の向上につながった。	・園として、地域から大切にされていると感じている。それは、地域と関わる行事の多さでもわかる。地域の方々の思いに応えることができるよう、これからも関わりを大事にしながら、見通しを持って取組を進めていきたい。 ・菜園活動については、地域の人材の手を借りるなどの方法も含め、今後の課題である。	
公民館（地域）	・学校（幼稚園、小学校、中学校、各PTA）と地域（町内会、芳寿会、消防団、JA等）で実行委員会を組織し、地域全体の行事として中芳養夏まつりを実施し、親子、子と子、地域の方のふれあいの場となった。 ・また、地域の方から中芳養の伝統ある盆踊りを教えていただき園児たちの郷土愛を深めることができた。 ・園児の日頃の活動等の様子を、公民館報に掲載し、地域に発信することで「地域で大切に育てていく子ども」という気持ちの醸成につながった。	・園児たちが様々な経験を積み、健やかに成長できるように、幼稚園と連携を密にしながら、地域交流の拠点としてできることを探していきたい。 ・公民館に親しみをもってもらえるように、園児との距離感を縮めていきたい。	

今年度の取組内容 会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
【小学校の授業参観】 ・小学校全学級の授業を参観した。	
【幼稚園・小学校・中学校の取組】 ・幼稚園、小学校、中学校のこれまでの取組を紹介した。また、今後予定されているそれぞれの行事について確認した。	
【学社融合の取組について】 ・これまで以上に、幼稚園、小学校、中学校と地域が一体となって学社融合の取組を進めていくことができるように、互いに連携して進めていくことを確認した。 ・キャリア教育の推奨として、地域の人話を聞く機会をつくってはとの意見があった。 ・古井橋の工事が始まることで、通学路の安全確保について確認した。	
特徴的な協働活動	
<<中芳養地域の方々との取組>> 【梅ひろい体験】 地域の方の梅畑で3年生と実施しました。J Aさんにも協力いただき、たくさんの梅を採らせていただきました。	
【中芳養夏まつり】 盆踊りを踊って、夜店を楽しんで、最後は花火で締めくくりました。	
【敬老祝賀会参加】 「敬老の日、おめでとうございます」とあいさつをして、「園歌」を歌って、「ヤングマン(Y・M・C・A)」を踊りあげました。	
【芳寿会さん交流】 園歌を歌い、ダンスを披露し、「お寺の和尚さん」で手遊びをして「ジャンケン列車」を楽しみました。	【八幡神社さん】 「お参りの仕方」を教えてもらい、「御輿」を見せてもらい、「馬場」を駆け回りました。
【泉養寺さん】 450年続いている泉養寺さん。10時を知らせる鐘を鳴らせてもらいました。大きな木魚にビックリです。	